

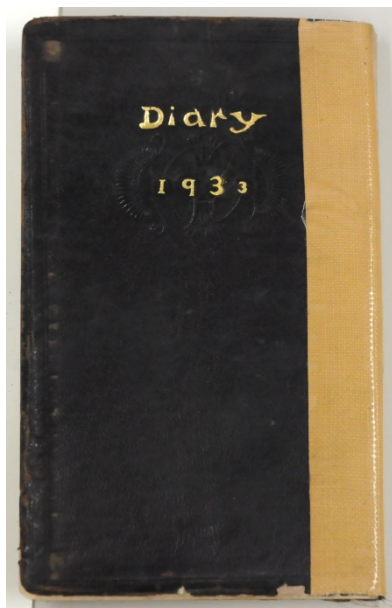


伊藤音次郎日記

1933(昭和8)年

文字データ作成: 一般財団法人 日本航空協会 2018(平成30)年6月

* お気づきの点などございましたら、ご教示のほどお願い申し上げます。



一般財団法人日本航空協会

航空遺産継承基金事務局

〒105-0004

東京都港区新橋 1-18-1

電話 03-3502-1207

ファクス 03-3503-1375

電子メール isan@aero.or.jp

禁無断転載 © 一般財団法人日本航空協会

▲▼2ページ▲▼ 昭和八年要記

財政ト健康ニ注意スル事
飛行場ノ設置運動
軽飛行機ノ製作実現及普及
羽田軍部関係研究ノ事

▲▼4ページ▲▼ 昭和8(1933)年1月1日(日)

天気 晴

快晴 朝昨年ノツカレガマダヌケナイカ眠カッタ 七時起床 日本晴レノスガ、シイ気分
御祝ヒ後夕方暗クナル迄年賀状(会報)ノ封筒ヲ書ク 局ダケ清平ニ書カセアト全部
ヲ書イタガ少シ残ツタ 明日ノ事トス

▲▼5ページ▲▼ 昭和8(1933)年1月2日(月)

天気 曇リ

午前中ニ昨日ノ残りヲ書キ終リ猪股ヨリ二十円借り切手ヲ買ヒ五円ヲ清平ニヤル
午後本年度ノ方針ニツキ考慮ス
高橋今朝治飛來 発動機手入レノ爲メ
安岡MDニテ交信社ノ飛行ノ爲メ上京 帰途三田浜ニ着陸ス
今朝長サンニテ六〇六五本目ト二十本目ノ蒼鉛ヲ注射ス

▲▼6ページ▲▼ 昭和8(1933)年1月3日(火)

天気 晴

温カイ晴レタヨイ日

七時起床 朝食前ニ成田山ニ参詣ニ行ク 道々本年度ノ方針ニツキ考ヘル 第一ハ財政
ニツキ大ニ努力スル事 第二ニ作業方針 第三ニ工場員ノ件。第四ニ世界ト我國ニ注意
シ軍部トノ関係ヲ考慮スルコト 個人トシテ健康第一主義
十時ミクジヲ引クト大吉トアリ。スベテ自分ノ感ジト一致スル様デアアル
警戒スベキハ日本軽飛行機普及会デアアル 万一ノ場合工場ニ及ボサザル様ニスル

▲▼7ページ▲▼ 昭和8(1933)年1月4日(水)

天気 薄曇り

鈴木伊一番早ク安岡昨日船橋ニ沈ボツシテ居タノデ見テヤル 帰ツテ居タ由 奈良原氏來。工場員出勤 普及会ノ連中全部來 尚数名同行者アリ 児玉氏モ來 丁度十一名ニナリ余ツテ困ルト思ツタ仕度ガ一ツモ残ラナカッタノハ丁度ヨカッタ。浅井児玉氏大分ヨツタ。十二時ヨリ席ニツキ自分ヨリ普及会ノ件ヲ発表シ尚今年ノ仕事ニツキ注意ヲ與ル アトニ奈良原氏普及会側ヨリ田辺氏ノ挨拶アリ 終ツテ酒ニナリ後チ二時過ギヨリ初飛行ニウツリ來客大部分同乗スクラブノ吉田ヨツテ大分苦シダ由

▲▼8ページ▲▼ 昭和8(1933)年1月5日(木)

天気 晴

本日ヨリ作業開始 各組長ヲ集メ方針ヲサツケル。年賀状ノ追加ヲ出シ、グライダー聯盟其他必要ナル手紙ヲ出ス
工場ノ傳票記入制度ヲ改メ毎日小傳票ニテ報告ヲサセ事務所ニテ記入スル事トス
午前中醫者ニ行ク

▲▼9ページ▲▼ 昭和8(1933)年1月6日(金)

天気 雨

昨夜カラ雪マジリノ雨 北風アリ 仕度シテ十時四十七分船橋發ニテ上京 局ニ行キ全部ノ人ニ挨拶ヲナス 少シ時間ハ早カッタガ日日二本山氏ノ告別式ニ行キ終ツテ鳥羽ビルニ新事務所ヲ見ル 四階ノ四十八号 七坪トノコト 椅子ヤ机ハ這入ツテ居タガマダナントナク、ガラントシタ感ジデアッタ。奈良原児玉氏モ見エタノデ一寸協会へ挨拶ニ行ク。丁度井上氏が会報ヲ讀ンデ居タ 一寸話シテ山本ノ奨励金願書ヲ出シ事務所ニ行ク シバラクシテ奈良原氏ノ言葉デ今日ハ日ガ悪イノデ顔合セトシテ不日事務所開キヲスルコトトシテ浅井奈良原児玉氏トクラブニ引上ゲル 浅井氏ノ話シテ四日ノ事ニツキ田辺大變不平ガアッタトノコトデアッタ 後チ奈良原氏ト茶ヲノミナガラ話ヲ聞クト田辺ヨリ浅井ヲ除外シテ呉レトノコトデアッタ由 尚今後ノ方針ニツキ自分ノ意見ヲ奈良原氏ニ述べ月曜日先生ノ会見ノ参考トス 五時過ギ帰宅ス

▲▼10ページ▲▼ 昭和8(1933)年1月7日(土)

天気 晴

川辺機体工場到着

▲▼11ページ▲▼ 昭和8(1933)年1月8日(日)

天気 晴

川辺アブロ組立中 工場休ミ

鈴木伊來 水戸部氏母堂死ンダトノコトニ水谷氏へ葬式ヲ聞キ合セタガ不在 丁度郵便デ明日葬儀ノ通知書來

夕方鈴木菊へ金二十円持參セシメ東京吉住へ電話シテ花環ヲ注文ス

▲▼12ページ▲▼ 昭和8(1933)年1月9日(月)

天気 晴

水戸部氏ノ葬式ヲ兼ネテ上京 局へ行き第一回ノ検査打合セラナス

協会デ山本氏ノ金三百円借リルベク立寄ツタガ総務理事満州ニ出張 十四五日デナイト帰ラナイトノコト

水戸部氏ノ葬式ニ行き引返シテ協会ニテ奈良原氏ト會フ 明日協会ダメナラ大橋氏ニ話シテ見ルトノコトニテ同道シテ帰宅ス帰宅ス

▲▼13ページ▲▼ 昭和8(1933)年1月10日(火)

天気 晴

昨夜中考慮シテ今朝山本平八郎氏ノ競賣ノ書類ヲタツサエ上京 協会ニ行き小野少将ニ依頼ス。スグ三百円出シテ呉レタ 案外ニ樂ニ行ツタノデ時間ガ早ク形付ノ奈良原氏ト會ヒ晝食ヲ共ニス 山本平氏二百円ト書類ヲ同封シテクラブニ額ヲ電話デ取りニ來ル様打合せス 出カケタ處へ岡田氏來 八十円ダケ渡シ、アート商会ニ行きアンザニールピストン29形ニテ形代十円位一個五六円位トノコト二十個注文シ飯沼ニ行きボールト百本貰フ 此頃ムネ悪ク困ツタガ急イデ大倉ニ行き丁度不在デアッタノデ薬ヲ貰ヒ水ヲノンダラ氣分ヨクナツタ

スグプロペラ受取り押上ニテ夕食後電車ニテ帰宅 八時頃

▲▼14ページ▲▼ 昭和8(1933)年1月11日(水)

天気 曇雨

終日床ニツク 別ニ悪イ處モナカッタガ、クタブレタ感じト眠リタリナカッタノト今日六〇六ヲ注射シタノデ例ノムネガ多少悪ルカッタ爲メ

午後菊池ト叔父ナル人來 地代値上ゲノ交渉 何等理由ナク要ハ鈴木ガ五錢デ借りテ居ルガ爲メ初メ四錢五分 次第三四錢ト云フोटデアッタノデ結局年三百三十円ニ

テ決定 今迄ヨリ八十余円値上ゲスルコトニナル
川辺西山入院セシムルトテ早朝上京シタル由
此頃和子元氣ヨシ

◆▼15ページ◆▼ 昭和8(1933)年1月12日(木)

天気 晴曇リ

其後ノ模様知リタク川辺へ行ツタラ今日モ西山ヲ連レテ病院へ行ツタトノコト 後チ天王寺谷ト久保田太來 今日カラ練習ヲ初メル予定ノ處川辺飛行機使用方契約出來ズ練習中止ノ置手紙ヲシテ帰リ居ナイカラ何ントカシテ呉レトノコト 実ニ虫ノヨイ奴等デアル。ガ川辺君ノ行動モ面白クナイノデ午後奈良原氏ニ一昨日鶴岡氏ト会见ノ様子ヲ聞キニ行ク 二人同道シタシトノコトニ同伴ス 鶴岡氏ハ單獨學校ヲヤリタク川辺氏ト手ヲ切りタイ意向ノ由 結果ハ明日決定スルトノコトデアッタ。鈴木伊買物ニ上京サセル
鈴木菊ヨリ金間ニ合ワズ 明日所沢ニテ渡シタシトノコト

◆▼16ページ◆▼ 昭和8(1933)年1月13日(金)

天気 曇リ少晴

北風強ク寒カッタ

午前中長サンニ行ク 血液検査ノ結果、十一デアルトノコト 丁度半分ヨクナツタ訳ケデアル

帰宅後川辺君來 二時間程話シテ帰ル 天王寺本日來ラズトノコト 今夜奈良原氏ヲ訪問スルコト

鈴木伊所沢へ拂下引取りニ出張 六時半旅費ヲ持参セシメ、鈴木菊ヨリ所沢ヨリ金受取ルベキコトヲ手紙ヲ持タセテヤル

夜呉來 川辺氏ヲ止メタイトノコトデアッタガ鶴岡氏ノ問題モ極ラナイ時ダカラ、キマル迄待ツ様ニ云ツテ居ク

◆▼17ページ◆▼ 昭和8(1933)年1月14日(土)

天気 晴 温度降ル

飯田一三式拡張試験羽田デ受検 安岡同道ス 奈良原氏來場前川辺君所沢ニ出張ス。天王寺谷ト契約ノコト奈良原氏及塚本氏ガヤツテ呉レルトノコトデアッタ 天王寺ト久保田來 塚本呼ビニヤル 昨日鶴岡氏ノ方ハ直營スル爲メ川辺君ニ機体ヲマカセナイトノコトデアッタ由 其爲メアトノ機体ヲ整備シテ久保田ノ練習生ヲヤルノダガ、ソノ

爲メニヤハリアノ機体ヲ使ツテ練習サセネバ、金ガ取レナイノデ、無断使用スルツモリトノコトデアッタトノコト 奈良原氏ニハ其件ニフレラレナイ様注意ス。塚本來リシモ何等川辺氏ヨリ委任セラレ居ラズ話シマトマナイ(ママ)ノデスベテハ今夜川辺帰ツテ決定スル様ニシテ打切ル

浅野來 川辺氏ガスグ帰レトノコトダガ帰リタクナイシ宗里氏ニ対シテモソソナコトガ出来ナイトノコトニ、シバラク知ラヌ顔シテ居レト云ツテ居イタガソレモ決シ兼ネ居ルラシカッタ

▲▼18ページ▲▼ 昭和8(1933)年1月15日(日)

天気 晴

北西風強ク安岡昨夜オソク帰ツテタ由ナレドモ足ヲ、クジイタ爲メ今日飛行出來ヌトノコトニ豊田ト三誓ヲ交信社ノ飛行ニヤル 二回ノ予定ノ處一回ニナル 二時半頃無事帰ル。後チアンリオ練習アリ 川辺機練習ヲヤツテ居タ。オイルユツクリ明ケルノヲワスレエンジンヲ燒ケ付カセタトノコト。其前天王寺谷久保田、塚本三名ニテ來 川辺氏トノ話マトリアトノアブロ整備タノム 金ハ内部検査後半金 完成後半金 久保田ガ銀行へ保管シテ居ルトノコト 然シ機ハ川辺君ノモノデアルカラ一應川辺氏カラ話シアル筈トノコト

午後水戸部氏來場 飯田ノ禮牀デアッタ。パイプヲ呉レタ

▲▼19ページ▲▼ 昭和8(1933)年1月16日(月)

天気 晴

風ナケレドモ冷タイ日デアッタ 海モ氷ツテ居タ。花ノ巻デハ〇下十三度余ノ由 珍ラシイ寒サ

難波氏初メテノ検査ナノデ會ヒタカッタガ十一時半迄待ツタガ來ラズ 上京ヲ急グノデ出カケル。一時普及会事務所ニ到ル。二時新契約ニ調印ヲ終ル。金ヲ呉レル筈ナノデ待ツタガツヒ三明日ノ事ニナル。児玉氏ト電話デ話シテ奈良原氏ト両国四時二十分ニテ帰宅 丁度山田航空官難波氏等食事中デアッタ 共ニ食事ヲナシ六時ヨリ羽田ニ於ケル航空燈台ノ試験ヲ裏ノ高台ヨリ展望 八時十分終了ス。本日川辺氏ヨリ何等ノ話シナシ

▲▼20ページ▲▼ 昭和8(1933)年1月17日(火)

天気 曇リ小雨

上京 局ニテ西川氏ニ發動機内部検査ノ打合セシテ事務ニ行ク。タレモ居ラズ飛行館ニ

テ奈良原氏ニ會フ 川辺君モ來。本間氏モ來 打合セシテ本間氏一人鶴岡氏へ行ツタガ話シダメトテ、スグ川辺君行ク筈ノ處中止ス
二時頃事務所ニ田辺君來 三時頃迄待ツタガ菅谷氏ツヒニ來ラズ。中野へ葬式ニ行ツタトノコト 明日ヲ約シテ奈良原氏ト帰ル

▲▼21ページ▲▼ 昭和8(1933)年1月18日(水)

天気 晴

十一時ノ約束ニツキ上京 局ニテ内検査表ヲ、西川氏不在ニツキ坂本氏ニ預ケ十二時前事務所ニ行ク 誰レモ居ラズ。弘益社へ電話シテ水野氏ト會見 三月一日飛行ノ件五百五十円 但十円カ二十円位ナラマケル余地ヲツケテ一両日中ニ返事アルコト 伊勢崎へ飛行ノ件 鈴木正十年式デヤリタイトノコト 百円ト云ツテアツタ由ナレドモ八十円デヤツテホシイトノコト 返事スルコトニス 二時半漸ク田辺氏來 シカモ小切手ニテ百五十円ヨリ呉レズ 住友ノ見積書ヲ見セ二百円入用ノ旨述べ、今日ハ兎ニ角スグ帰ルコトトシ安田ニテ現金ニカエ船橋迄電車。自動車ニテ津田沼駅ニ行キ運送店ニ一昨年來行キ懸リノ田浦ヨリノ運賃支拂ヒヲ終リ保管料十五円ホシイトノコトニ之レハ次回京都行キグライダーノ荷造費デ支拂フコトニキメテ電話料モ支拂ヒ帰ル 暗クナツテ居タガ丁度今試験ヲ終ツタバカリダトノ事ニテ山田航空官マダ居ラレタ。鈴木ニテタ食ヲ出ストテ同行ス

▲▼22ページ▲▼ 昭和8(1933)年1月19日(木)

天気 曇リ

野呂君同道霞ヶ浦ニ行ク 荒川沖ニテ井上、木暮、伊藤、山田都君ト會フ 下見ヲシタガ十年式ハクサツタ胴体ダケ 其他イヅレモ不良。関根ニテウドンデ晝食 入札予定價格ヲ百六十円 第二回二十円上リトシテ伊藤西氏ニ代表ト極メテ局事務所ニ行ク。本年本隊飛行長トナツタニ木氏ニ敬意ヲ表シ一時ノ汽車ニテ帰ル 伊藤西氏十年式賣リタイトノコト 七百五十円定期前ノ由 野呂氏ニ推撰シテ居ク
池本ガ借リテ居ルラジオヲ持ツテ來テ久シ振リデ聞ク
今日出張途中新聞ヲ見ル内今度船舶業者ノ爲メニ三千万円ノ資本金デ金融機関ガ出來タトノコトヨリヒントヲ得テ飛行機ノ保険ニツキ調査シテ見タイト考ヘタ

▲▼23ページ▲▼ 昭和8(1933)年1月20日(金)

天気 曇リ

鈴木横須賀入札ニ出張後弘益社ニ一日飛行ノ件ヲ交渉ニヤル

朝醫者ニ行キ六〇六ヲヤル 丁度四日休ンダ 終ッテ奈良原氏ニ行ク 昨日上京シテ
五十円受取ッテ來テ呉レラレタノヲ貰フ 一時間程話シテ正午帰場

▲▼24ページ▲▼ 昭和8(1933)年1月21日(土)

天気 曇リ夜雪

朝カラ寒イ日デアッタ 八時起床 ホトンド仕事ガ出來ナカッタ 意気地ノナイノニ自
分デモアキレル外ナカッタ。モット元氣ニナラナケレバナラナイ

発動機ノ内部検査ニ來ル筈ノ處今日モツヒニ來ラズ

塚本氏ヨリアブロ引取り困難ニテ所沢ニテヤラセル事ニ決定シタカラ悪シカラズトノ挨
拶ガアッタ。初メカラ自分ノ云ッテ居タ通りデアッタ。川辺君帰ラズ 奈良原氏宅へ來
ル様ニトノ事傳ヲ塚本氏ニタノム

夜ラジオヲ聞イテ十二時迄ニ眠リニツク

中君ヘイツクルカ返信料前納ニテ打電ス

▲▼25ページ▲▼ 昭和8(1933)年1月22日(日)

天気 雪

朝三四寸積ッテ居タ 今日モタ方迄終日降ル 小供等ハ大嬉(ママ)ビデアッタ
クラブノ関口沖繩ヨリ帰ル 世間ノ苦勞ヲシタノデ大分角ガ取レタラシイ

▲▼26ページ▲▼ 昭和8(1933)年1月23日(月)

天気 晴

鈴木ヲ上京サセ卅一日飛行ノ願書ヲマトメサセル

▲▼27ページ▲▼ 昭和8(1933)年1月24日(火)

天気 晴後曇リ

鈴木昨日水戸部氏ニ會ワズ帰ル 今日国民クラブノ新年会ノ爲メ上京。前奈良原氏ニ
ヨル 病氣デ寢テ居ラレタ。今日行ケナイカラトノコトニ菅谷外二名ノクラブ会費預テ
居ルトノコトデアッタガ一円ダケ受取り上京 クラブニ支拂ヒ領収書ヲ田辺氏ニ渡ス
正午ヨリ新年会 二時過ぎ終ル

児玉浅井氏ト會談 新契約ニツキ不平ガアッタ

帰途日日ニヨリ大蔵ニ會ヒ、社ノ仕事ノ事ト航空神社ノ金ノコトヲ話シテ帰ル

▲▼28ページ▲▼ 昭和8(1933)年1月25日(水)

天気 晴

水戸部ノ金ト卅一日飛行警視廳ノ願書ヲ出ス爲メ鈴木上京 夜水戸部氏ト會エズ泊ルトノ入電アリ

クラブガソリンニ困ル 猪又ヨリ二十円借り十六円クラブへ渡ス。飯沼ヨリサル取りニ來カストルガソリン入ルトノコトニ、困ツタガ石井ニ談ジテ漸クカストルーガソリン四持参カストル一不足ノ爲メクラブノ分ヲ借リル。今夜此金ヲヤル筈ノ處、鈴木帰ラズ 鈴木正憲ヨリ十円ダケ這入ル アト明朝持参ノ由

鈴木菊ED、鈴木正憲破損ノ分修理ナリ菊雄ニ引渡ス 修理費四十五円也

▲▼29ページ▲▼ 昭和8(1933)年1月26日(木)

天気 晴

鈴木夜漸ク帰ル シカモ金少シモ持ツテ帰ラズ ゴム紐全部支拂ツテ來タトノコト

夕方クラブ卒業生五名集メ意見ヲ聞ク 就職ニツイテハアキラメテ居ル爲メ多ク希望ヲ持タズ タゞ今少シ乗ル機會ヲ多クホシイトノコト。ソレハ自分ガ心配シタ通りデアッタ。色々意見ヲ聞ク

夜又眠レヌマ、クラブノ助教制度ト派出飛行士制度ニツキ研究ス

▲▼30ページ▲▼ 昭和8(1933)年1月27日(金)

天気 晴

東京ニテ今朝○下三度余ノ由 何シロ冷々トスル日デアッタ

鈴木正憲十円持参 安岡ニ先日ノ借ヲ返シ後チ奈良原氏へ廿四日ノ報告ニ行キ二円置イテ帰ル

帰途宗里ニ一寸立寄ル

夕方佐々木泰助君來 今日アプロコワシタトノコト 上翼ニ一枚ホシイトノコトニ明朝調べテヤルコトニス

▲▼31ページ▲▼ 昭和8(1933)年1月28日(土)

天気 晴

終日在所 八九月分ノ決算ヲ終了

奈良原氏來場ニ行キ明日模型協会ニ出席ノ有無ヲ打合せル 田中博士死亡ニツキ上京スルカラ花環ヲタノムトノコトニ金五円ヲ渡シ花環屋へハ電話シテ注文ス

▲▼32ページ▲▼ 昭和8(1933)年1月29日(日)

天気晴

模範飛行協会ノ件ニテ上京 ○時半着 タレモ來ズ 二時頃漸ク開會ニ到リ四時半頃終ル。鈴木氏ヲ除ク事ニツイテノ意見ハ一致シタ 後チ更生ニツイテハ會則改正ニ各自意見ヲ記入シテ再度持チヨルコトニ決ス 吉村氏へ鈴木へノ広告料ノ内十五円ダケ渡ス 帰途元井へヨリ四十円内入 外二十八円ノ買物ヲナス 大蔵ニ會ヒ航空神社寄附金五十円受取ル

▲▼33ページ▲▼ 昭和8(1933)年1月30日(月)

天気晴

上京 船橋へヨリ修理ノ状況ヲ見テ上京 局ニテ輕飛行機計算書ノ件ヲ聞キ合セ飛行館ニ行キ川辺君ニ會フ 大分ツカレテ居ル様子デ、カワイソウデアッタ 兎ニ角責任者ガ居ラナイ事ホクナイカラ帰ル様ニ云フ。普及會ニヨル 奈良原氏丁度居ラレ小切手ニテ三百円受取ル 明日ノ予定ガ早クナツタノデ面喰ツタ位デアッタ 奈良原氏二十円入用トノコトデ渡ス爲メニ佐野商店へヤル五十円分四十円ニツタガ持ツテ行ク。日暮里ニテ川辺君ト丁度一所ニナリ共ニ帰ル 大ニ静養ヲ進メル 尚成ベクナラ且代ニ一任シテ、インタイスルコトヲ進メル 本人モ、ソウナレバ大變結構ダト嬉(ママン)ンデ居タ

▲▼34ページ▲▼ 昭和8(1933)年1月31日(火)

天気晴

船橋へ佐々木ノ堪航証ヲ渡シヨリ上京 押上ニテ金太郎ニ先キニ安田銀行へ取リニヤツテ三百円ノ内ヨリ式百五十円ヲ工場へ 五円ヲ内へ 四十五円ヲ受取リ洲崎ニ直行 一時頃全機集合 全操縦士ヲ集メ一通リ注意事項ヲ話シ高橋機ノガソリン補給ガ遅レタ爲メニ三時二十分ヨリ飛行開始 高橋旗一回失敗シテヤリ直シ 三時三十五分全機離陸ト一編隊ノ鈴木機速力オソク編隊不良 第二六終始ヨカッタ 四時半無事終了 飛行館ニ行ク。高山ニ、十五円渡シ片岡ト連レ立チテ新橋ヨリ乗車 七時頃帰宅 後夕食

鈴木伊來 今日ノ模様ヲ話ス

▲▼36ページ▲▼ 昭和8(1933)年2月1日(水)

天気晴

昨日ノ集金ト局検査ニ鈴木上京サセル

英商会ガソリン代請求電話アリ

弘益社ヨリ昨日神田上空ヲ飛バナカッタノデ金ガ取リニクイトノ電話アリ

◆▼37ページ◆▼ 昭和8(1933)年2月2日(木)

天気 晴

局へ電話スル 明日検査ニ來ル由

鈴木ニ午前中工場員ノ支拂ヒヲサセ午後アト金取リニ上京サセル

午前中水谷氏來場 午後伊藤西夫氏國スイ航空ノ工藤氏來 アンリオ賣渡シタトノコト。終ツテ4中ノ教師二名鈴木正憲ノ飛行機ニ同乗ニ來 雑談ノ後徳次入學ニツキ右手動カナクテモ入學出來ルヤ聞ク 前ニモソウ云フ學生ガ居タコトアル由 尚其上三丁度來ラレタ先生ガ西式ノ療法ヲヤラレテ、小兒麻ヒハ数名直シタ經驗ヲ持ツテ居ラレルトノコトデ早速學校へ電話シテ徳次ヲ呼び返シ見テ貫ヒ療法ヲ教ワリ今夜カラ家内ガ実施スルコトニナル

三時半頃航空婦人ノ坂本氏來 森サンカラ伊藤ノ處へステテヲ委任シタ方ガヨカロウト云ワレタトノコトデ見積リヲシテ呉レトノコトデアッタ 七日頃迄ニシテ呉レトノコトデ引受ケル

今日ハ非常ニインガシカッタ 塚本氏御原氏へ照(ママ)介状ヲ呉レトノコトニ書イテヤル

◆▼38ページ◆▼ 昭和8(1933)年2月3日(金)

天気 晴

正午南波氏來 伊藤氏アンリオ検査一人デアッタノデ大變ヨカッタ 角度表ガ出來テ居ナカッタノデ、ニワカ作リヲ出シタ處方向舵ノ動キ少ナク大ミス。外ノ検査官ナラトテモ通ラナカッタ

夕方オソク終ル 伊藤西夫氏買受人工藤氏モ來場 試飛行ニ上仲ト黒沢ヲヤラセタ處コイツガ又時間通り飛バズ大失敗ス。ソレデモ無事終了ス

◆▼39ページ◆▼ 昭和8(1933)年2月4日(土)

天気 晴

九時ヨリ上京 局ニ行ク 伊藤氏ステニ來場 昨日手直シノアッタ處ガ出來タラ堪航証ヲ出ストノコトデ津田沼カラ報告ヲ待ツ由 十一時過ギ南波氏ニ依頼シテ、森サンニ満州飛行ノ件ニツキ不明ノ點ヲ聞キ合セズット田中先生へ児供サンノ御祝ニ行ク マダ産院カラ帰ラレズ 先生モ不在デアッタノデ祝品ヲ預ケ居合セタ清平ト同道 清平ヲ飛

行館ニマタセ、伊藤氏宅へ行く。マダ津田沼カラ報告ガナク局デ待ツテ居ルトノコト津田沼へ急報ニテ電話シテ報告ヲサセルコトニ打合せ、スグ局ニ行ク。丁度報告ガツイテ居タ處デアッタ。堪航証出ル。飛行館ニテ塚本君ニ會フ。鹿兒島ヤルコトニ決定。禮トシテ二十円呉レル。意外ナ収入デアッタノデ内十五円ヲ、グライダー社ノ分トシテ吉村氏ニ渡ス。川辺氏ヨリ田中ノ機体引上ゲヲ工場デヤツテホシイトノコト。明日コ、デ會フ様ニスルトテ所沢へ電話シタガ居ラズ月曜日ニナル。清平ヲ伊藤氏へ金取リニヤル。百円ダケ小切手デヨコス。昨日ノ約束ノ三分ノ一二足りナカッタ。弘益社ニ行ツタガ之レモダメ。清平ニ受取ラセルコトニシテ名刺ヲ渡ス。日活館デ米国ゲキメツ艦隊ヲ見ル。サホドノモノデナカッタ

▲▼40ページ▲▼ 昭和8(1933)年2月5日(日)

天気晴

伊藤西夫氏工藤機、久シ振りニ諏訪君來。アンリオヲ引渡シ立川へ無事到着ス。右ノ爲メ今日ハ一日何シモ出來ズ。金持参スルトノコトナリシニ持参セズ。明日必ズ夕方來テ呉レトノコトニ五時カラ六時迄ノ間ヲ約シテ分レル

▲▼41ページ▲▼ 昭和8(1933)年2月6日(月)

天気晴

出懸ケカラ、間ガ悪ク上京○時七分ノ汽車ニナル

局ニ行キ森サンニ満州飛行見積リ書ヲ見セル。大分高イトノ意見デアッタ。飛行館ニテ坂本氏ニ會フ。坂本氏モ予想外ノ様子デアッタノデ、實際ノ見積リ予算等スツカリ見セル。要スルニ満州ニオケル旅費ガ多分ニ見積ラネバナラナイ事ヲ力説シテ居ク

鳥羽ビルノ事務所ヲ見セル。十日頃回答スルトノコトニテ分レル。川辺君ニ會ツタガ田中來ラズ、明日又來テホシイトノコトデアッタ

伊藤氏へ約束ノ通り六時ニ行ク。不在。明日ニシテ呉レトノコト。高井氏デハケンカニモナラズ。電話ヲカケテ高橋今朝治ガ待ツテ居ルノデ話シテ返シ帰宅。川辺君ト電車デ一所ニナル

今日午後川辺アブロ鶴岡氏分大破シ由

朝カラ痛ンダガタ方カラ右頭部神経痛ラシク閉口ス

弘益社分二十円清平ニ渡シタル由

▲▼42ページ▲▼ 昭和8(1933)年2月7日(火)

天気晴

昨日ヨリハヨイガヤハリイタンダノデ鈴木ヲ上京 伊藤氏集金ニヤル。奈良原氏來場
直昇出資者來場スルトノコトニ待ツタガ來ラズ 十二時半頃電話ニテ十一日來ルトノコ
ト。佐々木泰助外一名來 一五式見積書ヲ至急入用トノコトニ明日持參スルコトニキ
メル
少シ床ニツコウト思ツタガ次ギカラ次ギニ來客アリ 夕食後早く床ニ入ル

▲▼43ページ▲▼ 昭和8(1933)年2月8日(水)

天気晴

伊藤氏ノ金取りニ鈴木上京 今日ハ一日氣持チノヨクナイ日デアッタ。局検査願ヒモ
持タセテヤル

川辺君ヨリ電伊藤氏結局百五十円ダケ十八日小切手ニテヨコス 不都合千万ナ人ダ

▲▼44ページ▲▼ 昭和8(1933)年2月9日(木)

天気晴

伊藤氏ノ小切手ヲ現金ニカエタク久保田太ニ話ス。ヨカロウトノコトニ鈴木ヲツケテ晝過
ギニヤッタノニ五時頃ニナツテヤット帰ッテ來テ結局自分ニ対スル悪口ヲ聞イテ帰ッダ
ケデ金ニナラズ 鈴木ニモアキレタガ久保田ノ非常識ニモアキレル

明日拂下引取りニ出張ニ金ガ入ルノデ黒沢ニ五円借り石川ヲヤルコトニス

今日八午前中床ニツク

川辺君ヨリ電話ニテ所沢ノ機体カハリ持ッテ來ラレナイトノコトデアッタ

▲▼45ページ▲▼ 昭和8(1933)年2月10日(金)

天気晴

駒林氏九時半頃來 イツモナガラ勤勉ナ眞面目ナ人デ敬服スル 畠山君ノ方ガ一時
間モアトカラ來タ。機体ハ鈴木ノアプロトグライダーヲ終ル 発動機鈴木ノアプロ用受
檢セシモ、シリンダー新品ナレドモ重量ニ不同アリ 畠山氏ニテ判断ツカズ月曜日更ニ
來ルトノ事デアッタ

晝頃三田浜ヨリ電話ニテ鈴木正十年式ニテ負傷セリトノコト。鈴木伊ヲツケテ自動車
ニテ母堂ヲヤル 第二報ニテ負傷ノ程度重キコトヲ知ル 局へ電話シテ駒林氏ノ臨檢ヲ
乞ヒ機体取方付ニ四名出張サセル

普及会ノ田辺氏一行七八名來場 全部同乗飛行ス 内小林氏ナル人ノ小供クラブニ
入学 軽飛行機一台購入スルトノコトデアッタ。ソナコトデゴタ、シタ方三田浜ニ行
ク 行違ヒニ病院へ行ツタトノコト スグ引返シ途中ガソリン屋ニテ鈴木ニ會ヒ小切手デ

漸ク五十円ダケ現金ニナル。渡辺へ千葉ヨリ第一外科醫長ノ鈴木氏來 下ガク骨ヲ先
ツ手入レ 後左ヒザ下ヨリ切断ス 七時頃手術ヲ終ル 輸血ヲ行ヒ、落付クヲミテ帰宅
ス
本人ハ大分用心家デアッタガヤハリ丁度誰レモ一度ハ経験スル奇驗(ママ)期デアッタノガ、
ワザワイシタラシイ

▲▼46ページ▲▼ 昭和8(1933)年2月11日(土)

天気晴

奈良原氏直昇出資者來場ノ爲メ在所 奈良原氏十時頃來場 一行十二時半頃來場
工場及直昇參觀後式名同乗飛行シテ帰ル 終ツテ船橋ニ行キ見舞フ 經過ヨイトノコ
ト 丁度川辺君ト一所ニナル 長サンへ注射ニ行ツタガ不在ニテ明日ニス 帰ル
清平來 泊ル 月謝ヲ取りニ來タノダロウ 一工夫ヲ要ス
麴町警察署ヨリ明日午前十一時迄ニ出頭セトノコトニ同署へ電話カケテ代理ナラ明
日行クガ本人ハ明後日ニシテ貰ヒタイト云フト代理デヨイトノコトニ鈴木伊ヲヤルコトニ
ス

▲▼47ページ▲▼ 昭和8(1933)年2月12日(日)

天気 晴曇

昨夜小雪アリ 仕度シテ船橋へ行く予定ニシテ居ルト丁度十時頃佐倉中學ノ先生一名
來 飛行機ニツイテ一時間半程話シ晝食ヲ共ニス 同乗ヲス、メタガ乗ラナカツタ
二時頃ヨリ船橋へ見舞ニ行キ尚保証人トシテノ入院手續キヲナス 手術料其他ノ請求
書ヲ貰フ 丁度百三十一円。今日看護婦一名ニハラス 經過ヨシ。二時間程居テ小學
校ニヨリ、テンラン会ヲ見テ後チ野崎先生(徳治ノ先生)ニ會ヒ中學受験ニツキ佐倉ト
千葉へ願書ダケ出シテ居クコトノ打合セヲナス。帰途畑道ヲ工場ノ裏迄歩ク 十数年
居タガ初メテノ道デアッタ
伊藤西夫氏ニ朝電話シテ二十円ガソリン代取ルコトニシ清平ニ渡シテ貰フニキメ領収書
ヲ持タセテ帰ヘス

▲▼48ページ▲▼ 昭和8(1933)年2月13日(月)

天気 晴

霜ノ深イ朝デアッタガ午後アタハカニナル
船橋ニ立寄り正憲ノ印ヲ貰ヒ上京 局へ寄り写真ヲ提出 事故報告用紙ヲ受取り貰
ヒ飛行館ニ行キ奈良原氏ニ會フ 協会ニテ正憲分式百五十円借りル。弘益社水野氏ト

飛行館ニテ會ヒ十五日飛行ノ願書ヲ作り正憲分五十円受取ル 警視廳ニ願書ヲ出シ
アート商会ニ行キ榊原氏トピストン、ヤクラツチノ件等ニツキ話シ會フ ピストンガアト
五日位ニテ出來ル由

時間ガ早イノデ日日新聞ニ寄ル 大藏ニ會フ 和田氏不在 近ク十年式整備ノ予定ノ
由

五時飛行館ニ歸リ奈良原氏ト會食中鶴岡、本間氏來 共ニ會食 川辺氏ノ件ニツキ話
シアリ 今迄ノ機体ヲ修理シテ呉レトノコトデ定期ノ費用ダケハ鶴岡氏出ストノコト
終ツテ講堂デ活動ヲ見ル 八時半終ル 帰途日暮里ニテ川辺君ニ會フ 明日鶴岡氏へ
來へ(ママ)呉レトノコトノ事傳ヲ傳ヘル。クワシクハ奈良原氏ヨリ話シテ居ラレタ

▲▼49ページ▲▼ 昭和8(1933)年2月14日(火)

天気 晴

鈴木ヲ船橋へ金持タセテヤル

上田アンリオ分解保存スルコトトス 昨夕刊ニヨレバ、ツヒニサキ罪ニテ市ヶ谷へ收容サレ
タル由

正憲機船橋ヨリ引取ル

佐々木泰介君アブロニテ飛來 發動機手入レヲ東亜ノ室ニテヤリタイトノコト承認ス
数日前取ラレタイスパノピストン今日夕方駐在所ニテ受取ル 合計五十一個アッタ 古
金ニシテ一寸五十円バカリノ品

野呂君ノ依頼ニテ所沢ノ田中ノ十年式買入レ交渉 八十円ニテ折レ合フ 野呂君ノ報
告買ヒ取リタイトノコト

浅井氏來 プラッグノ小林氏同伴者ヲ同乗サセテ呉レトノコトデ乗セル

▲▼50ページ▲▼ 昭和8(1933)年2月15日(水)

天気 強風

北風強ク本日弘益社ノ飛行不能。ケイシ廳ノ許可ニ荒天順延ヲ書キ入レナカッタノデ
鈴木ニ其手續キヲ取ラセル 追加願書デヨイトノコトニ三溝ノ判ヲ取ルニオソクナリ夜
八時頃、船橋ニテ發送サセル

▲▼51ページ▲▼ 昭和8(1933)年2月16日(木)

天気 曇リ

本日ノ飛行手續キ出來ズ弘益社ヨリ再三八ヶ間敷ク鈴木正午ヨリ上京ス 後吉村君
ニ電話ス 今日ハダメ 明日以後三日間許可シタトノコト

昨年度ノ決算ヲ終リ帳簿ヲベル

佐々木泰介一五式契約書ヲ作ツテ呉レトノコトニ書ク

▲▼52ページ▲▼ 昭和8(1933)年2月17日(金)

天気 雪

午後奈良原サンへ行ク マダ受取ツテ居ラレズ直昇ノ方モ廿五日ニ金受取ルコトニナツテ居ルトノコト。明日念ノ爲、上京スルトノ事デアツタ。川辺君ノ事ニツキニ三相談シテ帰途五時頃渡辺醫院ニヨル 丁度千葉カラ二人醫師ガ見エ相談中デ切断部ガ大分、カノ一シテ居ルノデ今日手術スルツモリラシカッタガ熱ガアルノデ中止シモウ一日様子ヲ見ルコトトナル

今日ハ豊田カラ一円借リテ漸ク奈良原へ行ツタノデ、ドウモ入金ノナイノニ閉口ス

▲▼53ページ▲▼ 昭和8(1933)年2月18日(土)

天気 晴

朝マダ曇ツテ居タガ次第二好晴トナル

船橋へ二回電話テ状況ヲ來(マ)ク 今日ハ手術セズ 輸血ダケヤルカラ人ヲヨコシテ呉レトノコト。工場渡辺、ハニ山、クラブ萩原三名ヲヤル

鈴木機ニテ三溝君弘益社ノ飛行ニ行ク 充分ニ飛ンデ來タ由 無事帰ル

佐々木ノアブロ発動機手入終ツテ今日正午過ぎ船橋へ帰ル

大坂橋本ヨリイックルカトノ電報アリ 返事ヲ明朝迄延バス

▲▼54ページ▲▼ 昭和8(1933)年2月19日(日)

天気 晴

八時半起床 食後船橋ニ行ク 橋本国雄へ大坂行キノ電報ト手紙ヲ出シ散髪ヲシテ長サンニテ十一本目ノ六〇六ヲ行フ 次ギノ火曜日頃血液検査ヲ行フコトトス

渡辺ニヨル 昨日工場渡辺ノ血ヲ輸血シテ今日ハ大分ヨサソウデ母堂ノ顔色モハレヤカデアツタ

佐々木君ノ電話ニテ一五ヲ見ニ行クトノコトニ帰宅 途中自動車ニ會ヒ共ニ帰着。野村茂久馬氏外一名同道工場ヲ見テ帰ル 明日來ルトノコトデアツタ

夕方午後久保田太アブロニ飛來 遠藤ニテ購入シテ來タノデ練習ヲヤラセテ貰ヒタイトノコト 川辺氏ノ方ノ諒解ヲ得タ上ナラヤラセルト返事シ居ク。機体ハ夕刻兎三角格納セシメル。天王寺谷來ルトノコトナリシモツヒニ來ラズ

▲▼55ページ▲▼ 昭和8(1933)年2月20日(月)

天気 晴

アタ、カイロデアッタ 鈴木上京サセル 局鈴木正事故報告書提出、弘益社金受取りト普及会金受取りノ爲メ

川辺君上京 四時頃飛行館ヨリ電話ニテ天王寺谷ト会见 練習ヤラセテモ差支ナシトノ事

普及会弘益社共ニ金ニナラズ

安岡九州出張中ノ處今日夕方三田浜ニ帰ル 着陸前発動機停止ノ爲メ海岸ニ不時着 逆立トナル

▲▼56ページ▲▼ 昭和8(1933)年2月21日(火)

天気 晴

佐々木君來 一五契約 内金五百円入。鈴木ニ工場員ノ支拂ヲ調査サセ明日支拂フコトトシテ中台へ百円拂ヒ自分アンリオタイヤー購入ノ爲メ正午ヨリ立川ニ急行 朝日ノ近藤君ニタノミニ一台半分八十四円預ケテ帰ル

御国ニヨリサル部品ノ件話ス 明日一台持ッテ行クトノ事

荒木ニ會ヒフオツカー修理ノ状況ヲ見ル

▲▼57ページ▲▼ 昭和8(1933)年2月22日(水)

天気 晴

鈴木千葉 税務署へ税金納入国吉辨ゴ土延期ニヤル

伊藤西氏外数名來場 サル発動機持参 預ル

▲▼58ページ▲▼ 昭和8(1933)年2月23日(木)

天気 晴

奈良原氏來場 十一時頃拂下ニ出資スルト云フ人ニ三人來 工場見学シテ三時頃奈良原氏ト共ニ帰ル

鈴木局検査打合せ及弘益社集金ニヤル 集金不能ニテ買物出來ズニ帰ル

クラブ会員現練習中ノモノヲ集メ午前奈良原氏安岡立会ノ許ニ一同不熱心ナ事ニツキ注意ヲ與ヘル

天王寺谷君來 練習ヲヤラセテ吳レトノコトナリシモ川辺氏カラ何ントカ話シガナクテハヤレナイト事ハル

今村ヲ工場現場監督トスルコトトス
ライジングサン來 四月廿三百円 アト毎月末百円ヅ、月賦ノ証書ニス。久保田一郎
來 四月ニ涙金位デ手形ヲ買ヒ取りタイト交渉 大體承認 金高ハ追ツテ定メルコト
今日少シホシイトノコトニ明日今日ノ自動車代位飛行館デ渡スコトヲ約ス

▲▼59ページ▲▼ 昭和8(1933)年2月24日(金)

▲▼60ページ▲▼ 昭和8(1933)年2月25日(土)

▲▼61ページ▲▼ 昭和8(1933)年2月26日(日)

丁度一週間振りデ長サンデ血脈検査ヲスル 家内ノハ全然ナイコトガ分ツテ安心シタ
鈴木正憲ニヨリ見舞フ

▲▼62ページ▲▼ 昭和8(1933)年2月27日(月)

天気晴

上京シタガ無駄デアッタ
局ニヨル 高橋弥ノ助ニ會ヒサルノタンバツクル頼ム
天王寺谷ニ會フ 今朝川辺氏ヨリ練習中止シテ呉レトノコトデアッタ旨ヲ話シ、諒解出
來ル迄中止スルコトトス
菅谷來ラズ 明日ヲ約シテ帰ル
小野閣下ニ話シ鈴木正憲ノ見舞金ヲ請求ス 明日呉レルコトニナル

▲▼63ページ▲▼ 昭和8(1933)年2月28日(火)

天気曇リ後晴

今日午後十一時正午ノ約束ニテ上京 奈良原氏モ來 三時頃田辺來リシモ五時過ギル
辻ツヒニ菅谷氏行途不明 明日必ズト云フコトニシテ分レタガ今日ハ帰りタクナイノデ
大蔵へ泊ルコトトス
伊藤酉夫氏ヨリ小切手先付(十二日)ニテ百五十円受取ル
正憲ノ見舞金ヲ貰ヒニ行ツタガ小野氏不在ノ爲メ貰エズ

◆▼65ページ◆▼ 昭和8(1933)年3月1日(水)

天気 晴

九時過ぎ大蔵宅ヲ出十時半飛行館着 スデニ浅井氏來テ居タ 片岡ニ會フ 奈良原氏來 夕方、ツヒニ約束手形デ五百五十円受領セマル ドロカ出來ナイカトノコトニ早速佐藤へ持チコンダ 明日霞ヶ浦ニ行クカラ帰りニ千住ノ第三銀行デ頼ンデ見ルカラ夕方ナラ分ルトノコトニ明日五時頃ヲ約シテ帰ル 久シ振リニ浅草ニ出デ五九郎ヲ見ルベク 這ル 第一幕ノ永イノニイヤニナタ上プログラムニハ、アトノ二幕ニ五九郎ガ出ル筈ノ處アトノ二幕ハ全然ヤラナイインチキデアッタ。見テ居テモ家ノコトナド氣ニナリ落ツカズ 早々帰ル

吉村氏ニ小切手ヲ現金ニカエテ貰フ。正憲ノ分百円見舞金ト五十円奨励金ノ残りヲ貰フ 金太郎正憲ノ判ヲ持ツテ來館 スグ手紙ヲ書イテ貰(ママ)タセテ帰ル

◆▼66ページ◆▼ 昭和8(1933)年3月2日(木)

天気 薄晴レ

午後ヨリ上京 六日愛国婦人会ノ報國祭飛行ニツキ上仲ヲ飛バセル爲メ上仲宅ニヨリ判ヲ取り上京 警視廳へ願書ヲ出シ日日ニ和田君ヲ訪フ 會エズ 交信社ニヨリ六日ノ綱ヲ頼ミ佐藤ニ行ク 手形割引出來ズトノコトニ電話デ奈良原氏ト打合セ今夜飯沼へ行クコトニシテ明朝奈良原宅へ返事スルコトトス。飯沼へ行ツタガ出來ズ 一三外ノ話シテ帰ル 帰宅 船橋ノ佐々木ニ會ヒ手形デ金ニナラナイノデ困ルカラアト金早ク頼ムト依頼ス。今日電話シテ五日頃來ル様ニ催促シタトノコトデアッタ

◆▼67ページ◆▼ 昭和8(1933)年3月3日(金)

天気 晴

午前二時三十二分三陸地方海嘯アリ 金華山東南二百キロノ大地震
二時半地震デ目ヲ醒シアマリ永イノト中バ頃コトニハゲシクナツタノデ小供ヲ起シツイデモ出ラレル様ニス
八時半ヨリ奈良原氏訪問 手形ニ渡ス 鶴岡氏ニ話シテ見ルトノコト 出來ナケレバ返サレタ方ガヨイト云テ居ク
帰途三田浜ニヨリゴムホース6、8、各二米、14、一米借りル。渡辺ニヨル
鈴木昨夜再手術シタ由 本人モ大変元氣ヨク経過良好ナル由 自分ノ足ニ近頃度々出來ル水ブクレニツイテ聞ク 其部分ダケ榮養補給ガキカナクナル爲メダトノコト 梅毒トハ關係ナイ由デアッタ。長サンニ電話スル。血液検査ノ結果マダアルトノコトデアッ

夕 日曜二行クコトニス

夕方奈良原氏ヨリアスニ時東京へ來テ呉レトノコト

▲▼68ページ▲▼ 昭和8(1933)年3月4日(土)

天気 雨曇リ

熱河対抗終リ

正午ヨリ上京ス 局ヨリクラブニ行ク 片岡ニ會フ 警視廳許可証ハ月曜日午後出來ルガ飛行ハ先キニシテモ差支ナシトノコト

鶴岡氏ツヒニ來ラズ。約手夕方帰リニ佐藤氏へ又預ケル

夜鈴木正憲悪ルク輸血ノ必要アリトイフコトニ埴山ト的場、飯島ヲヤル

▲▼69ページ▲▼ 昭和8(1933)年3月5日(日)

天気 雨曇リ

船橋長サンニ行ニ(ママ)六〇六十二本目ヲヤル 驗(ママ)査証ヲ見ルトマダ(十)ニナツテ居タ 発熱サセテヤルトヨクキクトノコトダガ明日上京ノ必要アリ六〇六ダケニシテ居ク 佐々木ニテ金十五円受取り上仲ニ行キ式田明日ノ旅費ヲ渡シ帰途散髪 正憲へ寄テヤロウト思ツタガ丁度自動車ガ來タノデスグ帰宅ス 間モナク正憲悪ルク輸血スルカラ來テ呉レトノコトニ埴山、謝場、飯島ヲヤリ後チ自分行ク 十時頃輸血ヲ終リ帰ル 豊田郷里飛行着陸ニ左翼破損 安岡代品取りニ來 太田同道 夜業シテ修理ス

▲▼70ページ▲▼ 昭和8(1933)年3月6日(月)

天気 曇小雪

昨夜雨ハ分シク止ミタレドモ小雪トナル。安岡出張 豊田同乗者ト共ニ

早朝上仲洲崎行キ 豊田ヨリ電話ニテ昨夜七時修理成リ今朝八時洲崎ニ飛行ストノコト。九時ヨリ上京 局ニ行キ課長ニ数日來考慮シタルサルノ修理引受ケ陸軍へ出願ノ件諒解ヲ得 遠藤君ニ會フ 矢野入所ノ件諒解アリ。綱引キ宣傳飛行ノ件百円ニテ協定スルコトトシテ組合規約ヲ作ル諒解成ル。奨励金十日迄ニ願書提出セヨトノコトニ十四日ノ検査一五内部ダケニ止メルコトトス

飛行館ニ行ク 片岡同道 今日ノ飛行大成功 金六明日ニナル。二時過ぎ鶴岡氏來 結局補助金ナケレバ、他ニ飛行場ヲ買フ方ガヨイトノコトデ上田ノアンリオ明日鈴木ニ交渉サセルコトトス

帰途弘益社ニテ七十五円受取り奈良原氏二十円渡

市川ニテ「アカツキノ禎(ママ)察」ヲ見ル ヨイ写真デアッタ。正憲ヲ見舞フ 今日八元氣

ヨクナツテ居タ

▲▼71ページ▲▼ 昭和8(1933)年3月7日(火)

天気 曇リ

片岡トノ約束アリ鈴木ヲ金受取リノ爲メ上京セシム 約束ノ時間ニ二時間遅レタリトテ片岡先キニ帰リツヒニ會ワズトノコト 金受取ラズ愛国婦人会へ電話スレバヨイモノヲボヤツト帰ル
佐藤へ預ケタル約手受取ル

▲▼72ページ▲▼ 昭和8(1933)年3月8日(水)

天気 雪曇リ

大雪 次第二止ム

晝食後上京 局ニ行ク 上田ノ登録申請提出シタ處意外ニモ昨年十月廿日抹消シテアルトノコト 再度新規登録申請ノ必要生ズ。愛国婦人会へ聞キ合セルト昨日片岡二百三十円支拂ヒセリトノコト
飛行館ニ行ク 奈良原氏居ラレタガ鶴岡氏ツヒニ來ラレズ 四時半出テ東日ニヨル 和田氏出張中トノコトニスグ帰宅ス

▲▼73ページ▲▼ 昭和8(1933)年3月9日(木)

天気 晴後曇リ

鈴木伊ヲ上田アンリオノ手續キノ爲メ上京サセル

朽木町飛行綱ノ紐切レテ折角行キシモ失敗 タ方又ビラダケ散布ニ行ク 馬鹿々シイ飛行ヲシタ

鶴岡氏來場 破損機ト上田氏ノアンリオ見テ帰ル 上田氏直接交渉ヲ進メル 大変嬉(ママ)ンデ帰ラル 但シ代金支拂ヒノ節ハ弊所ヲ度外セザルコトヲ固ク云ツテ居ク

飛行館奈良原氏ト話シス 先生今朝鶴岡氏へ行カレタ由。大分苦シソウナノガ見エルガ今口ヲ聞ク訳ケニ行カズ閉口 然ルニ自分ヲダシニ鶴岡カラ金ヲ支拂ヒ方アレコレトヤラレルノモ有難迷惑デアアル

片岡ヨリ電話アリ 金ハ鈴木カ奈良原氏ニ渡ス様打合ス

本年下士志願者ノ入営明後日ニセマツタノデ今夜俱樂部員ノ送別会ヲ開ク 自宅ニテ豚ナベ会 豊田ダケデアト竹内沢田ハ連絡不徹底ノ爲メ不参ハ残念デアッタ

正憲本日ハ益々ヨロシキ由。

横浜ノ山田ナル人來 安岡照井ニ関スル金件初メテ内容ヲ聞ク

▲▼74ページ▲▼ 昭和8(1933)年3月10日(金)

天気 晴

上田アンリオ手續キノ爲メ鈴木上京サセル

奈良原氏來 片岡ニ、十円セビラレタトテ八十円ノ處七十円持參 五円御渡シス尚

鶴岡氏ノ方ノ件打合セテ上京セラル

保健課ヨリ來 一月分支拂フ

立川へ電話シテ木暮君ト打合セ協会飛行士奨励金増額ニ関シ月曜日午後二時飛行館
ニテ會フコトニキメル

夕方佐々木ヨリ金來タトノコトニ船橋ニ行ク 五百円ダケデアト完成後ニシテ呉レトノ
コト。鈴木正憲ヲ見舞フ 昨日ヨリモ今日ハ又ヨカッタガタ方カラ、ヒロウガ出テ弱シテ
居ルトノコトデアッタ

▲▼75ページ▲▼ 昭和8(1933)年3月11日(土)

天気 雪後晴

朝六時半起床 入営者ガ通ルノヲ待ツタガ分ラナカッタ

雪ガ三四寸モツモツテ居テ盛ニ降ツテ居タガ晝頃止ム 夜八月ガ出タ

山本平君ヨリ電話アリ 中頃出來ル予定ヲ話シタガ何ンダカダ文句ガ出タ爲メ少シ争
フ 結局十五日迄待ツトノコト 大坂へ二十円送金ス 父ノ三週(ママ)忌デアアル爲メ

▲▼76ページ▲▼ 昭和8(1933)年3月12日(日)

天気 曇リ

今日長サンへ行く予定日デアッタガ今度來ル時金ヲ持ツテ來ルト云ツタ手前明日ノ出
張ト清平ニヤル金ノ爲メ長サンへ入金出來ズ中止ス 清平ツヒニ來ラズ

▲▼77ページ▲▼ 昭和8(1933)年3月13日(月)

天気 雪後曇リ

又雪キガ降ツテ居タ 霞ヶ浦行キノ爲メ七時半出ル 雪益々降ル 荒川沖ニテ井上、伊
藤両氏ト會フ 隊ニ六宗里、鈴木先着シテ居タ 特ニタノンデ十一時半カラ下見シスグ

○時二十一分ノ汽車ニ乗り車中入札價格等ヲ定メ飛行館ニ行ク。名古屋ヨリ御原氏
ワザ、上京 木暮、相羽、伊藤、宗里、川辺、鈴木、奈良原會合 協会へ奨励金五百
円ニ増額ノ請願書ヲ作ル 明日奈良原氏ヨリ提出 局へモ其写シヲ出スコトニス。地下

室ニテ夕食ヲ共ニ蜂須賀侯招待ノ事ヨリ日本飛行クラブガ有名無実ニツキ之レニ代ル団体名ヲ作ルコトトナリ結局日本航空會ト定マリ會長ニ奈良原氏トノコトデアッタガ會長ヲ定メズ全部ヲ理事トシ奈良原氏ヲ理事長トスルコトニ決ス

▲▼78ページ▲▼ 昭和8(1933)年3月14日(火)

天気 晴

鈴木ヲ横須賀ノ入札ニヤル 帰リニ飛行館ニヨリ奈良原氏ト會ヒ上田アンリオノ件取ハカラウ様云ヒツケタガ奈良原氏ニ會エズ アンリオノ件話シ出來ズニ帰ル 弘益社ヨリ式十円受取りタル由
南波、駒林両氏三時頃來 一五機体内部検査終了ス

▲▼79ページ▲▼ 昭和8(1933)年3月15日(水)

天気 晴

昨日ノ報告ヲ聞キ鈴木ヲ上田ノアンリオヲ鶴岡ニ賣却ノ件ニテ上京サセル 成ベク今日取引出來ル様云ヒツケル 夕方電話アリ價格九百円ト云ツテ居イタガ話シマトマラズ 明日所沢ニテ自分ニ會フトノコト 尚拂下代金ノ爲メ現金用意スルトノコトナリキ 自分ハ午前九時船橋ニ行キ飯沼ニ明日ノ金ニツキ電話セシモダメ 帰リニ正憲ヲ見舞フモウイヨ、心配ナキ模様 谷津デ野呂ヲ訪ネイスパノ拂下目的ニテ外ニ多少入ル爲メ百五十円預ル 之レデ明日ノ準備ガ出來安心ス
吉田今夜九州ヘ立ツ爲メ挨拶ニ來ル 吉川問題聞イテ見タガ然全(ママ)ソナコトハナイトノコトデアッタ 吉田ノ話ハ信用出來ルト思ツタ。関口今日九州ヨリ帰ル 様子ヲ聞ク
仁三郎ガ昨年カラホシガッタ自轉車中古デ五円デアッタノデ買ツテヤッタラ暗クナル 辻乗ツテ居タ スグ乗レル様ニナツタ 夜ニナルト夜ガナケレバヨイノニト辻嬉(ママ)ンデ居タ モット早く買ツテヤレバヨカッタ

▲▼80ページ▲▼ 昭和8(1933)年3月16日(木)

天気 雨後止

角ヲツレ所沢行キ 宗里氏ト一所ニナル
今日ハ齋藤氏ダケデ自分代理者トサセラレタノデ、スベテノ分配カラ入札一切ヲヤル 二時半終ツタガ雨ノ爲メ引取りヲ明日ニ延期シ自分ハ宿ヲ取ル 例ニヨツテ細村屋(行ツタガ貸家札ガハッテアッタ 立川ヘ引越シタトノコト 駅前ノ角三上三泊ル 今日ノ分配ハ計算ヲナス

工場へ電話シテ明日金三十円宗里氏ニ事傳ル様ニス アンマヲ取り十一時眠ル
工藤氏來 アンリオホシイトノコトデアッタ

▲▼81ページ▲▼ 昭和8(1933)年3月17日(金)

天気 晴

快晴ナレドモ風強シ

晝頃分配ト引渡シヲ終ル 角ヲ見学ノ爲メ残シ自分ハ先キニ飛行館ニ行ク 工藤氏サル
ハ田中へ修理セシムルコトトナル。初メ両方デ見積ヲ取ツテトノコトデアッタガ見積リシ
テ安イ方へ注文スルト云フコトナラ御事ワリスル事トス。アンリオノ件ニテ六時半飛行館
ニテ再会 鶴岡氏電話ニテ聞ク 不用トノコトニ工藤氏へ譲ルコトヲ決定 明日津田沼へ
來ルトノコト 代價ハ上田へ渡シ金五百円 工場修理代五百八十円ナレドモ三百五十
円トシタイヤー新品ニシテ四百円 更ニ塗料一回仕上ゲニ五十円 計九百五十円ニテ
マトアル

鳥飼氏昨日津田沼デ待ツテ居タトノコトニ川辺君ト同道ス。夕食ヲ共ニス 八十円ド
ウシテモ入用ナノデ何ントカシテ欲シイ モシ出來ナカッタラ政夫君ニ手紙ヲ出シテ呉
レトノコトデアッタ

▲▼82ページ▲▼ 昭和8(1933)年3月18日(土)

天気 晴

早速政夫氏へ手紙出シ半分ヅ、負担スルコトノ意味ヲ出ス
工藤氏來 九百五十円ニテ決定 五十円内金受領 火曜日ニ持参スルカ送金スルトノ
コトニテ帰ル
三時頃ヨリ上京 アンリオノ部品用トシテ買物ニ行クツヒデニ徳次佐倉ノ入學試験ガ
明日カラアルノデ服ヲ買ツテヤル

▲▼83ページ▲▼ 昭和8(1933)年3月19日(日)

天気 晴曇リ

午後ヨリ奈良原氏へ鶴岡氏アンリオ止メタ旨報告ニ行ク
野外練習中ノ端山機不時着 ガソリンパイプ切れル 修理シテ、夕方帰場ス
徳次体格検査ト国語、口頭試問アリタル由
右ノ下齒浮キテ夕食喰エズ困ル

▲▼84ページ▲▼ 昭和8(1933)年3月20日(月)

▲▼85ページ▲▼ 昭和8(1933)年3月21日(火)

天気 晴大風

新年以來ノ大風ニテ立川ノ方ノ試験延期 爲メ二本日午後來場ノ筈ノ試験官明日行クトノ電話アリタリ

▲▼86ページ▲▼ 昭和8(1933)年3月22日(水)

天気 晴

工藤氏ヨリ廿五日行クトノ入電アリタル爲メ佐藤ノ材料引取り出來ズ 止ムナク事情ヲ話シテ借リテ來ルコトニ鈴木ヲ上京サレタガ夜十二時頃ダメトノ入電アリ 対策ヲ考ヘテ一時半頃ニ及ブ

早朝信太郎ト共ニ佐倉ニ行ク 先ヅ中學ニ行キ徳次ノ発表ヲ見セル 不合格 ナンダカ涙ガ出ソウデアッタガ徳次ヨリ、ハルカニ出來ナイ桜井ガ通ツテ居ルトノコトニ体格ノ爲メダロウト思ツタガタシカメル必要ヲ感ズ

飯沼ノ父ノ葬儀ニ参列シ帰途小學校ニヨリ受持先生ニ結果ヲ報告ス 先生モ意外ラシク、桜井ガ通ツテ徳次君ガ通ラナイト云フコトハ体格ノ爲メデアロウトノコトデ其點ヲ中學へ聞イテ貰フコトヲ依頼シテ歸ル

川辺ノ前野ガ千葉中ニ這入レタ由。千葉中ナラ知合ノ先生ガ居タノデ通りヨカッタカモシレナカッタ 残念ナコトヲシタ

▲▼87ページ▲▼ 昭和8(1933)年3月23日(木)

天気 雨後曇リ

森航空官來 丁度上京シカケテ居タノデ失禮ス 奈良原サンニヨツテ見タガ不在 飛行館ニ行ツタラスデニ帰ラレタアト 菅谷ノ手形ドウナツタカ不明 今月ハ又何ナルノカモ分ラナイ。佐藤ニ行キ四時半迄待ツテ佐藤氏ニ會ヒ三十一日付小切手ニテ前月末迄ノ金ヲ支拂ヒ材料取ツテ歸ル カナリ重カッタ 今日ハ試験ガナカッタ由

上京ヲ幸ヒ横網ノ日本中學へ寄ツテ見ル べ切タ後デアルガ成績ガヨケレバ入レルトノコトデアッタガ手ノ事ヲ話シスルト駄目ダト事ワラレタ。不具者ハ中等教育ガ受ケラレナイカト、ノロワシカッタ

信太郎ハ今日発表デ進級出來タ アト一年ダ

▲▼88ページ▲▼ 昭和8(1933)年3月24日(金)

天気 雨後晴

朝雲低ク野外飛行中止 場内飛行ヲ行フ 鈴木トクラブ全部終了ス
森サンニ正憲事故報告ノ件ヲ依頼シテ諒解ヲ得 尚川崎ノコードロンモ共ニ
相沢君十年式平松氏同乗仙台へ飛行 一時三十分無事到着ノ由

鳥飼氏來 大坂ノ山縣ヨリ最近ニモ送金シタノデ今度ハ出來ナイトノ返事ガ來テ居タ
ノデ、都合ツカナイ由ヲ返事シ決極(ママ)全部自分ガ引受ケネバナラヌ事トナル
工藤氏明日何時頃來ルカ奈良へ打電シタガ返事ナシ

恵美子、仁三郎二人共優等賞ヲ貰ツテ來タ

徳次ノコトニツキ先生ヨリ電話アリ 中學デハ体格ガ悪イトハ発表出來ナイノデヤハリ
學科ガ出來ナカッタトノ報告デアッタ由 日中ノ事ヲ話シ昭(ママ)介デモアレバ這入レ
ソウナノデ、知り合ヒガナイカ聞イテ貰フ

▲▼89ページ▲▼ 昭和8(1933)年3月25日(土)

天気 曇後晴

太田原ヨリ通信宜シク九機順次ニ出發 帰りモ五分位ノ差ニテ順次到着 アダカラ飛
行競技ノ如ク全部無事終了 丁度汐ガ上ゲル前終ル 実ニヨイ結果デアッタ

清平ニ電話シテ徳次ノコトヲ相談ス 扇野サンノ知リ人ガ赤坂ノ日大第三中學ニ居ル
トノコトニ頼ンデ貰フコトトス 夜來 廿八日入學試験ガアルトノコト二月曜日手續キテ

スルコトニス。尚田中先生ヨリ麻布中學へ照(ママ)介ノ名刺ヲ貰フ

奈良原氏ニハ東京中學ヲ依頼ス依頼ス

▲▼90ページ▲▼ 昭和8(1933)年3月26日(日)

天気 曇雨

サルトアブロ廿九日検査ノ爲メ本日休マズ

工藤氏來 九百円受取ル 後チ早速鈴木ヲ上田へヤル 會エズニ歸ル 明朝更ニ行カセル
コトニス

▲▼91ページ▲▼ 昭和8(1933)年3月27日(月)

天気 雨

上田手續キニ鈴木上京サセ自分アトヨリ上京 局ニ行キ上田機三ヶ月ノ証明書貰フ爲
メ臨時検査ヲ願ヒ出タガ初メノ内ハ中々ウマクマトマラズ漸ク願ヒタオス

鈴木上田二會エズ 結局今夜ハ泊リ込ムコトナル
第三中學ニ徳次ノ受験ノ願書ヲ出シ飛行館ニテ奈良原氏ニ會ヒ五時四ツ谷駅ニテ清平
ニ會ヒ第三中ノ講師高橋氏ヲ訪問シタガ不在ニテ、工藤氏宿鍛冶橋ホテルヨリ鈴木工
藤氏ト打合セ上田ニ會フコトノ爲メ鈴木泊ルコトニキメル

▲▼92ページ▲▼ 昭和8(1933)年3月28日(火)

天気 晴風

晴レタレドモ次第第二風ツヨク鈴木ノ二機出発後風益々ツヨク案ジタガ二機共無事往復
ス

徳次第三中學入學試験ニ池本同道上京サセル

鈴木 止京昨日東京泊リ 上田ニ會ヘタノガ午後二時 ソレカラ局へ手續キヲシテ津田
沼へ電話シテ來ナイ爲メ工藤氏津田沼デ四時頃迄待ツタガ結局上田ノハダメトシテク
ラブノアンリオ送ルコトニ話シキメル 後チ工藤氏ヨリ電話ニテ四時頃鈴木同氏宿ニ行
キ置キ手紙ヲシテ帰ツタトノコトデ明日上田ノヲ内部検査受ケテ發送スルコトニス

▲▼93ページ▲▼ 昭和8(1933)年3月29日(水)

天気 晴

静穩ナル試験日和 南波、松浦、両氏來場。御国サル、鈴木アブロ、十五式用イス。パノ
外ニ臨時ニ工藤氏行キノアンリオ内部検査ヲ受ケル 両氏共理解ノアル人ノ爲メ大変
ウマク進行シタ。夕方帰りニ南波氏ノ地所ヲ買ヒタイトノコトニ昨日市川ノ上下氏ニ電
話デ打合セテ居タノデ自動車デ見ニ行ク 市川中島ヲ数ヶ所見テ七時頃分ノ汽車ニ
テ中山駅デ分レル

徳次日大第三中入學許可証來ル 恵美子昨日カラ寢テ居タガ今日ハ三十八度ヲ下ラ
ズ夜長サンニ來テ貰フ。編(ママ)桃腺ガ少シハレテ居ルノト風引デ大シタコトハナカッタノ
デ安心ス

▲▼94ページ▲▼ 昭和8(1933)年3月30日(木)

天気 曇リ

學科試験ノ日

鈴木上京 アンリオ検査ノ件 警視廳許可ノ件等ニテ

▲▼95ページ▲▼ 昭和8(1933)年3月31日(金)

天気 雨

日大第一中へ同校理事加納氏ノ名刺ヲ持テ渡教頭ニ會ヒニ行ク 幸ヒスグ會エテ事情ヲ話ス 後刻加納理事ガ來タラ想(ママ)談ノ上決スルトノコトニ局ニ行キ十二時過ギ電話ヲカケルト明日本人ヲ連レテ來ル様トノ事ニ先ヅ八分通り成功ト嬉(ママ)ブ 午後飛行館ニ行ク 木暮、宗里、鈴木、四時過ギニ來場 協会対策ニツキ時間ナク打合セ出來ズ 後チ漸ク奈良原、相羽、伊藤西三氏ニ四日午後四王天氏ト會見ノコトヲ決定ス

五時ヨリ映画 終ッテ蜂須賀侯ノ英国民間飛行界ノ狀況講演ヲ聞キ後チ會食後奈良原宗里氏同道帰宅ス 川辺氏來ラズ 局ニテ木下氏ニ會フ 朝日ヲヤメテ北山ノアトヲ引受ルコトニナツタ 今日決定スルトノコトデアッタ。同氏トナラ提携スルコトモヨカロウ

◆◆◆96ページ◆◆◆ 4月

陸軍交渉ノ事

◆◆◆97ページ◆◆◆ 昭和8(1933)年4月1日(土)

天気 晴

徳次ヲ連レ横網ノ日大一中ニ行ク 丁度十時渡先生ニ會フ 入學考査ヲ受ケ許可トナリスグ手續キヲナス 全部デ十一円入ル 師田ニテ設計部ノ紙ヲ買ヒ、伊藤氏ニ行キ小切手ヲ受取ル 四月卅日付ケニ六驚イタ 飛行館ニ行ク途中ニテ清平ニ會フ 共ニ行ク 吉村氏ニ伊藤氏ノ今一枚ノ小切手十六日付ノ分百円現金ヲ貰フ 蜂須賀氏へ電話シテ坐談会ノ日三日午後三時ト決定 御原氏へ電報 木暮氏へハガキニテ通知ス 銀坐ニ越デ買物ヲナシ清平ニ三中ノ方ノ先生ノ禮ヲ持參サセ馬詰ノ見舞ニ行ク 思ツタ程デモナカッタガ大分悪ルソウナノデ、金ガナサソウニ思ワレタノデ何ントカシテヤルベク慰メテ歸ル

◆◆◆98ページ◆◆◆ 昭和8(1933)年4月2日(日)

天気 晴

ヨイ日曜日デアッタ

朝宗里氏へ電話 遠藤氏へハガキニテ明日ノコトヲ知ラセル 鈴木富雄ニ話シ川辺君ニハ直接話ス。アンリオ験(ママ)查日マダキマラズ昨夜工藤氏ヨリ十日迄ニ最(ママ)非間ニ合セテ呉レトノコトノ入電アリ 明日玉宮氏自宅訪問ヲスル事ニ鈴木ト打合せス

十時ヨリ小學校ノ野崎先生千葉ノ加藤理事宍倉先生ニ徳次ヲ連レ入學ノ禮廻リヲナス 歩ク處ガ多ククタブレル 三時帰宅

四時半頃横浜ノ山田氏外一名來 種々話シヲ聞イタ上四日弘益社ノ入金ヲ以テ百五十円安岡ノ爲メ支拂フコト 出來ナケレバ入金ノ日ヲ四日電報ニテ知ラセルコトス

▲▼100ページ▲▼ 昭和8(1933)年4月3日(月)

天気 晴

薄曇リナレドモ上天気 信太郎同道玉宮氏訪問 工藤ノアンリオ検査ノ件ヲ依頼 四五両日ノ内ニ行クトノコト。中學卒業生ヲ一人使用方タノマレル。午後三時ヨリ蜂須賀侯招待シテ居ルノデ出席サレテハトサソウ 出席スルトノコトデアッタ

午後一時半飛行館着 奈良原氏先着サル 三時蜂須賀侯來 出席者伊藤西、鈴木富雄、御原福平、北尾龜男、玉宮善航空官、オクレテ四王天中将、木暮武美、飯沼金太郎 奈良原氏ト自分談ハ英国ノクラブト學校トノ關係、政府ノ奨励法、免状ノ等級ト程度、飛行機ノ保險等ニ関スル話シ 四時過ぎ侯ハ他ニ約束アリ帰ラル 後チ協会へ提出ノ希望書自分提案ノモノデア案ヲ決定 明日ノ會見ニ提出スルコト。次デ馬詰君訪問ノ結果ヲ報告シ一人二十円ヅ、出金贈呈ノ件ニ決定 他ニモ、カンユウ十日迄ニマトメルコト 右手續キ一切自分ニタノマレル 明日ハ朝カラ出ナケレバナライノデイソガシノニ困ツタガ引受ケル

▲▼100ページ▲▼ 昭和8(1933)年4月4日(火)

天気 雨

協会提出ノ希望書ヲ鈴木ニ書カ、(ママ)飛行館へ持参セシムル様ニシテ徳次ノ日大一中入學式ニ同道ス 十二時半迄カ、荒川五郎校長ノ話シハ實ニ堂ニ入ッタモノデアッタ。徳次ヲ連レテ飛行館ニ行キクラブノ謄写版ヲ借りテ馬詰君へ贈ル金ノカンユウ書ヲ作り發送ス。奈良原氏相羽氏伊藤西氏総務理事ト會見ニ三時間ニ及ビテ尚決セズ ヨッテ更ニ七日會合スルコトニ取極メル 弘益社金明日ニシテ呉レトノコト。岡田氏電話ニテ羽布依頼。明日金支拂フコトヲ話ス。吉村氏帰宅後デアッタノデ伊藤氏ノ小切手百円現金ニカエテ貰フコト手紙ニ書イテ給仕ニ預ケテ居ク

▲▼101ページ▲▼ 昭和8(1933)年4月5日(水)

天気 雨後曇リ

今日ハ鈴木ヲ局へ検査ニ今日來テ貰フコト。弘益社ノ金受取ルコト。岡田氏ト會見ノコトノ爲メ上京サセル 尚氣ニナルノデ三回モ電話シタガアス來ルコト確定シテ居ラヌト

ノコト 工藤氏ヨリ夕方飛行機送ツタカトノ入電アリ。雨ノ爲メ延期 アスミ次第送ルト返電ス

キン今朝ヨリ姿見えズ 昨夜中ニ家出シタルモノト考ヘ心配ス 家内ハ稲毛ニ行ク 夜テツキリ安西サンノ處ト思ヒ電話サセタガ居ラズ 九時半頃ヒヨコリ帰宅 東京デ奉公ロヲ見付ケテ來タトノコト ヤレ、一安心 ソンナコトナラ何ニモヌケ出ス必要モナイノ二人サワガセナ奴サンダ

▲▼102ページ▲▼ 昭和8(1933)年4月6日(木)

天気 曇リ

鈴木工場へ出ズ 早朝上京セシヨシ 弘益社へ電話シテ買物ヲ依頼ス。三時頃帰場ス。パツキンヲ忘レテ帰ル

鶴岡氏ノアプロ田中ヨリ取りニ來ル 川辺君ニ話シテ渡ス

川辺西山スミ子昨日家出シタトテ大サワギヲ演ジテ居タ由 夜石井ト大口來 スミ子ノ問題ニツキ相談ニ來タノデ大口ノ處へ引取ツテ居イテ話シテヤツタヲヨカロウト教エル

▲▼103ページ▲▼ 昭和8(1933)年4月7日(金)

天気 曇リ

上京 局ニヨル 坂本夫妻ガ來テ居テ課長ト盛ニ話シテ居タ 先キニ帰りカケルト坂本君ガ一寸待ツテ呉レトテ共ニ飛行館ニ行キ晝食ノ馳走ニナル 別ニ変タ話シデモナク準備ヲ進メテ居ルカラ宜シクタノムトノコトデアッタ

三時頃宗里君來 之レニテ伊藤西、木暮、奈良原ト自分デ対策協議 今日早速、宗里、木暮自分ト総務理事ニ會フ 結局三百五十円ト養生奨励金式十円ヲ人数デ割タ額ナラ今日ニモ決定スルトノコトデアッタガ自分等カラハ五百円デ依頼受ケテ來タノデアルカラ、ソレヲ考慮シテ貰ヒタイ旨ヲ述ベテ帰り更ニ月曜日今度ハ皆ンナデ行クコトニ決定ス

▲▼104ページ▲▼ 昭和8(1933)年4月8日(土)

天気 曇リ

今日ハ鈴木モ自分モ在所 野呂君來 十年式整備決定 千五百円 手金五百円内百五十円前ニ借り残り三百五十円受取ル 皆ンナ二分ケル。三月中完成分ノ決算ヲナス アンザニーノペラ 注文設計シテ呉レタ 野口氏來 一所食事ニ行コウカト思ッタガ沢柳氏ニ、十円渡シテ帰りテ、ドコカデヤツテ貰フコトニス 駅迄自動車デ送ル

日本飛行學校へ広告用綱ト函ヲ貸ス爲メ自動車ニタノム

山田へ安岡ノ分百五十円電送ス

▲▼105ページ▲▼ 昭和8(1933)年4月9日(日)

天気 雨

流山東福寺ノ風船祭 九時半ニ自動車來ルトノコトデ奈良原先生モ見エテ居タガ來ラズ 十一時半頃雨ノ爲メ延期ト思ヒ帰りカケタ處へ金子氏自動車ニテ來 其自動車デ地上勤務員トシテ熊谷君同乗 恵美子モ連レテ行ク 丁度一時間余リカ、ッテ流山着自動車ノ行ケナイ處カラ歩イタガ道ノ悪イ事ヒドカッタ 寺内ニ這入ルト講中デ坐敷ハ一杯 飛行場ハト見ルト、トテモセマイ 雨ハス、ハゲシクナリ飛行機ソヒニ來ラズ 二時半頃ヨリ式ハ初マリ一時弱ニテ終ル 三時十八分ノ輕便ニテ流山町ニ出テソヨリ又自動車ニ送ラレテ五時帰宅ス

▲▼106ページ▲▼ 昭和8(1933)年4月10日(月)

天気 曇リ

昨夜女中イシガ信太郎トアヤシゲナ行為アリタリト急ノ話シ 今迄丸デ考へ及バナカッタ事ダケニ足元ガ、クツレタ様ナ氣ガシタ。之レニ如何シタラヨイカ色々考へタ末小供ニ目標ガナイノガヨクナイ 各自ニ重大ナ使命ノアルコトヲ、ツネニ頭ニ入レサセテ居ク必要ガアル 其爲メニ他ヲ省ミナイ様ニサセネバナラナイカラ最近ニ皆ニ云ヒキカセテヤルコトトス

上京 局ニテ関ロノ就職ニツキ森サンニ依頼。買物ナドシテ飛行館ニ行ク 晝食後坂本氏夫妻ト上仲ニ會フ

終ツテ三時ヨリ総務理事井上氏ト会見約一時間余 決(ママ)局四百円ト養生ノ方三十円明年カラ三百円ニテ確定。終ツテ夕食ヲ共ニ井上氏トモ会谈帰宅

▲▼107ページ▲▼ 昭和8(1933)年4月11日(火)

▲▼108ページ▲▼ 昭和8(1933)年4月12日(水)

▲▼109ページ▲▼ 昭和8(1933)年4月13日(木)

▲▼110ページ▲▼ 昭和8(1933)年4月14日(金)

天気 曇リ

上京 佐藤ニヨリ注文ヲシテ羽田ニ行ク 丁度木暮君ト途中デ會ヒ同道ス 滑車ナク清ヨリ送ルトノコト 操縦線ノ様子ヲ見テ東日ニヨル 翼ノ取付金具ナク、ワイヤーダケ貫テ運送屋ニ渡シテ飛行館ニヨリ、熊野屋ニテ買物ヲシ再ビ佐藤ニ行キ品物ヲ取り、更ニ飛行館ニ行ク 工場ノ鈴木帰ッタトノコト 警視廳ヘ行ツタラシイ 六時カラ航空ノタアリ四王天閣下ノ講演ヲ聞イテ帰ル 片岡ニ二円五十錢ヤル 大蔵ニ羽田ヘ行ク前會フ 三十円航空神社ノ分受取ル 東日ヨリ夜業 七時迄

▲▼111ページ▲▼ 昭和8(1933)年4月15日(土)

天気 降タリ止ンダリ

終日在所 作業フトクレイス

▲▼112ページ▲▼ 昭和8(1933)年4月16日(日)

天気 曇リ

今日ノ飛行ニツキ鈴木ヨリ安岡ニ注意ヲ與ヘ愛国機オートジャイロノ命名式ニ上京 信太郎、徳次、池本、武川同道 九時代々木着 二機ノ飛來カラ見テ十一時終ル 着陸ハ誠ニセマイ場所デヨイガ離陸ハ普通ノ飛行機ト変ラナイ。終ッテ明治神宮ニ参拝シ宝物殿ヲ見外苑ニ行キ繪画館ヲ拝觀シテ青山通りデ晝食 二時頃ニナル 乃木神社ニ参拝 岡田ニヨリ羽布ニ米程貫ヒ飛行館ニ一寸ヨツテ帰宅 大ニクタブレタ 今日ノ飛行半金ヨリ持参セズ 洲崎迄式機行ツタガ一機ダケ飛行シテ帰ツタ由

▲▼113ページ▲▼ 昭和8(1933)年4月17日(月)

天気 曇リ

終日在所 作業ヲ急ガス 今日ヨリ八時半迄夜業

▲▼114ページ▲▼ 昭和8(1933)年4月18日(火)

天気 晴

久シ振リノ好晴ニテトテモ氣持チガヨカッタ

上京 局ニヨル 工藤ノアンリ才奨励金出シテ貰フコトニナル ネピア拂下空中作業ニ行ツタ由。森サン鈴木正憲ノ事故報告ヲ書イテ居ラレタガ、ドウモ書キ様ニコマッタトノコトデ更ニ書キ直シヲサレテ居タ

飛行館ニヨル 奈良原氏ニ會フ 野田男爵不在ニツキ會見ノ日取リヲ知ラセテ貰フコトニシタトノコト。普及會ニ行キ梅津氏ニ會フ。佐藤ニ寄り買物ヲシテ帰宅 七時頃

▲▼115ページ▲▼ 昭和8(1933)年4月19日(水)

天気 曇リ

終日在所 作業ヲハゲマス

▲▼116ページ▲▼ 昭和8(1933)年4月20日(木)

天気 曇リ

上京 局、佐藤、岡田、等連絡買物ヲナス

▲▼117ページ▲▼ 昭和8(1933)年4月21日(金)

天気 曇リ

在所

▲▼118ページ▲▼ 昭和8(1933)年4月22日(土)

天気 曇後雨

朝刊ニテ長岡外史氏昨夜九時五十分死去セラルコトヲ知ル 奈良原氏來 弔問ニ行クトノコトニ同道ス 花環ヲ注文シテ居ク

歸リニ佐藤ニヨリ買物シテ歸ル

交信社ニヨル 山崎氏誠ノ道ニ入り營業方面ハ一切關係ヲタツタトノコト アトハ平野君ト菅谷君ガヤル由

夕方帰ル 大雨トナル 後チ、ケロリト晴レル 清平來テ居タ

▲▼119ページ▲▼ 昭和8(1933)年4月23日(日)

天気 晴

午前中快晴 午後又曇ル

大蔵トノ約ニヨリ七時出発ノ予定ガ旅費ノ爲メ遅レタクシーニテ船橋へ飛バシ九時十五分前大蔵宅ニツク 別ニ大シテ急グ用件デモナカッタ 松竹ノニュースヲ大坂へ送ルコトデ廿七日松岡氏ノ帰朝ノモノトノコト 横浜サツエイト大坂輸送トニ別テ横浜ダケ百五十円 大坂行五百円トス 共ニ日社ニ行キ社内デサンパツヲナス 大蔵松竹へ行キ自分ハ飛行館ニ行キ岡田氏ト羽布、工場ト連絡シ附近ニテ晝食後一時二十分ヨリ青山ニ行ク。長岡氏ノ告別式ニ参列シテ児玉奈良原氏ト會フ 佐藤ニヨリパイプ、カンタイヲ取り製紐会社ニテゴム紐ヲ受取り大分マタサレテ四時過ぎニナル 三時頃安岡シキリニ浅草橋附近ヲ飛ンデ居タ 五時帰宅 今日ハ晝間ダケニシ夜業ヲ休マセル

▲▼120ページ▲▼ 昭和8(1933)年4月24日(月)

天気 晴

今日ハ春ラシイ好晴デアッタ

家内朝マダ三十八度余リニナル 午後熱下ル

鈴木ヲ局ノ検査日ノ打合せ 羽田へゴムカン借りニ其他二三用件ニテ上京サセル

自分作業ヲトクレイス(立ツメデ少シツカレル)

糸川來 アブロ賣物ナイカトノコトデアッタ

夕食時信太郎、徳治、恵美子、ニ將來ノ方針ニツキ示ス處アリ 處世上ニツキ注意ヲ與へル

▲▼121ページ▲▼ 昭和8(1933)年4月25日(火)

天気 曇リ

鈴木ニ工場票集提出ノモノ作ラセル

作業トクレイ 大ニカドル 佐々木君來 大体廿八日受檢ノ予定ヲ話ス

安岡下志津へ左サク空気ノバルブトゲーシヲ借用ニヤッタラ一ヶ呉レタ 栗山中佐ノハカライデ 尚サルハヤハリ所沢へ修理ニヤツテ居ルトノコト 工場へ下命運動ノ余地アルベシ

夜少シ酒ノ量ヲ多クシたら八時過ぎ眠クテオレル如ク眠ツタ。

家内病氣大ニヨシ

クラブ新入会員アリ

▲▼122ページ▲▼ 昭和8(1933)年4月26日(水)

天気 雨

大雨 奈良原氏來場 十円クラブヨリ渡ス
局検査日取りノ爲メ鈴木上京セシム 一日ニ延期ヲ乞フ 大体ヨシトノコト 午後天気
ヤ、ヨクナリ大格へ機体ヲ運ブ 主翼ノ取付ケヲ終ル

▲▼123ページ▲▼ 昭和8(1933)年4月27日(木)

天気 晴

フロートノ取付ケト主翼角度調整 発動機ノ方ハメインタンク漏ヲ修理ノ爲メ取ツシ
(ママ)困難ス

夜漸ク出来取付ケヲ終ル
流山ヨリ例ノ写真屋來

▲▼124ページ▲▼ 昭和8(1933)年4月28日(金)

天気 曇リ

夜十時迄夜業シテ一五終ル

鈴木菊注文ノ空中広告綱函作ラセル 角外三名ツヒニ徹夜ス
鈴木上京 局ノ打合せ一日ニ飛行ニツキ警視廳ノ願書提出 弘益社綱ノ注文。協会ニ
テ奨励金授與式日取りヲ聞クコト ライジシクサン、英、其他支拂ヒ日 右ノ日取りヨ
リ通知スルコト 佐藤小切手同様ニヤル
バキュームオイル会社來 十日頃トス

▲▼125ページ▲▼ 昭和8(1933)年4月29日(土)

天気 晴

ヨイ天長節日和デアッタ 晝頃漸ク一五ノ機体完成 総ガ、リデ引出シ試運轉ニカッ
タガ例ノイス。パノクセデ、ツヒニ今日ハ始セズニ終ル
協会授與式十日ノ由 支拂ヒハス、ベテ其後トナス
佐野利一來 同様ニス

▲▼126ページ▲▼ 昭和8(1933)年4月30日(日)

天気 雨

一五ホゞ完成 小手入レ 本日休マズ

▲▼128ページ▲▼ 昭和8(1933)年5月1日(月)

天気 晴

好晴 一五式午後試飛行十分 安岡行フ 良好

▲▼129ページ▲▼ 昭和8(1933)年5月2日(火)

天気 晴

好晴 一五式午後試飛行十分 安岡行フ 良好

所沢ヨリ梶原君來場セシモ検査官來ラズ 数回電話ヲ聞キ合セル 決極(ママ)明日行クトノコト

▲▼130ページ▲▼ 昭和8(1933)年5月3日(水)

天気 大暴風雨

朝カラ暴レテ居タガ午後益々ヒドクナル 夕方雨止ム 五時ヨリ自動車ニテ學校へ撰擧ニ行ク 太田佐藤同道ス 鷺沼ノ村上政吉氏ヲ入レル

▲▼131ページ▲▼ 昭和8(1933)年5月4日(木)

天気 晴

西川、木目田、辻本氏來 木目田氏初メテ局ニ這入ッタ人トノコト 一五式完成 十年式サル機体内部検査準潮(ママ)ニ終了 五時前自動車ニテ送ル 試飛行梶原操縦安岡同乗

▲▼132ページ▲▼ 昭和8(1933)年5月5日(金)

天気 晴

鈴木局登録其他ノ用件ニテ上京サセル 自分ハ三月迄ノ決算ヲナシ終ル

▲▼133ページ▲▼ 昭和8(1933)年5月6日(土)

天気 晴

上京 飛行協会ニテ小野氏ニ正憲負傷手當金ノ件ニツキ聞ク 局ヨリ協会へ八年度下付金ノ通知有リ次第出サセルトノコトニ局ニテ聞ク スデニ出テ居ルカモ知レヌガ、マダナラズグ出ス様ニスルトノコトデアッタ

一五式ノ堪航証明書ヲ貰ヒ一時頃出テ高島屋ニ行キ夏服ヲ一着求メル 数年來ノ希

望ガ漸ク達シタ訳ケ 代價二十五円也 外ニ小供ト家内ノモノヲ十円バカリ買物シテ
帰ル
船橋ニテ佐々木ニ會フ 明日清算ニ行クトノコト 自動車デ送ラレテ帰ル

▲▼134ページ▲▼ 昭和8(1933)年5月7日(日)

天気 晴

佐々木ト奥山氏が來ルト云フノデ終日在所シタガ二人共來ラズ 佐々木夕方明朝行
クトノ電話アリ
安岡有功賞拝受ノ爲メモーニングヲ作ルニアタリ二十円也ヲ祝ヒトシテ補助ス 高島
屋へ買ヒニヤル
田中不二雄ニ電話シテ馬話へ航空社トシテ高橋ト二人デ十円ヅ、ヤツテ貰フコトヲタノ
ム
徳次四時頃カラ起キテハーゲンベックノサーカス見物ニ千葉ノ一友人ト行クノデサワイ
デ居タ 夕方五時頃帰ル

▲▼135ページ▲▼ 昭和8(1933)年5月8日(月)

天気 晴

朝奈良原氏訪問 普及会ニテ今月マトマタ金ヲ作ツテ貰フコトヲタノム。太白冠ト云フ
蘭ヲ貰ツテ帰ル途中船橋ニテ同様ノ鉢ト鹿沼土ヲ買ツテ帰ル
夕方佐々木來 六百元受取ル 練習ニツイテ相談 明日中島ノ格納庫ヲ借リル爲メ飯
沼へヤルコトニス
川辺君處ノ石井本日北海道へ帰省シタル由
鈴木局検査日打合せ 警視廳十日ノ飛行ノ許可願ヒ等ニ上京サセル
午後ソアラノ材料調査ヲ行フ
クラブノ金五十円借りテ正憲へ届ケサス

▲▼136ページ▲▼ 昭和8(1933)年5月9日(火)

天気 晴曇

今日ハクラブサル、野呂、十年式、作業会社サルノ奨励金見込書ヲ作ル
終ツテナラー材料調査ヲ終了シ作業ヲ大口ニ命ズ
今日三月分残ト四月分ノ一部工賃支拂ヒヲナス
鈴木正憲夕方來 松葉ツエヲツイテ居タ
前後シテ昨秋來病氣デ帰国シテ居タ富谷君來 一時ハマツタク絶望デアッタ由 今日ハ

期せずして再生ノ二人ガ來合セタ訳デアッタ

▲▼137ページ▲▼ 昭和8(1933)年5月10日(水)

天気 晴ノ雨

操縦士奨励金授與式アリ上京 安岡、鈴木、柴田ニ有功賞ヲサツケラル

埴山太田分ト養生奨励金入手 奈良原氏へ三十円 埴山太田ニ各四十円ツ、内十

円ツハ協会へ分配

岡田勇百円渡ス。手形間違ヒノ件話ス

本年度ヨリ一等操縦士ニ五百円ツ、出ストノ新聞記事ニヨリ一同協議ノ上出シ方ニ不
満ノ點ト見界(ママ)ノ相違アリ協会ノ井上、小野両氏ニ対シ一同ヨリ遺憾ノ申出ヲナ
ス

山崎氏來 グライダー圖面ニツキ分ラナイ處ヲ聞ク 遠藤君ノオゴリニテ川辺宗里氏

ト深川ニテ会食シテ帰ル

馬詰ノ見舞金全部アツメタガ一口二十円カラ足ラズ遠藤ト川辺二人デ一口出サセル
コトニシテ二百円ニマトマル 但シ川辺君ノ分ハ當分立替トナル

▲▼138ページ▲▼ 昭和8(1933)年5月11日(木)

天気 晴

昨日ノ金ヲ支拂ヒニアテタガドウシテモ足ラズ適當ニ割当てテ東京方面ハ鈴木ニ持タセ
テヤル 馬詰ノ宅ニモヤル

夕方入会希望者來場 大分有望ナ人物ラシカッタ

鷺洲ト云フ詩人來 三円デ半折ニ詩ヲ書ク。ソレモ依頼人ノ名ヲ讀ミ込ダモノトノコ
トニ依頼ス 明朝持参スル由

▲▼139ページ▲▼ 昭和8(1933)年5月12日(金)

天気 晴

朝佐々木泰助、野呂豊二郎君等会见 金受取ルモノハ取り支拂ヲ定メ不在中ノコトヲ
鈴木ニ命ジソレ、準備ヲ終リ十時一寸前恵美子ヲ連レ徳次ト共ニ出發ス 十一時東
京駅着 地下室ニテ食事輕クスマシク久保田氏ヲ待ツ 十二時十分会见 八百七十円ノ
手形ヲ受取り五十円現金渡ス ○時四十五分ノ桜ニ乗り込ム 徳次ヲ帰ヘス 途中見立
ル間時々エミ子ニ説明シテ名古屋デ、クラクナル 十時大坂着 円タクニテ恵美須町ニ
行ク 兄ヤ姉モ表ニ出テ、マッテ居タ 色々ノ話シデ、オソクナリ十二時床ニ入ル
工藤氏ニハ京都駅ニテ会见方ハガキヲ出シテ居ク

出懸ケル一寸前昨日ノ鷺洲氏來 二面ニ詩ヲ書イタモノヲ持ッテ來タ 三円デハ安イ
氣ガシタ

▲▼140ページ▲▼ 昭和8(1933)年5月13日(土)

天気晴

食後エミ子ヲ連レテ新世界へ挨拶ニ行キ晝帰リエミ子ハ君子トデパート見物ニ行ク 自
分ハアンマヲ取ッテ静養シテ居ル處へ中、鵜飼両君來 一二時話シテ帰ル 明後日奈良
電へ行ク約束ヲナス
夜小供大勢デ万歳ヲ見物ニ連レテ行ク 十一時就寢

▲▼141ページ▲▼ 昭和8(1933)年5月14日(日)

天気晴

十時出縣ケ十一時十五分佐渡島低(ママ)ニツク 晝食ノ馳走ニナリ、ツギカラ、、、話
シガツキズツヒニ午後四時辭ス マダ話シ残ッテ居ル様ナ氣ガシタ 自分ガコンナニ永ク
話シノ出來ルノハヤハリ氏ノ外ニハナイ 先方デモ、ソウラシカッタ。新宅サント云フノニ
會フ縁ガ出來テ居タノニハ面喰ッタ
今夕ハ新世界デ夕食ノ馳走ニナリ明朝早ク京都へ行クノデ泊ルコトトス
一森君來 明夕藤原君野島君等ト會見シテ貫ヒタイトノコトデ六時ノ約束ス

▲▼142ページ▲▼ 昭和8(1933)年5月15日(月)

天気 曇リ後雨

曇リ パラ、雨 エミ子同道 鵜飼差支アリ中君同道ス 奈良電桃山本社ニテ粟津清
水君ニ會フ 本代賣レタダケツ、ニシテ呉レトノコト。ソレモ今日ハ會計ガ休ミデダメア
トカラ送ルトノコト。グライダー一機七月頃最(ママ)非入用ダカラトノコトデアッタガ
之レモ的ニハナラナイ
エミ子ヲ連テ御陵ニ参拝 乃木神社ニモ詣デテ奈良行 鵜飼ガアトカラ來ルトノコトニ
待チ會セノ打合セシテ中君モ同伴中山氏訪問 一時間逢余り話ス 静カナヨイ低(ママ)
宅デアッタ。大佛二月堂春日社ニ参拝シテ元ノ場所ニ帰ッタガ四時鵜飼來ラズ、帰場
ス 雨益々ハゲシクナル

▲▼143ページ▲▼ 昭和8(1933)年5月16日(火)

天気 雨

中正夫へ速達ヲ出ス 終日待ツタガツヒニ來ラズ 止ムナク新世界ニテ五十円ヲ作ツテ
貰ヒ自分ノ五十円ト合セテ兄ニ渡ス 余ス處ワツカニ二円 ドウシテモ旅費位作ラセナ
ケレバナラナイ

夕方延次郎君ト久シ振リデ新世界ノ前ノ安食堂デ会食ス

夜中前君來 一二時間話シテ帰ル 十時過ギ床ニ入ル

午後益々ハゲシク木津川行中止ス

▲▼144ページ▲▼ 昭和8(1933)年5月17日(水)

天気 曇小雨

午前拾時藤原一森來 十二時迄佐々木氏トニ関スル話シヲ聞ク。來宅ノ目的ハ航界改
進会ヲ起スカラ讚(ママ)成シテホシイトノコトデアッタガ之レニハ確答ヲ與ヘナカッタノデ
イヅレ趣意書ガ出來タラ送ルカヲトノコトデアッタ 佐々木ニ對シテハ技術課長ガ今月
中ニ何ントカスルカラ、マカセロトノコトデアッタノデマカセタトノコト 然ル上ハイヅレ示
談ニナルコトニナルガ承知カトタゞスト差支ナイガ條件トシテ藤原佐々木ガ從來ノ態
度ヲ改メ今後善處スルコト、藤原ヲ説話セシムルコト 一森同様トノコトデアッタ

午後木津川ニ行キ橋本ノ方利子ダケ入レテアトハ、コチラニ都合ツク迄延期 利子ハ今
月中ニ都合スルコト 之レハ普及会ノ方ヲ予定シテトノコトニテ諒解ツク。満州行キノ途
中ノ且代君ニ會フ 一時半ニテ出發セリ 小川、朴君ニ會 朴ハヤハリ朝鮮飛行ノ場所
視察ノ爲メノ出張。井上長ト會ヒ、佐々木氏訪問 福地氏ニ會見ス 夜ハ池本ニテ馳走
ニナル

▲▼145ページ▲▼ 昭和8(1933)年5月18日(木)

天気 曇リ

温イ日デアッタ 午前九時鵜飼來ルトノコトニ待ツタガ來ラズ中一人來 晝迄話シタガ
ツヒニ來ラズ 夕方來ルトノコトニ電話ニテ笹川氏ニ會見ヲ申込ミ面會 奨励金申請書
ト機委任状ニ判ヲ貰フ 堺ノ飛行場ニ行キハインケルヲ見ル。ベンツナクダイムラーヨキ
モノ一台アリ。帰リニ工藤氏ヲ天下茶屋ニ訪問シタガ十日程前ニ添川へ行ツタトノコト。
夜鵜飼、中來 金出來ズ土曜ニ出ルトノコトニ、兎ニ角ツクラセルコトニス 昨日兄ノ方ハ
七十二円ニテ旅費ノ形式成立 十五円デ四錢ツリタル由

▲▼146ページ▲▼ 昭和8(1933)年5月19日(金)

天気 曇リ

午後宝塚ノ飛行場ヲ見ニ行ク予定ノ處中ヨリ電話ニテ神戸ハ鶺鴒ト二人デ行ク事ニナツタカラトノコトニ午後八エミ子ト道頓堀ヲ散歩ス 鈴木友茂君ニ會フ 夕食新世界ニテ御馳走ニナリ夜鶺鴒來 明朝金ヲ届ケル事ガ出來ルカ間違ッタラ京都へ行ツテカ帰リニ寄ルトノコトデアッタ。今日藤原ニ面會 一森国許へ帰參不可能ノ件事傳ヲ話シタラ恐縮シテ居タトノコト

▲▼147ページ▲▼ 昭和8(1933)年5月20日(土)

天気 晴

十時ニ鶺鴒電話スルトノコトニ待ツタガツヒニ電話ナク朝日ニ行ク 平井氏多忙ノ爲メ會エズ 新次長久氏、ニ會フ 丁度河内氏モ來テ居タ オードジロ今飛ンデ來タトノコト見セテ貰フコトトス 自動車デ練兵場迄送ツテ呉レタ 電車モバスモ通ツテ居テ随分ヨクナツテ居タ
オードジロヲ塚越君ノ説明デ見ル 翼ノ浮力ト遠心力ト重石トガアリツリ合ヒガ取レル様ニナツテ居タコトハ自分ノ今迄ノ考トノ上ニ大ナ参考トナツタ ヘリコプターニモ之レハ應用シ得ルノデハナイカ
大毎格納庫ニモ立寄ツテ帰宅。夜十時四十分ニテ出發スルコトニキメル 鶺鴒ツヒニ來ラズ兄ヨリ弍十円借ル

▲▼148ページ▲▼ 昭和8(1933)年5月21日(日)

天気 雨後晴

函根ヲ越スト次第二晴レ東京ハ上天気デアッタ
十一時半ノ乗合ニテ帰宅ス 鈴木伊ヨリ留都(ママ)中ノ報告ヲ聞ク 明日霞ヶ浦ノ下見ト飯沼ノ格納庫開キト一所ニナルノデ鈴木ヲ東京へ 自分ハ霞ヶ浦へ行クコトトス 和子ハ一寸ノ間ニドシ、、這フ様ニナツテ居タ
庭ノ花ハ一セイニサイテ居タ。アヤメモ花サカリデアッタ
菅谷氏外ニ名奈良原氏ノ名刺ヲ以テ來場 和田、田辺ノ二人ト絶縁スル必要アリトノコトデコチラノ様子モ見ニ來タデアッタ

▲▼149ページ▲▼ 昭和8(1933)年5月22日(月)

天気 雨

霞ヶ浦拂下下見ニ出張途中奈良原氏ニ會フ 今日上京 普及会解散ノ宣言ヲスルトノコトデアッタガ一方ノ言ダケデアハ宜シクアルマイカラ自重シテ実行セラレタイコトヲ希望シテ居ク

下見ノ後チ四時十五分發ニテ歸ル
飯沼洲崎ノ格納庫開キヲ行フ 鈴木ヲ代理トシテ祝物ヲ持タセテヤル
帰途磯健太郎ニ会フ 又坂本ノ計算書ヲ今日ホシイトノコトデアツタガ今日ハ、ツカレ
テ居ルカラ明日東京駅デ渡スコトヲ約ス

▲▼150ページ▲▼ 昭和8(1933)年5月23日(火)

天気晴

入札ノ爲鈴木横須賀へ出張サセル 其時坂本ノ計算書持参セシム
坂本(婦人協会)來 大坂迄ノ飛行ヲヤツテ呉レトノコト 來月中旬トシテ契約書ヲ欲
シイ 半分今日渡ストノコトニ見積リヲ一時間三十五円ヲ準備飛行五時間ヲ入レテ五
百七十五円トナツタガ、結局三百五十円シカナイノデソレデヤツテ貫ヒタイトノコト
準備飛行ハ全然コチラ負担ノコトトナル。ヤハリ云フコトガインチキデアル ソレデ今日
五十円シカ持ツテ居ラナイトノコトデツヒニ明後日所沢ノ帰リニ半分渡トテ一文モ置
イテ行カズ、明日上仲洋服ノ寸法ヲ取りニヨコシテ呉レトノコトデ歸ル
午後船橋ニ受驗中ノ熊谷ヲ見ニ森サンニ挨拶ニ行ク
水戸部飯田來場 ベンツ至急サガシタ上着手スルコトトナリ決定 廿八日ノ飛行タノマ
レル
今夜ヨリ夜業

▲▼151ページ▲▼ 昭和8(1933)年5月24日(水)

天気晴

奈良原氏來場 一昨日和田氏盛岡ニ出張ノ爲メ帰京ノ上決定スルトノコトデアツタ
鈴木局ノ廿六日ノ検査ヲ廿九日ニ延期ト警視廳ノ手續キニ上京ス

▲▼152ページ▲▼ 昭和8(1933)年5月25日(木)

天気晴

所沢出張 拂下ノ爲メ今日持出シニ足ラズ分配ダケ終ル 帰途アート商会ニヨル ピス
トシアトリングノ、ミゾヲ作ルダケニナツテ居タ

▲▼153ページ▲▼ 昭和8(1933)年5月26日(金)

天気晴

午後船橋ノガソリン屋へ受檢用ガソリンノ交渉ニ行キ間ニ合セルコトニス。散髪シテ宗里

ニヨリ、ツタトブドウノ苗ヲ貰ツテ帰ル 往復自轉車で行ク
奈良原氏帰リヲ待ツテ居ラレタ 金件五円クラブノヨリ渡ス

▲▼154ページ▲▼ 昭和8(1933)年5月27日(土)

天気 晴

上京 作業会社事務所待ツタガ加藤氏十一時過ギルモ來ラズ局ニ行ク 軽飛行機ノ
製造検査願ヒヲ提出ス 課長ニ同機ノ試作奨励金ヲ頼ム ツヒデニ藤原ノ問題ヲ語り
合フ 双方悪イト云フコトハ自分ト同感デアッタ 廿九日ノ検査二十日トナル
川崎造船ニ天野氏訪問 コードロンノ件田中氏へ傳言ヲタノム。野沢組ニテ石橋ニ会フ
ポップジョイノカタログヲ貰フ 値段シラベテ居クコトヲタノム。再ビ作業会社ニ行ク。金
呉レズ三十日ト約ス 飛行館ニ行ク 奈良原氏來ラズ 伊藤西夫氏ニ行キ先付小切手
ニテ式百円ニ枚貰フ 佐藤ニヨリカクタイヲ取りニ水ニヨッタガ引ケタアトデアッタノデ
スグ帰ル

▲▼155ページ▲▼ 昭和8(1933)年5月28日(日)

天気 曇リ

今日ハ非常ニ寒カッタ 日曜ナレドモ休マズ
女中石ノ父本日ヨリ來 航空神社地行(ママ)ヲ行ワシム 金太郎ニ手傳ワセ、土堤ノ形
ヲ作ル
奈良原氏ヨリ金送レトノハガキ來 今日ハドウニモナラナカッタノデ明日、クラブカラ都
合スルコトトス
水戸部氏ノ広告飛行ニ出張セシモ字幕ヲ取りニ神田道行ツタノガ少シオクレ廿五分ノ
コトデ中止トナル 馬鹿々々敷シイコトデアッタ
午後宗里氏來 青木飛行士ノ件デ遠藤氏ニ會ツテ欲シイトノコト 明朝行クコトヲ約
ス

▲▼156ページ▲▼ 昭和8(1933)年5月29日(月)

天気 晴

宗里氏ヨリ電話アリ 青木氏ノ件少シ延バシテ呉レトノコトデ幸ヒデアッタ 奈良原氏
訪問 十円渡ス

▲▼157ページ▲▼ 昭和8(1933)年5月30日(火)

天気 晴

野呂十年式クラブサル完成検査。辻本坂本両氏來 順潮ニ終ル
奈良原氏來 普及会解散ニ決定 通知書ヲ出シタトノコトデアッタ。午後來ル

▲▼158ページ▲▼ 昭和8(1933)年5月31日(水)

天気 晴

上京 飛行館へ飯沼十時ニ來ルトノコトニ待ツタガ來ラズ 沢柳氏十一時半來 局提出
ノ性能表ヲ貰フ

晝食中山田君來 二時頃飯沼來 十年式整備見積書ヲ出ス 千四百余円 飯沼ノ予
算八千円デヤリタイトノコトデアッタガ前金ヲ皆クレルナラ千式百円ニスルト云ツタガ
出來ナカッタ 話マトマラズ四日ノページエント後ニス。局へ性能表提出 玉宮氏ヨリ輕
飛行機ノ製作費ヲ成ベク、クワシク知リタイトノコトニ予算書ヲ出スコトトス

▲▼160ページ▲▼ 昭和8(1933)年6月1日(木)

天気 晴

五時上京遠藤君訪問 宗里君依頼ノ青木操縦士ノ件ニツキ想(ママ)談 不調 帰リニ
宗里ニヨリ宗里直接交渉デ泣キ付キガヨイトオシエテ帰ル
晝迄一寝入リス

午後輕飛行機ノ予算書、三月分迄ノ決算表 小栗ノ奨励金願書ヲ作ル

▲▼161ページ▲▼ 昭和8(1933)年6月2日(金)

天気 曇リ

降りソウデツヒニ一日降ラナカッタ 恵美子ノ浅川遠足ハ上等デアッタ おバーサンガ
付添ヒデ行クノデ昨日稲毛カラ來ル 今朝ハ二時カラ起キテ居タ
局へ輕飛行機ノ予算書ヲ持参ス。監理課長ニ會ヒ奨励金ノコトヲ頼ミ尚協会ヘノ分モ至
急取ハカラワレタイ旨依頼ス

飛行協会評議員会ニ出席ス。奈良原氏ニ川崎へ行ツテ貰フ 田中勇氏ニ會見 大變都
合ヨカッタトノコトデアッタ

▲▼162ページ▲▼ 昭和8(1933)年6月3日(土)

天気 晴

今日ハ自分ノタン生日 皆ニ赤飯ヲ馳走ス

▲▼163ページ▲▼ 昭和8(1933)年6月4日(日)

天気 晴

午後ヨリ仁三郎ヲ連レテ上京 川崎ノページェントヲ見ル 亜細亜ノ主催、安岡頼マレテ行ク

鈴木伊モ朝カラ行ク

井上幾太郎大将来場サレ民間ノ飛行場ヲ見タイトノ事デアッタ 他ニ工場ノ事ナド話シ合フ

終リテスグ帰宅ス

午前下志津入営中ノ豊田、沢田、外一名來 立川ノ島本良モ來ル 十日除隊ノ由

▲▼164ページ▲▼ 昭和8(1933)年6月5日(月)

天気 晴

白戸ヘ電話シテ四王天中将ノ來葉訪問ヲ德永氏ニ通ジテ貰フ。午後二時半頃奈良原氏來 共ニ自動車ニテ行ク 德永氏宅ニ行ツタラ教育会ノ方トノコトニ行ク スグ四王天氏來 一時間程談フマジエ夕食ノ爲メ一端出テ更ニ六時半入場 四王天氏ノ講演ハ約一時間半ニテ終ル 八時過ぎ

帰宅後早ク床ニ入ル

▲▼165ページ▲▼ 昭和8(1933)年6月6日(火)

天気 晴

ズツト飯沼ニ行キ計算シテ函ノ金受取ル。アトノ分モ貰フツモリナリシモ呉レズ。ページェントハ金收入七百余円ニテ千円程欠損ナリト

弘益社ニヨル 金マダ受取り居ラズトノコト 午後更ニ電話シテ話ス 明後日ニシテ呉レトノコト

局ニ行キ十年式トサルノ奨励金願書出ス

二等受検熊谷合格 大技又ダメ

飛行館ニテ普及会清算ニ関シ奈良原、菅谷、田辺、和田氏ト会合 菅谷氏最后ノ五百五十円ノ手形奈良原氏ハ和田ニ預ケテアルトノコトナリシモ事実ハ関根氏ノ借金六百円ニ対シ式百円内入リトシテ他ニテ割引入金セル由初メテ知ル。ソロ、奈良原式ヲ發揮サレ初メタヲ知ツタガ他人ノ手前ニ余リ多クヲ、聞ク訳ケニ行カナカッタ。氏ハ今月中ニ自分ノ手デ、返ストハ云ワレルガ出來ル訳ハナイ。九日菅谷氏ト会見スルコトトス 帰りハ佐藤ニ立寄り帰宅

▲▼166ページ▲▼ 昭和8(1933)年6月7日(水)

天気 曇雨

朝風アリ 午後暴風予報ナリシモ雨少シニテ終ル

日本航空会ノ会則ヲ作ル

鈴木菊雄ヲ呼び金請求明日

鈴木伊午後三田浜ニ集金ノ爲メ出張

上仲風気味ナリトモ休ム 練習ナケレバ必ず休ム ニクムベキ行爲デアル 自己本意ノ女

デアル

徳次月謝納メサセル

▲▼167ページ▲▼ 昭和8(1933)年6月8日(木)

天気 晴

終日在所 明日上京ノ準備ヲナス

▲▼168ページ▲▼ 昭和8(1933)年6月9日(金)

天気 晴

八時出上京 局安岡一五上仲サル拡張願書提出。十二日検査 クラブアンリオ、義勇アブロ内部検査打合せヲナス 西川ヨリ一五拂下以來二年モ置イテ賣ツタニツイテハ奨励金出セナイトノコトニアッタガダン、話シ拂下品ヲマトメルニ永クカ、ッタコト、賣ルニツイテハ課長ノ諒承ヲ求メタコトヲ話ス。

午前十時菅谷氏訪問 普及会清算ニ関シツヒニ菅谷氏ニ委任スルコトトス 五百五十円ノ手形ハ出資デナク奈良原氏が借りタコトニ念書ガ入レテアッタコトヲ初メテ知ル 之レデハドウシテモ奈良原氏が、ソレヲ使用シタコトニツイテハヨクナイガ結局アト輕飛行機ノ材料代位出ストノコトニ自分ノ方デ手形ヲ引取り返ス事ノ決心ス ソレニシテモイクラデ實際割引イテアルカ調査ヲ要ス

長岡外史將軍ノ慰靈祭ニ参列ス 飛行館ニテ水谷弘益社金取レズ 児玉静治氏ト夕食ヲ共ニス。坂本能登喜ト飛行館ニテ会見 大坂行契約ヲナス。明日津田沼ニ來ル由

▲▼169ページ▲▼ 昭和8(1933)年6月10日(土)

上京 局ハ検査ノ打合せヲヨル

十五水上奨励金出サイカモ知レストノコトニ出シテ貰フコトヲ頼ンデ事情ヲ具申シテ居

ク一協会ヨリ岡田氏ニ會フ

上京 徳次ノ父兄会ニ出席。水谷氏ヨツタガ今日モ不在 佐藤ニヨリ材料ヲタノミ協会ニテ岡田氏ニ會ヒ羽布間ニ合セ込ヲ依頼シテ百円ダケ渡スコトニス。再ビ佐藤ニヨリ品物受取ツテ帰ル

▲▼170ページ▲▼ 昭和8(1933)年6月11日(日)

天気 晴

信太郎ノ父兄会ニ佐倉中學へ行ク。上級校入學志願者大多数ノ由 今年ハ新校長ガ入學ニ非常ニ骨ヲ折ル由 主任教師ヨリ想(マ)談シテ帰ル 二時ニナツテ空腹デアッタ帰ツタラ坂本氏待ツテ居タ 途中浜松、名古屋ハ一泊セザル由。大坂練兵場許可ナキトキハ木津川ニテ差支ナキコト。明日満州迄ノ飛行ニツキ願書提出ノ手續キニ局へ行ツテ貰ヒタイトノコトナリシモ明後日午前十時トキメル
日曜ナレドモ夜業ヲヤル

▲▼171ページ▲▼ 昭和8(1933)年6月12日(月)

天気 晴

坂本南波両氏來 アブロ、アンリオ各内部検査終了ス
坂本氏二一五ノ件昨日作ツタ釋明書ヲ見セテタノム

▲▼172ページ▲▼ 昭和8(1933)年6月13日(火)

天気 晴

上京 局二一五奨励金ノ更ニ持参シタガスデニ出サナイコトニ決定シタトノコト 尚今後拂下ハ六ヶ月以内ニ整備スルコト 定期ハ一ケ年以内。ソレ以上ニナツタモノニハ奨励金ハヤラナイコトニキメタトノコトデアッタガ、ソレハ全然不都合ナコトデアル
協会ヘノ補助金ハ次官ノ所デ止ツテ居ルトテ協会ニ行キ交渉ノ上鈴木ノ奨励金四百五十円残全部ヲ出シテ貰フコト

アト商会ニ行キアンザニーピストン受取り。尚十六日カスミヶ浦自動車引取り二人ヲタノム 金二十円ト旅費二円預ケル

▲▼173ページ▲▼ 昭和8(1933)年6月14日(水)

天気 曇後晴

朝降ツテ居タガ後チ晴レル

今朝ハズット北島氏ニ會フベク会社へ行ツタガ不在 弘益社ニヨツタガ之レ又不在 青写真ヲタノミ散髪シテ飛行館ニ行ク。アート商会電話ニテ明日カスミヶ浦行ノ時間打合セヲ終ル。弘益社金支拂フトノコトニ取りニ行ク。帰ルト奈良原氏來テ居ラレタ。フィンド飛行士ノ有功賞授與式アリ 終ツテ技術課長ニ會ツタノデ一五奨励金ノコトヲ頼ム

局ニ行キ明日上仲拡張(サル)受檢ニツキ、打合セ高度計預テ帰ル
午後五時ヨリクラブ理事会開催 徳永氏安場氏児玉氏衣笠氏奈良原氏自分 七年度下半年決算承認 会則一部改正 終ツテ、クラニテ夕食ヲ共ニス。清平二十五円渡シ
奈良原氏二五円
帰宅十時
和子八度三分ばかり熱ガアツタノデ冷ス

▲▼174ページ▲▼ 昭和8(1933)年6月15日(木)

天気 曇リ

拂下引取りノ爲メ佐藤出張サセル カスミヶ浦へ
晝頃森サン來 上仲ノ拡張試験ヲ行フ 着陸目標ト接地不良。拡張終リタレドモ乞テ免状記入ハ安岡ヨリ充分ナリトノ報告後ヤルコトニ本人ニ出シテ居ク
坂本外二名夕方來 今月ヨリ上仲ニ給料ヲヤル様ナコトヲ云ツテ居タノデ手當ヲヤルコトハ差支ナキモノレモ必ず自分ノ手ヲ通シテヤルコトニセラレタシト云ツテ居ク 明後日大坂へ行ク由。出発前ノ七十五円ト自分ノ旅費、上仲ノ不時着金 以上ノ外ニ大坂ニテ受取ルベキ金ノ内デ返金スル様話ス。

▲▼175ページ▲▼ 昭和8(1933)年6月16日(金)

天気 曇

終日在所 庭ツクリ。サツキ植替エ
鈴木伊上京 クラブノ小切手ヲ現金ニ取替ノ爲メ洲崎遠藤へ綱引キ函調査ノ爲メ、山本林平氏責務延期諒解ニヤル
三溝夕方來 廿五日藤沢ニテ飛行來テ呉レトノコト 機体借用料一日百七十五円ニ日分貰フトトニナツテ居ル由
鈴木ノ機体借リテヤルコトニ決メル 当日來テ呉レトノコトナリシモ行ケルヤ否ヤギ問ニツキ奈良原氏ニ行ツテ貰フトトヲ云ツテ居ク
九州ヨリ塚本氏帰ル飛行機ガ欲シイト云フ様ナ話シモアツタガ雑談ノミ。上仲ノ練習思ワシカラズ マダ、
カスミヶ浦拂下引取り 始動車スプリング、タイヤー等ナク、三十円デ動ク様ニナルト

ノコトニ土浦へ頼ンデ帰ル。其他夜八時頃到着ス

▲▼176ページ▲▼ 昭和8(1933)年6月17日(土)

天気晴

終日在所 給料モオイ、セマルノデ金飯沼ノ十年式内金ヲ取ルコト 菅谷氏軽飛行機ノ材料代出サセルコトノ方針 一ミリ今ノ處ナク明日出カケルコトニス

▲▼177ページ▲▼ 昭和8(1933)年6月18日(日)

天気晴

上京 菅谷氏訪問 奈良原氏ノ式百円デ済ムトノコトニ、アト軽飛行機材料代千五百円提出シテ貰ツテ式百円ハ其内ニ出資シテ貰ヒタイト依頼ス 千五百円ニ難色アツタガ式百円ダケハ出ストノコトデアツタガ青木氏(手形ニ金ヲ出シテ居ル人)ニ一應聞イテ見ル必要ル(ママ)トノコトニ電話シタガ不在 明朝同道スルコトニ約束ス

今日飯沼へ十年式整備ノ件ヲ取キメニ行ク予定ナリシモ明日上京スルトナルト旅費ノ都合ガアルノデスグ帰宅ス 途中ブラ、隅田公園ヲ散歩ス 帰りニ上仲宅ニヨツタラ飛行場へ行ツタトノコトデアツタ

▲▼178ページ▲▼ 昭和8(1933)年6月19日(月)

天気晴

両国着 菅谷ニ電話シテ石原町停留所デ待チ合セ共ニ青木藤助氏ヲ訪問 手形ニ対シテ、イクラ融通シタカ聞イテ見ルト四百五十円余貸シテ居ルトノコト 奈良原氏ノ式百円持ツテ行ツタ、ダケデハ、ラチガアキソウニモナカッタノデ今夜後チニ関根君ニ會フコトニシテ分レル 局ニ高度計ヲ返シ上仲ノ免状ニサルヲ記入シテ貰フ 廿四日ノ検査 廿六日ニ延期シテ貰フ。明日パ راشニートノ試験ガアルトノコトニ、過日ノ目残シ品ヲ見テ貰フコトトス

飛行館ニ奈良原氏ト会 丁度関根君來 青木ガ行ツタトノコト 結局金ハ四百五十余円借りタガ他ノ貸借関係デ式百円デ手形ハ必ず返ストノコト。何處デモ指定サレタ場所迄持ツテ行クトノコトデアツタ。尚六百円奈良原氏ガ借りタノダト思ツテ居タラ関根君ガ借りテ居ルノデ奈良原氏ハ関根氏ニ多少借りガアツタトノコトデ丸デ、キツネニツマメレタ様ナ話シデアツタ

以下三百八十頁へ

(380ページへ続く)

▲▼179ページ▲▼ 昭和8(1933)年6月20日(火)

天気 晴

上仲函根迄野外飛行雲ノ爲メ函根コセス成績良シカラズ。大坂迄定期ニ同乗サセル必要アルベシ

駒林氏來場 鈴木菊方猿谷ノパラシュート投下試験ヲ行フ 鈴木アブロ無クナッタノデ、クラブサルムソニテ実験ス

義勇ノアブロ支柱クラブアンリオノ翼一枚内部検査ヲシテ貰フ
夕方御国ヨリアブロ主翼外部品到着ス

鳥飼氏來 マグネトローン用不良品五六個持ッテ帰ル ダイヤモンド五百円デ買ッタガ一、八カラト入質シテアルノヲ流スノガオシイデ賣リタイノダガ出スノニ金ガ入ルノデ機ガアッタラ一日カニ日融通シテ呉レトノコトデアッタ

田中不二雄夕方久シ振リデ來 スグ帰ル

▲▼180ページ▲▼ 昭和8(1933)年6月21日(水)

天気 曇リ

上仲上京 洋服假リ縫ヒノタメ。午後坂本來ル予定ツヒニ來ラズ

道永君ニ依頼シテ上仲大坂迄旅客機ニ乗セテ貰フコトヲ骨折ッテ貰フ 其爲メ上仲ヲ航空時代ヘモ立寄ラセル

▲▼181ページ▲▼ 昭和8(1933)年6月22日(木)

天気 曇小雨

旅客機今朝下リ便鈴鹿ニテ雲ノ爲メ不時着大破 負傷者アリ

終日航空タクシーノ予算書ヲ作ル

夕方坂本來 廿五日ヤッテ貰ヒタイトノコトニテ決定 残金弍百五十円受取ル 自分明日夜行ッテ大坂へ出立ノコト 道永君ヨリ七時頃明朝上仲六時迄ニ飛行館へ來イトノ電話アリ

▲▼182ページ▲▼ 昭和8(1933)年6月23日(金)

天気 曇小雨

鈴木上京 局ノ金取りニヤル

不在中ノ用件ト、ノエ

夕方出カケル 途中上仲ニヨリ打合セ本日雨ノ爲メ上仲大行(ママ)行旅客機飛行中止ノ爲メ明朝ノ一便ニテ行クコトナル

東京駅ニテ清平ニ會ヒ日本橋迄ノリヲ買ヒニ行キ夕食ヲ共ニシテ九時過ギノ汽車ニノル

◆▼1833ページ◆▼ 昭和8(1933)年6月24日(土)

天気晴

夜ガ明ケルトヨイ天気デアッタ 大坂モヨカッタ 新世界へ着クトスグ飛行場へ電話シタラ丁度旅客機ガツイタ處デアッタ 坂本氏行ツテ居ラナイトノコトニ新世界迄タクシ―デ來ル様ニ云ヒツケル 十一時過ギ來 晝食後休マセテ三丁目へ行ク 竹島ニ挨拶ススグ坂本氏カラ電話トノコトニ行ク 今來ルトノコトニ待チ合セスグ師団へ同道ス 東京ノ坂本氏ヨリ何等通知ナク明日ノ飛行ニ取リキメテアルトノコトニ社ヤ師團ヲ延期サセル 師團ノ方ハ中々好クヤツテ居ル様子デアッタ。三時頃分レテ一度帰り佐渡島ニヨル 若主人ニ會ヒ、朝日會館ニ行ク 佐々木來ラズ森サンニ會フ。藤原ノ件ニテ福知、坂東、久、西田、笹川氏等ヨル 藤原違反(ママ)事件デ皆ブンガイ 調停ヨリ手ヲ引クトノコトデ其引方ニツキ議論出テマトマラズ 結局声明書ノ様ナモノデカントニスルコトニシテ廿九會合決定スル由。自分ハ、ケン悪ナル雲行キヲナントカ、シテヤリタイト思テ居タガ一二井上ニ聞イタダケデ發言ハシナカッタ

◆▼184ページ◆▼ 昭和8(1933)年6月25日(日)

天気晴

上天気デアッタ。久次郎ヲ連レテ神戸ニ行ク 藤原ニ會フ 昨日井上ノロカラ出タ話シト大分違フ 大一事件ノ如キモ井上ノ話シデハ、徹頭徹尾藤原ガ悪カッタガ、藤原ニ聞クト井上ノ飛行士ガ飛ブト言ツタガ彼レ等ニキズヲツケサセマイ爲メ自分デ飛ンダノデ井上ノ云フ藝者ヲ乗セタナドハ全然無根デアッタ。シカモマダ、ダレモ藤原ニ會ツタモノナク藤原ト井上ハ前日ノ二十日ニ一度會ツタキリデアルトノコト 外ニハ福知氏ニ何ニモカモ話シテアル由 補知昨日モ晝福知氏ニ會ツタトノコト。福知氏ハ昨夜ソナ話シガチットモナカッタノハ変デアッタ 要スルニ調停者ト云フノガロデ云フ如ク公平トハ思ワレナカッタ。尚一両日中絶縁ニ間ガアルノデ其間ニ、何ントカ方法ヲ講ジテヤルコトニ約束シテ海岸ヤ湊川神社、布引ヲ見物シニ時大坂着 福知氏ト久氏ヲ訪問シタガドチラモ休ミ 帰宅 終日江戸川氏ノ探貞(ママ)小説ガ面白ク讀ンデシマウ

◆▼185ページ◆▼ 昭和8(1933)年6月26日(月)

天気晴

終日練兵場ニ行ツテ居タガ途中不良ニテ中止ス

福知氏練兵場ニ來 藤原君ノ問題ニツキ協議ス 自分ヨリ絶縁状ノ發送中止ト再考慮
ヲ懇願ス 他ノ人々へ通ジルトノコトデアッタ

藝者ヲノセタコトナイト云フ事実ニツイテハ藤原カラモ聞イテ居ラヌトノコトデアッタ
福知氏ハタゞ単ニ僕カラ藤原ヲ押ヘテ貫ヒタイ様ナ考ヘデアッタラシカッタガ井上ノ報告
事実相違ト云フコトカラ再考慮トナル

◆▼186ページ◆▼ 昭和8(1933)年6月27日(火)

天気晴

晴レタレドモ雲多シ 六時起床 堺ニ行ク 張君ニ會フ 神戸へ行ツタ操縦士ウルシ原君
上京不在 同行セル機関士新開三郎君ヲ呼ンデ貫ヒ神戸へ行ツタ時ノコトヲ聞ク 藝
者ハ乗セナカッタコト 溝口氏ガウルシ原君ニ乗テ呉レト依頼シ同君モ其氣ニナツタコト。
航空局へハ帰りニ立ヨラズ井上ニ報告シ局へハ井上カラ翌日話シタ由 スベテ井上ノ言ガ
違ツテ居ルコトヲ確メ得タ。福知氏ニ報告ス 諸氏ノ会合ハ坂東氏本日 廿一時練兵場
ニ行ク差支アリ明日ハ久氏差支アリ明後日午後五時カラ会合ノ由

十一時頃ヨリ練兵場ニ行ク 十一時七分羽田出發セル由 四時頃ニナリ雨ノ爲メ三方
ヶ原不時着ノ入電アリ。直チニ隊へ電話ニテ聞合セル。スデニ宿ニ引上ゲタル由

夜宿へ電話スル 散歩ニ出タトノコト

練兵場ニテ中君ニ會フ 帰宅 夕食ヲ共ニス

◆▼187ページ◆▼ 昭和8(1933)年6月28日(水)

天気晴

六時半ヨリ木津川ニ行ク 七時半 天気状(マ)報ヨリ約束ニヨリ七聯隊へ電話シタガ
上仲來テ居ラズ 天気通報スル迄待ツ様事傳ル 後チ龜山以西ヨクナル。浜松雲低キ
モヨクナル見込ニツキ出發命令ヲ發ス 第二回十一時ニ出發命令ヲ出ス 天気マス、ヨ
ク練兵場ニ行ク 十二時過ギテモ発報ナク聯隊へ電話ヲカケルト同時ニ入電アリ ポン
プ故障ノ爲メ修理中 一時頃再度電話スル 今日中ニ修理完成出發見込ミナシトノコ
ト 二時頃氣象台ヨリ近畿一帯ニ雷雨模様アリトノコトニ飛行中止ヲ命ズ

木津川ニテ石田支所長ニ會フ 藤原ノ件ニツキ依頼ス。井上ノ報告間違ニツイテハヤハリ
意外ニ思ツテ居タ。井上ガ佐々木氏ニオモネル風アルコトハ石田氏モ認メテ居ラレタ。昨
日中君カラモンシナ話シガアッタ

◆▼188ページ◆▼ 昭和8(1933)年6月29日(木)

天気 晴

大坂ハ上天気 朝六時半電話シテ上仲ト話ス マダ修理出来ズ見込ミ立タナイトノコトニ浜松製作所ヘタノマセルコトトシ出来次第通知ヲヨコスコトニ打合せタガ更ニ通知ナク十二時半修理ミニコミイカバト打電セント行キ違ヒ二午後ノ天候知ラセトノコト二十一時半ノ観測ヲ打電ス ヤ、ヨカッタガ練兵場ニテ(坂本夫人)電話ニテ今浜松ト話シヲシタラ三時半頃出来ルトノコトデアッタ由ナレドモ天候悪シク海軍機モ大坂泊リ(大村ヨリ横須賀行)ニ付中止サセタイトノコトニスグ又打電ス 夜七時半迫ニ二階(ママ)電話シタガマダ宿ニカヘラズ 修理ナラザルモノト見テ津田沼ヘ電話シ佐藤ヲ十時五十五分ニ乗セルコトヲ命ジタルニ昨日カラ銚子ニ出張不在トノコト 安岡行ク様ニ命ズ 後チアスアサタツテンキシラセト入電アリ 電話カケル様ニ云ツテアルノニ馬鹿モノガ

以下三八一頁へ

(381ページへ続く)

◆▼189ページ◆▼ 昭和8(1933)年6月30日(金)

天気 晴

天候ヨク出発命令ヲ出ス 試飛行シテ着陸ニ左車軸ヲマゲ取替ニ今日中ニ出来ルカドウカ分ラヌトノコトニ取アエズ安岡ニ浜松ヘ行ク様打電ス
午後三時半出発セリトノ報アリ 国粹ノ松葉機モ四時頃出タトノコトデアッタガ一時間半ニテ松葉機到着セシテ上仲来ラズ 大毎カラ明野ヘ電話デ聞イテ貰ツタラ丁度不時着シテ居タノデ一安心ス 鈴鹿ガ雲デ越セナカッタトノコト。スグ宅ニモ帰ラズ伊セヲ急行ス 九時半田中屋旅館ニツク

◆▼191ページ◆▼ 昭和8(1933)年7月1日(土)

天気 晴

木津川飛行場ト連絡シテ明野ニ行ク 鈴鹿雲低ク見込ナカルベシトノコトデアッタノデ格納ニ行キ機体ノ検査ヲナス 六本線ガ一本半分バカリ切レテ居タノデ補強シヨウト思ツタラ新品ヲ呉レタノデ全部取(ママ)エル 自分デ作業ヲヤル 三時半頃出来上テ、ガソリンノ補給モ終ル

大坂カラハ朝日ノ飛行機ガ今来タカラ雲ハアルガ通レルカラ来イトノコトデアッタガ飛行場デ陸軍大臣ノ爲メノ戦闘演習ガ初マリ、シユウ雨模様ニナッタノデ中止シテ帰宿後電話スル 明日ハ飛行場ノ準備出来ナイカラ明後日ニシテ呉レトノコトデアッタ

久シ振リニ仕事シタノデ少シツカレテ眠ル

安岡浜松カラ行コウカトノ電アッタガ返スル

夜夕食時飲酒ヲ禁ズル様上仲ニ自分ノ乗ツテ居タ頃ノコトヲ話ス

▲▼1926ページ▲▼ 昭和8(1933)年7月2日(日)

天気晴

今日ハ朝カラ飛行ノ心得ニツキ話シス

今日ハ中止ト云フノデユックリシ津田沼へ手紙ヲ書イタリシテ参宮ニ上仲ヲ連レテ行カフト思ツテ居ル處へ九時半ヨリ大坂ヨリ電話ニテ今日練兵場ノ準備スルカラ來テ呉レトノコトニ亀山ヲ聞キ合セルト雲六百位山見エルトノコトニ前数日來ノ天氣トカワリナク雲ハダン、高クナル見込ニテ出カケル 日曜デ、タレモ居ナカッタ。日直ノ人タチガヨク世話ヲシテ呉レテ十一時三十四分發 五十分間迄飛行場デ待ツタガ帰ラナカッタノデ事務所ノ電話ヲ待ツタガ來ナイデ二時コチラカラ、カケルト一時間五分デ無事ツイタトノコト 宿ニ引上げタラ三時半 晝食ヲナシ支拂ヒラシテ夕方大坂着 二十五銭金ガ残ツタダケ 坂本へ電話ヲカケテ居ク。

津田沼カラ手紙來テ居タ 大分困ツテ居ル様子 信太郎カラ木工(大口上野)仕事ヲシナイトノ手紙ガ來テ居タ

▲▼1936ページ▲▼ 昭和8(1933)年7月3日(月)

天気晴

船橋ニテ高橋ニ宮アブロニテ墜落死ス

今日ハ出來レバ一氣ニ金ノ方キメタイト思ツテ九時半頃出テツヒデニ中山氏訪問 一通リ話シテ西店ニ行ク 表デ丁度會ヒ晝ニ他ニ約束ガアルトノコトニ一時ヲ約シテ、其間ニ婦人協会ノ宿ニ行ツテ見ル 坂本夫妻ト上仲禮廻リニ出テ居ラズ 別所夫人外男二人ト會フ 夫妻デケンカシテ居ルコトヤ手アテヤ車馬賃ヲ呉レナイコトナド、東京事務所ノコトナド大分内状ヲ聞イテ、トテモ見込ミナイト思ツタ。一時西店ニ行ク 二時帰宅サレル 種々話シノ末地所ノ要談ニ入りカケタ處へ來客アリ 明日午後一時ヲ約シテ帰宅 新世界今日ハ才祭りデ藝者ノ手踊リナドアリ。夕食後兄ト公園ニ這入ツテ見テ變ツタノニ驚ク

坂本上仲不在中ニ寄ツタ由

藤原件ニテ佐渡島ニテ井上長君ニ會フ 帰宅後佐々木氏上京中ニツキ藤原ニ対スル處分決定シテハト思テ両課長宛手紙ヲ出ス

▲▼1944ページ▲▼ 昭和8(1933)年7月4日(火)

天気晴

船橋ニテ高

七時新世界ヲ出テ彼レ等ノ宿ニ行キ上仲ヲ連レテ練兵場ニ機体ノ手入レニ行ク 二人
デ下カバー全部ヲ取り検點(ママ)手入ヲナシ發動機ダケ朝日ノ機関士ニ見テ貰フ 三
時頃ガソリンカストルノ補給迄終リ、上仲ヲ連レテ西店ニ行キ挨拶後上仲ヲ待タセテ
用談ニ入り沢柳氏ノコトヲ話シ後チ金件ヲ話ス 五千五百円ト申出ル 現金出スコトハ
出來兼ルガ尚帰ル迄ニ一度會フト云ワレタ。例ノ如クデ望ミハタエナカッタノデシカモ今
日ハ主人ハ昨夜十二時頃ニナリ今日ハ又免(ママ)倒ナコトバカリデ大分ツカレテ居ルトノ
コトデ引サガリ上仲ヲ連レテ新世界ニ帰ル 入浴後丁度手踊ガ表ヲ通ル 夕食後八時
上仲宿ニ帰ル

上仲ニ有名ニナル程身ヲツ、シムベキコトヲ云ヒ聞カセル。今日ハ初メテ彼女ノ自宅ガ女
郎屋デアルコト、ソレガイヤデ家ヲ出タコトナド話ス

昨夜坂本ト口論シタトカ云テ居タガ坂本ハドーセ出來ナイニシテモ上仲ノ爲メニハ有益
デアッタノダカラ当地デハ成ベク出來ノヨイ様ニシテヤル様云ヒキカセテ居ク

◆▼1956年7月5日(水)

天気晴

今日ハ佐渡島行キヲ止メ何等用モナイノデ新世界デ本ナドヨム 井上ヨリ夕方五時ヨ
リ飛行クラブデ會合ヲスルトノコトデアッタ。午後タクシーノ計算ヲヤツテ居ル内速力
ノ早イ程キロメートル當リ安クナルコトヲ発見シテ馬力ノ小サクテオソキヨリ大キクテ
モ早イ方ガヨイコトヲタシカメタ

三時半出テ坂本ノ宿ニヨル 妻君ト上仲ガ居タ 上仲ハ今日ハドコモ出ナカッタトノコ
ト 時該(ママ)ヲハカツテ朝日ニヨリ久氏ニ昨日ノ禮ヲ述べ十分程アッタノデ四郎平氏ニ
ヨル 小ビール一本馳走ニツテスグ、飛行クラブニ行ク。石田氏井上君福知君來 坂
東氏不參。西田來ルトノコトデアッタガ來ラズ 久氏オクレテ來 マヅ藤原ト佐々木氏
ニ対スル手ヲ引クニツイテノ声明書藤原ノ分ハ福知氏 佐々木氏ノ分ハ久氏ノ書イタノ
ガ持チ出サレタガ、ソレノ發送ヲ見合セ藤原ニ會ツテ今一度調定(ママ)ノ勞ヲ取ラレタ
イコトヲ述ベル 種々意見ガ出タガツヒニ藤原ニ會フト云フコトニナツテ明日午後五時集
合ノコトトナル 帰宅後藤原へ明日三時迄ニ來ル様打電ス

◆▼1960年7月6日(木)

天気晴

今日モタイクツ 本ヲ讀ンダリ、タクシー予算書ヲ作ツタリ

二時頃上仲來 一時間程シテ帰ル

三時過ギ藤原君來 一切謝罪スルコトヲヨク諒解サセ四時半ヨリ出カケル クラブニ行

ク 石田氏スデニ來テ居ラレタ 五時半大毎行クコトニナリ同所ニテ出席者本日ハ全部揃フ 坂東氏井上氏西田氏福知氏久氏石田氏。自分ヨリ藤原ヲ紹介シ藤原ヨリ、六一事件ニツキ辨明シ調定(ママ)方ヲ懇願ス 一時退席シテ調定(ママ)者側デ協議アリ 後チ福知氏來 藤原氏カラ改メテ無條件デ頼ムトノ言葉ガアレバ一同デ尽力仕様トノコトデ再会见 藤原ヨリ右ノ旨声明懇願シ皆テ引受ケラル。コレデ自分ノ役目ハスンダ ヤット重荷ヲオロス
藤原ト元志ノ處ニヨル 元志ト新世界ニ帰ル
夕後早ク床ニ入ル

◆▼197ページ◆▼ 昭和8(1933)年7月7日(金)

天気 晴

朝ウスグモリ後チ次第ニヨクナル

東京飛行場ト安岡へ十日出発ノ旨手紙出ス

九時過ギヨリ上仲ヲ連レテ練兵場ニコツクノ調査トグリーンズポンプニグリーンズヲ入レルコト試運轉ノ爲メニ行ク ツヒデニ脚ノ曲ツタノヲ補強シ一時頃終リソレヨリ奈良見物ニ連レテ行ク 五時宿ノ近ク迫送ツテ帰宅 夕食後新世界ノ兄弟ト、アシベ館ヲ見物ニ行ク

鈴木正憲母ヨリアブロ機整備ノ件ニツキ手紙來 奈良原氏ヨリハガキ來ル

◆▼198ページ◆▼ 昭和8(1933)年7月8日(土)

天気 晴

十一時頃佐渡島ニ行ク 主人不在 新宅ニ會フ 明日苜屋へ訪問スルコトニシテ、塩町ノ精養軒ニテ晝食ヲ取ル 児供ノ頃ヲ思ヒ出ス。主人モ變ツテ居ナイトノコト ライカレノ味モ變ツテ居ナカッタ。酒井庄太郎君ヲ訪問 一時間程話シテ丁度ニ二時堂ビルノ清交社ニ行ク 石田氏、大毎ニテ羽太、松下、中務君來。アトハ国防婦人会、関西婦人聯合会、大坂婦人聯合会ノ女バカリ 三時頃ヨリ座談会ハジマリ石井中佐ヨリ挨拶アリ 上仲ノ挨拶モヨク石田氏、国防婦人等ノ話シアリ 自分ニモトノコトニ婦人ト聯(マ)マ業ノコトニ飛行士トシテノ婦人並ニ上仲ノ労装ニツキ一言シタ處婦人連涙ヲ流シテ居ル人モアッタ

帰途坂ノ宿ニヨリ金ヲ請求シタガ帰京後ニシテ呉レトテ、ラチアカズ帰ル

◆▼199ページ◆▼ 昭和8(1933)年7月9日(日)

天気 晴

終日朝七時出テ芦屋佐渡島ニ行ク 昨夜オソクナッテ今日ハ本店ノ主人ノ病氣デア九時迄ニ大坂ヘ行クトノコトデアッタガ本店ヨリ電話デア病氣モ大變ヨイトノコトデ中止トナル ヨッテ三時間半バカリ色々話シタリ聞カサレタリ結局考ヘルトノコトデア金件定マラズ 中務氏ニヨッタガ、マダ來テ居ラナイノデ、電話ヲカケテ貰フコトニシテ帰宅 上仲ノ來ルノヲ待ツタガ二時電話ニテ桃谷ヘ行クカラ行ケヌト坂本ヨリ電話アリ 五時半ヨリ堺ニ行ク。会スルモノ井上長一、同兄、林君、張、中前、西小路、高橋カラワザ、長尾ガ來テ居タ 十時頃散会帰宅 愉快デアッタ

◆▼200ページ◆▼ 昭和8(1933)年7月10日(月)

天気 晴

六時起床 七時二天候ヲ聞ク 大体ヨシトノコト 上仲ノ宿ヲ電話シテ仕度スル様命ジ 七時半宿ニ行ク 鈴鹿雲六〇〇デ少シ低イガアト大体アリ九時飛行場ニ行ク 鈴鹿モ次第二雲高クナリツ、アリ モヤアレトモ視界ヨシトノコト二十時出發ト定メル 九時半一便大坂着 石田氏ニ様子ヲ聞ク 上仲トノコトニ試運轉モ終リ十時十二分離陸出發 ス 十時五十八分龜山通過ノ報アリ安心ス 二時過ギルモ着陸ナク心配セシモ同四十分頃一時五十八分頃羽田安着ノ報アリ 坂本ノ宿ヘ知ラス 練兵場ニテ福知氏ニ会フ 佐々木氏トノ会见状況ヲ聞ク 佐々木強固ノ様ナレドモ成ルベク皆デア會ッテ貰フ様ニタノム 朝日ニ行キ久氏ニ禮ヲ述べ佐渡島西店ニ行キ金件依頼 今日モキマラズ 尚考慮ノ余地ヲノコシテ、中山氏ヲ訪ネタガ不在 明朝九時ニ來ルト書キノコシテ帰ル 非常ニツカレタノデ早ク床ニ入ル

◆▼201ページ◆▼ 昭和8(1933)年7月11日(火)

天気 晴

佐渡島アヤナク色々考ヘテ丁度島ガ帰ッテ居ルノデ島ト廣瀬ニ話シテ見ル氣ニナル ソレニハ材料ガ入ルノデ八時二津田沼ヘ電話ヲ申込ダガ九時ニナッテモカ、ラズ 中山氏トノ約束ガアルノデ中止シテ出カケル 中山氏ニ來客アリ 待ツ内尚考ヘ佐渡島今日明日急(ママ)ガシイトノコトニ尚ヨク手紙ヲ出シテ意ヲツクスコトトシ中山氏ニハ今日午後会フトノコトニ頼ミ尚十三日午前中ヲ約シテ帰宅 スグ手紙ニテ佐渡島ヘ出ズ津田沼ヘ輕飛行機ノ計算書、予算書、カタログヲ送ル様打電ス 夕方送ツタトノ入電アリ

午後中新世界ニテ讀書 一森君來

◆▼202ページ◆▼ 昭和8(1933)年7月12日(水)

天気 晴

今日ハ終日在宅 午前中エミス町デ讀書 午後ハ新世界デ同ジク 明日ノ結果ヲ案ジツ、津田沼カラノ到着ヲ待ツ 夕方書類着 計算書ハ青写真焼イタマ、デアッタノデ夜ソロエテ切ル 九時半迄カ、ル

◆▼203ページ◆▼ 昭和8(1933)年7月13日(木)

天気 晴

今日コソハ何ントカ取キメルツモリデ朝父母ノ墓ト戎神社、広田氏神ニ参拝シテ九時出ル 中山氏訪問 マダ來テ居ラレナカッタノデ其間ヲ内淡路町ノ藤井清造氏訪問 不在 奥サンカラ色々伺フ。藤井ト桃谷ト共同デ桃井ビルヲ淡路町三丁目ニ経営 其管理ニ毎日行ツテ居ラレルトノコトデアッタ 今日ハ大ソージデ失禮スルトノコト引返シテ中山氏ト會ヒ一足先キニ西店へ行ク 社員ニ聞クト今日ハヨラレナイトノコト明日モドウカ分ラヌ由 ヨク聞クト今日結納納メガアルラシイノデ中山氏ト想(ママ)談明日苜屋へ行キ明後日店へ同道スルコトニシテ帰ル 今日モ空シ坂本夫妻マダ滞在中ノヨシ

◆▼204ページ◆▼ 昭和8(1933)年7月14日(金)

天気 晴

今日ハ苜屋デハ荷開キトノコト 今日モダメト思テ居タガ午後中務君來 二時迄學生飛行機ノ話シラシテ分レ藤井へ行クツモリデ出懸ケ中山氏へ寄ツテ見ル 三時カラ苜屋へ行クトノコトニ同道スルコトニシテ書類ヲ取りニ帰ル。大夕立ニ會フ。三時半中山氏同道苜屋ニ行ク 二三來客アリ 今日結納品ノ陳列ヲ拝見シタ 婚禮ハ十月頃ノ由 明日大ソージダガ大坂へ行クトノコトニ明日ヲ約シテ帰ル 夜新世界へ兄モ來 昔ノ話シデ笑フ

午前中新世界ノ兄カラ借金ト会社ノ狀況ヲ聞ク。帰坂以來姉カラ、タノマレテ居タコト 思ツタヨリ借金モ少ナカッタ

◆▼205ページ◆▼ 昭和8(1933)年7月15日(土)

天気 曇小雨

九時半中山氏宅ニ行ク 西店へ同道シタガ來ラズ。淡路町ノ藤井氏訪問 之レモマダ出勤セラレズ中山氏ニ帰ル 十一時頃一度見ニ行ツタガマダ來ラレズ 中山氏ト長堀ノ丸高屋デ晝食 一時頃行ツタガマダ來ラレナイトノコトニ自分ハ淡路町ニ行ク 藤井氏ニ會フ 久シク會ワナカッタガ変テ居ラレナカッタノハ心嬉シカッタ 其後ノ皆サンノ様子

ヲ聞ク内桃谷へ嫁ラレタ初子サンガ七年前ニ死ンダトノコト 初恋ノ人ダケニオシカッタ
其後モ時々夢ニ見タ佳人。藤井氏ノ紹介デ心交社ニ食満氏ヲ訪フ 今日坂本氏ト一
切手ヲ切ルコトニシタトノコト 最初三三百円ヤッタ由。三度西店ニヨル ツヒニ來ラレズ
中山氏ニ分レテ帰途坂本ヲ宿ニ訪フ 主人ハ今夜帰ルカモ知レヌトノコトデアッタガ桃
谷ガ後援シテ呉レルガ決定ハ廿日頃ト云ツテ居タ オカシカッタガ、ダマツテ帰ル
夜苜屋へ電話シタラ今夜ハ大坂泊リカモ知レヌトノコト 西店へ電話スルト今本店ノ主
人ガ死ナレタトノコト。スベテハ終ツタ コンナコトナラ十一日ニ帰ツテ居ケバヨカッタ。
夕方家内ヨリ電話アリ 早ク帰テ呉レトノコト 明バン立ツ様ニ云ツテ居イタガ佐渡ノ
葬儀十八日トナリ又ノビル

◆▼2006ページ◆▼ 昭和8(1933)年7月16日(日)

天気 薄曇リ晴

午前二時浜宅ヲ出テ三時本店へ遺ガイヲ写ス 中山氏ト相談シテ帰ツテモヨイトノコト
デアッタガ葬儀迄居ルコトニス 六時帰宅 一寝入リス 九時起キテ朝食 津田沼へ八十
八日済ミ次第帰ル様打電ス
島吉正マダ居タノデ來テ貰ヒ百五十円借入レヲ申込ム 今日八日曜デ休ンデ居ルカラ
明日トノコトニ借用証ダケ渡シテ居ク 練習費ト差引ノコトトス 地所話シソレトナク
シタガ、ダメラシイノデ止ル 後チ又一眠リス

◆▼2007ページ◆▼ 昭和8(1933)年7月17日(月)

天気 曇晴

廿時頃島ニ電話スル 間モサク來テ呉レタノデ百五十円借入ヲ申込ム 今日八日曜デオ
休ミトノコトニ明日兄ト相談ノ上返事スル由 大丈共ト見テ安心ス
九時過ギ島へ電話スル 不在 所員ノ話シデ吉正君ニヤルベキモノハ皆ヤツテシマッタノデ、
今ノ處ヤル金ガチツトモナイノデ迷惑ナガラ御コトワリスルトノコト、デアッタ。何ント
云フコトデアロウ。午後島ノ店へ行ツテ見ル 同ジコトデ本人不在 兄モ居ラナイノデ話
シモ出來ズ。四ツ橋ノ井上ノ店ニヨリ林君ニ話シ井上ニ電話シテ三十円借り佐渡島ニ行
ク 六時過ギ迄居リ兄ガ來テ代リ帰宅 ヤット旅費ダケ出來タガ帰宅後ガ思ヒヤラレ
ル

◆▼2008ページ◆▼ 昭和8(1933)年7月18日(火)

天気 晴

朝薄曇リ後晴レ 八時兄ト共ニ阿部野ニ行ク 附近ノ発展シタノニ驚ク 續々人來 八

時四十五分靈柩車到着 九時ヨリ讀經 自分等八禮場ニテ立ツ 十時終了一般ノ讀
拜十一時終ル予定ヲ自分ダケ十時半焼香ヲナシニ三人ノ人ニコトワツテ帰宅 仕度シ
テ十二時十分梅田着 一時発列車ニ乗ル 早イノハヨイガ油煙ニ閉口 名古屋ト静岡
デ洗面後夕食ニ食堂ニ行ク 九時二十分東京着 省線ニテ其マ、津田沼着 自動車ニ
テ帰宅ス。小供ハモ一皆眠ツテ居タ

▲▼209ページ▲▼ 昭和8(1933)年7月19日(水)

天気晴

鈴木ヨリ一通リ報告ヲ聞ク

高山君來 沢柳君ノ件報告ス 明日同君宅へ行ツテ見ルトノコト

手紙ノ整理ヤ何ンヤカヤト終日終ル

鈴木伊上京 材料代ヲ伊藤西夫氏ヨリ貰フコトニ交渉ニ行ク

鈴木正憲母朝來 破損ニ対スル損害請求ノ爲メ見積書ヲ作ツテ呉レトノコトニ午後作ッ
テ居ク

▲▼210ページ▲▼ 昭和8(1933)年7月20日(木)

天気晴

正憲母來 破損見積書ヤル 午後正憲來 全体ノ見積書ヲ欲シトノコトニ作ツテヤル

鈴木伊昨日ノ用件引ツゞキノ爲メ上京ス

太田病氣欠勤 佐藤家内病氣欠勤。不在中武川石川退所。茅ノ根病氣ノ爲メ帰宅

大分休場者アリ仕事ハカドラズ

出テ居ルモノモ未拂ノ爲メ作業振ワズ

▲▼211ページ▲▼ 昭和8(1933)年7月21日(金)

天気晴

手紙数通 カタガコツテ閉口ス

▲▼212ページ▲▼ 昭和8(1933)年7月22日(土)

天気晴

久シ振リニ上京 菅谷君ニ會フ ゴム原料高ノ爲メ奈良原氏ノ手形問題ノ二百円モ成
行キニカセルトノコト。軽飛行機ノ話シテモ、ダメト見キワメタノデ中止ス

局ニ行キ伊勢谷課長、河北氏、山田氏、ニ藤原ノ件聞カレテ話ス 先方ノ意志表示ナ

鈴木菊ノDノロンゲロン主線用テストピース玉宮氏ニ渡ス
飛行館ニ行ク 航法講習卒業生ノ披露ト云フガ祝ト云フカガアル 二時ノ予定ノ處所
沢方面大雷ノ爲メ開会ニ時半ニナル。終ッテ時代社ノ飛行學校坐談会ニ出席。後、日
本航空会ノ会則制定ス
午九時帰宅 清平來テ居タ

▲▼213ページ▲▼ 昭和8(1933)年7月23日(日)

天気晴

午前手紙中山氏へ 其他数通
夕方渡辺秀雄君縣信男君同道來 縣君クラブニ入会シタイト希望
渡辺君ハ所沢支部ニ入部出來タトノコト 大分仕事ガ愉快ラシカッタ
夕食ヲ共ニス 清平モ共ニ歸ル

▲▼214ページ▲▼ 昭和8(1933)年7月24日(月)

天気晴

終日在所 給料未拂ノタメ困ルモノアリ 小集金ニ努ム
未給勘定表ヲ作ラセル 五月分ハ割合ニ少ナカッタ
中台品モノ停止シテヨサズ 主人ヲ呼ビニヤッタガツヒニ來ラズ
大工十円ダケ渡ス

▲▼215ページ▲▼ 昭和8(1933)年7月25日(火)

天気 晴風強シ

渡辺、萩原、信岡、受検ノ爲メ立川ヘノ飛行風強ク中止ス。霞ヶ浦地上物物員黒沢外
一名出張
在郷軍人飛行奨励金受取り済ミ
佐藤銚子一五水上ニ出張 昨夜出發
鈴木上京 弘益社四十円受取り伊藤酉夫氏二百円交渉 面會出來ズ
住友デユラルミン引取方交渉アリ 一兩日中ニ返事スルコトトス
信太郎學業ノ件ニテ中學ヨリ呼出シアリシモ電話ニテ次回ニシテ貰フ
中台三十円渡ス

▲▼216ページ▲▼ 昭和8(1933)年7月26日(水)

天気 曇後雨

受検機二機午後一時頃出発ス

鈴木伊千葉鈴木正へヤル 病院へ行ツテ居ラナカッタ由

午後式時頃ヨリ上京 児玉氏訪問 今日八來ナイトノコトニ雨モシゲクナツタノデスグ
引返ス 協会へ電話ニテ明後日横須賀デ龍驤見學ニ奈良原氏同行ノ諒解ヲ得ル 帰途
市川ニヨリ同行ノコトヲ話ス

上野大口ノ件ニテ申出デアリ 蔭デハ去年ノ春カラノ分ガ金ガ貰ツテナイトカ、仕事
ヲ助ケニ來テヤツテ居ル様ナ口振りデ居タラシイ 自分ニ其事實ヲ聞カレタガ眞実ヲ
話セバ大口ノ立場ガナクナルノデ大口ト二人ノ間ノ事ハ云ヒ限リデナイトコトワル

▲▼217ページ▲▼ 昭和8(1933)年7月27日(木)

天気 雨

五時半起床 グライダー明日白木屋出品ニ合セルコトヲ今村ニグレ、話シ、鈴木
伊ニヨリ打合せシテ途中上野ニ會ヒグライダー完成ヲ話シテ、カスキヶ浦ニ行ク 宗里
氏同道 汽ノ中カラ雨降り始メル。十時過ぎ全部ノ下見ヲ終リ局出張所ニテ値段ヲ
入レ結(ママ)定 十二時二十分發ニテ帰場 十一時ヨリ十二時迄荒川沖ニテ大雷雨ニ
會フ

今日ノ二等試験ハ中止ス

午後グライダーハカドラズ自分作業ヲナス

夕方太田埴山一同ヲ代表シテ所員ノ棒(ママ)給ナドイッデモヨイト所長ガ云ワレタソ
ウダガ事実カトノ質問アリ一蹴ス 尚今日及將來ノ方針等ヨク話ス ヨク諒解シテ帰
ル 夜グライダー部夜業

右ノコトハ今村ガ皆ニ話シタ由 馬鹿ナ男モアルモノダ 今村事實無根ノコトヲ所員ニセ
ン動ス

▲▼218ページ▲▼ 昭和8(1933)年7月28日(金)

天気 晴

五時半宅ヲ出ル 鈴木菊同道 東京駅ヨリ奈良原氏ニ會ヒ共ニ行ク 横須賀海軍機橋
九時集合 主ナル人々ハ蜂須賀侯、四王天、栖原博士、安藤中将、谷田中将、其他約
二十五六名 ランチニテ龍驤ニ到ル。ランチヨリ正面ヲ見ル アダカモ圖ノ如キモノデア
ッタ 噸数七千百噸ニテ式万噸ノ赤城ト性能ニハ大差ナキ由 甲板カラスツカリ見セテ
貰フ 艦内修理中ニテ飛行機ハ全部追浜ニアリ見學希望者ニハコ、ヨリランチニテ行ク
自分ハ軍需部ノ入札ニ來タ信太郎ト打合せガアッタノデ数人ト共ニ駅ニテ信太郎ニ會
ヒニ笠ヲ見セテ帰宅ス。三笠艦上ニテ本間氏ニ會フ。グライダー白木屋へ發送ス

▲▼219ページ▲▼ 昭和8(1933)年7月29日(土)

天気 晴

終日在所手紙

▲▼220ページ▲▼ 昭和8(1933)年7月30日(日)

天気 晴後曇リ

夜佐藤、上野、太田三名ニテ來 給料不渡リノ爲メ仕事ガ手ニツカヌカラ休ミタイト
ノコトニツキ休ミタイモノハ休メ出タイモノハ出口ト云ヒ渡ス

▲▼221ページ▲▼ 昭和8(1933)年7月31日(月)

天気 晴少雨

今朝ハ皆休ムモノト思ツテ居タラ佐藤以外皆來タ
大口内ニ這入ッテロラ聞コウカトノコトデアッタガ今日ノ處其必要ヲ認メナカッタノデ
コトワル
縣君來場 入会金貳百円練習費貳百円入レタノデ工場へ三百円入金 ソレデ工場一
同へ一渡リ渡ス

▲▼222ページ▲▼ 8月

輕飛行機製作着手ノ事
タクシー出資者求メル事

▲▼223ページ▲▼ 昭和8(1933)年8月1日(火)

天気 晴

本日出勤者少ナク検査官來場トノコトニ佐藤、太田呼ビニヤリシモ來ラズ 駒林氏來
場 發動機ノ報検査官差支アリテ來ラズ幸ヒデアッタ。鈴木アブロ内部検査終了ス。
歸リニ船橋へ寄ラレル 自動車ニテ送ル
クラブ新入生齋藤君來 明日ヨリ入会ノ由
明日所沢ノ拂下品引取り宗里氏ニ運送屋へ渡ス様依頼ス

鈴木伊千葉ノ正憲ヘヤル 同道シテ帰ル 明日大利根ト交渉日ナノデ金取レ次第持参ストノコトデアッタ 発動機不足部品書イテ渡ス

山崎好雄君來 グライダー製作資金困難 遅延ノコトヲ諒解ヲ求ム

◆▼224ページ◆▼ 昭和8(1933)年8月2日(水)

天気晴

新入生齋藤君來 入会金百円ヨリ持参セズ 本日ノ予定ハヅレル

鈴木上京 伊藤酉、平松氏ニ行 夜オソクナッタ爲メカツヒニ來ラズ

工場内差(ママ)圖ヲナス 大口上野來場。吉田出ル 其他相変ラズ休ム

◆▼225ページ◆▼ 昭和8(1933)年8月3日(木)

天気晴

早朝鈴木伊來 七時二十分ニテ出発スル由 六十円ダケ渡ス 伊藤酉夫氏へ六時電話スル 五時ニ立川へ行ツタトノコト 立川へ電話スル七時ダノニマダコナイトノコト 八時頃又カケル 高橋君出テマダ來ナイガ今日ハ來ルコトニナツテ居ルトノコト 車輪トタン

バツク今日送ル由 上京 局ヘコードロンノ願書、野呂十年式奨励金ニツイテノ釋明書ヲ提出 井上氏預ルトノコト。南波氏ニ大坂へ行ツタ理由等ヲ話シ佐渡島カラ照(ママ)介ガアツタ時ハヨロシクタノム。技術課長ニ帰京後初メテ會フ 藤原ノ件ノ礼ヲノベル。井上ヨリ解決ノ通知モ話ス

児玉氏ニ會ヒ、タクシー出資者ノ物色ヲタノム。朝日ニ河内氏訪問 不在。大蔵ニ會ヒ三時半迄雑談。四時平松氏訪問 不在 金五百円受取ル 伊藤氏訪問 五番丁電停ニテ高井氏ニ會フ 今立川へ行ツタトノコト ウソバカリナノデ行クノヲヤメテ高井氏ニ、クレ、報告シテ、クラブニヨリ佐藤ニテ買物シテ船橋デ散髪後帰宅 九時

◆▼226ページ◆▼ 昭和8(1933)年8月4日(金)

天気晴

晝頃坂本氏來場 晝食後鈴木、クラブ、アプロ用ローン内部検査合格ス 三時過ぎ終ル

御国アプロ 鈴木アプロ見込書ヲ作製 明日發送ノコト

信太郎午後ヨリ頭痛スルトテ夕方ヨリ床ニツク

◆▼227ページ◆▼ 昭和8(1933)年8月5日(土)

天気 晴

朝菅谷氏ヨリ電話アリ 例ノ件ニツキ會ヒタイトノコト 夕方行クコトヲ約ス
出勤者女工ノ外似然(ママ)半数 之レデ十二日ノ検査ノ予定ニテ作業ヲ進行ス
夕方菅谷氏訪問 自宅ノ方ヘ行ツタ 誰レモ居ラズ 水一杯出サズ熱イ處デ閉口 手
形ノ件関根ガ中村ト云フ辨ゴ土ヲ通ジテ三日以内ニ返答ヲ申込ンデ來タ 期日ガ今
日ニナツテ居ルトノコト。結局手形デ處分スル様ニ出テ來ルナラ奈良原氏ヲ手形サ収デ
告訴スルトノコト。ソレヲヒルガエシテ二百円ダケ支出サセテ解決スルコトニキメテ歸ル

◆◆228ページ◆◆ 昭和8(1933)年8月6日(日)

天気 雨時々晴

朝奈良原氏ニヨリ昨夜會見ノ模様ヲハナシ、オドカス 取アエズ辨ゴ土ヲ訪問ノ爲メ上
京 中村氏ニ會フ 同氏ハ事情ヲ知ラナイノデ手形ノ性質ニツキヨク話シ結局関根氏ヲ
呼ビニヤツタガ不在ノ爲メ會エズ。辨ゴ土ニ菅谷氏ノ式百円出スニ出スガ待ツ内ニ考ヘ
ツイタノデ出來ルナラバ関根氏ガ不條件デ手形ヲ返スコト 式百円ニ對シテハ自分ガ考
慮スルコトニ話シテ歸リニ更ニ奈良原氏ニヨリ奈良原氏ノ家ニ式百円カ自分カラ関根ヘ
式十円ツ、ノ月賦デ拂フカラ手形ヲ返サセル様ニ話ス 今夜多分來ルカラ、モシ來ナケ
レバ明日行ツテ會ツテ來ルトノコトデアッタ

◆◆229ページ◆◆ 昭和8(1933)年8月7日(月)

天気 晴

関東防空大演習ノ第一歩 谷津海岸ニテ陸軍ノ実弾演習アリ
上京 局ニヨリ検査ノ日取り十二日モ飛行禁止(ママ)ニツキ十四日受検ノコトニ打合せ
テ帰途第一飛行學校ニヨリ奈良原氏ヲ待ツ 來ラレタノデ関根氏ノ返事ヲ聞ク 大体
承諾シタ由 明朝二人デ津田沼ヘ行クトノコトニ待ツコトヲ約シテ帰宅。爆撃見物ノ御
客ガ信太郎ノ處ヘ二人 宅ヘ大蔵ノ處ヨリ家内ト小供 事務所ヘ秋田氏外数名。流山
カラ松崎氏來 松崎氏フッカー借入レノコトニシテ明後日奈良原氏協會ヘ同行シテ貰フ
コトヲ約ス 小生明日大坂行キノ予定
局補助金明後日トノコト
朴敬元娘訪滿飛行ニ出發 熱海附近ノ山中ニ墜落即死ス

◆◆230ページ◆◆ 昭和8(1933)年8月8日(火)

天気 晴

終日待ツタガ奈良原氏ツヒニ來ラズ

猿田モ來ラズ 爲メニ弁正憲ヨリ金這ラズ出發モ出來ズ明日ニ延ハス
本日ヨリ休業セルモノ全部出揃フ 皆フ呼ビ不都合ノ點及考ヘヲ聞ク 今後一切再ビ
斯克ノ如キコトデ休マナイ旨ヲ佐藤代表シテ挨拶アリ許ス

◆▼231ページ◆▼ 昭和8(1933)年8月9日(水)

天気晴

奈良原氏ニ會エズ 松崎氏トノ約束アリ上京 徳次ヲ連レテ先ヅ局ニ行キ金ヲ受取ル
爲メ徳次ヲノコシテ協会ニ行キ松崎氏ヲ小野少将ニ招(ママ)介シ、ユンカー借入レノ件
ヲ交渉ス 各々報知ニ無條件貸與シテアルノデ如何トモ出來ナイガ報知ト相談シテ呉
レトノコトデ報知ヘヤル 自分六局ニ引返シタガ金ニナラズ 明後日トノコト

コードロンノ願書訂正シテ井上氏ニ出ス。帰宅 猿田午後二時行クトノ入電アリ待ツタ
ガツヒニ來ラズ 止ムナク旅費ヲ作ル爲メ拂下ヲナス

鈴木伊夜來 昨夜帰ツテ午後又行ク由 明朝來ル様ニ命ズ

◆▼232ページ◆▼ 昭和8(1933)年8月10日(木)

天気晴

六時鈴木安岡來 不在中ノコトヲ話シ明日局ノ金受取ルコト ゴム買入レニツイテハ布
施ニ話シテ八時半ノ自動車ニテ漸ク出發スルコトガ出來タ 九時二六間ニ合ワズ九時四
十五分不定期出ズ十時下ノ関行キニ乗ル 非常ニコンデ立ツテ居ル人が大分アツタ。九
時十五分大坂着 新世界へ荷物ヲ置キエミス町ニテ泊ル 五二郎ニ會フ

◆▼233ページ◆▼ 昭和8(1933)年8月11日(金)

天気晴

今日ハ最(ママ)非共ト大ニ意気込ミ丁度十時中山氏訪問 今日先先代佐渡島伊兵衛
氏ノ命日デ墓参ニ皆行カレタトノコトニ荷物ヲ預ケ練兵場ニ行ク ハンカチーブヲ買ヒ
朝日ヘ二打 大毎ヘ一打送ル 借リタガソリンノ代金ヲ聞キ大毎ニテ丁度羽太君ニ會ヒ
三菱式借用ノ件東福寺ノ爲メニ依頼ス 明日社へ返事聞キニ行クコトトス

中山氏ニ帰ツタノガ一時半 晝食ノ馳走ニナリ西店ニ行ク 丁度來客アリトノコトニテ
一時間程待ツタ後チ急用アリトテ出テ行カレタト若主人ノ話シ サケテ居ラレルナト
思ツタガ、今晚ナラ宅ニ居ルダロウトノコトニ御伺ヒスルコトニシテ一度帰宅 眠クテタマ
ラナカッタノデー眠リシヨウト思ツタガ中々眠レナカッタ ウト、シタラ清平ガ馬話ガ
死ンダトラジオデシラセテ居タトノコト

▲▼234ページ▲▼ 昭和8(1933)年8月12日(土)

天気晴

昨夜十時迄芦屋ノ宅デ懇談シタガ結局仕上ゲ飛行機ノ賣レロガ懸念サレル事 即チ金ノ回収不能ト云フ考ヘト、店ノ方ガ欠損續キノ爲メ支出困難ト云フニツノ理由デ不調トナリ帰ル

今日ハ美顔水ノ食間氏ニ会见シテ美顔号ヲ作ラセヨウト考ヘテ居タガ、ツヒニ会见ニ得ラレナカッタ

大毎ノ福知氏ニ會ヒ三菱機借用方相談 昨日羽太氏カラ、スデニ話シガアッタノデ福知氏モ讚(ママ)成サレ書類デ申出テ呉レトノコト 重役ニ相談スルトノコトニテ、エミス町ニ帰宅 四時夕方後新世界ニ帰り五時二十分出カケル 清平ト久太郎乗合自動車送ル 六時四十五分発ニ乗車 重イ氣持チヲイダイテ

▲▼235ページ▲▼ 昭和8(1933)年8月13日(日)

天気晴

六時半新橋ニ下車 飛行館ニ行ク ドコモシマツテ居タノデ記者室ニ行クト昨夜カラヤツテ居タモノラシク道永、石尾、北尾外一名麻雀ヲヤツテ居タ 馬詰ノ葬儀明日午後一時トノコトデアッタ。荷物ヲ宿直室ニアツケ伊藤西氏電話シタガ例ニヨツテ不在。中野ニ坂本氏ヲ訪ネル 初メテデ新宿カラタクシーヲ頼ム 行ツテ見ルト又夫妻ケンカシタトカデ能登喜氏不在 妻君ニ會フ 能登喜氏呼びニヤツテ漸ク帰ル。十時頃二十円ヨコシテ引上ゲル 帰途伊藤西夫氏宅ニヨル 尚不在。飛行館ニテ荷物ヲ受取り帰宅 十二時半今村ヲ呼び明日ノ検査ノ件其他ニツキ打合せ後チドコカラモ予期シタ金ガ這入ツテ居ラナイノデ正憲宅ニ行ク 明日若干都合スルコトニテ帰宅。安岡ト相談ノ上明日ノ検査汐ノ爲メ出来ナイコトヲ辻本氏ニ打電ス。夜上仲ヲ呼びニヤリ明日警視廳ト局馬詰葬儀ニヤルコトヲ命ズ

鈴木菊ヲ呼びニヤリ機体出来上リ次第金入金ノコトヲ交渉 一部承認ス

▲▼236ページ▲▼ 昭和8(1933)年8月14日(月)

天気晴

正憲午後來 五十円持參 四十円ヲ女工ニ、十円ヲ工場ニ残ス

▲▼237ページ▲▼ 昭和8(1933)年8月15日(火)

天気晴

奈良原氏來場 明日関根氏二午前九時迄三會フ約束ヲナス
一五水上發動機手入レノ爲メ飛來。三谷君操縦猿田佐々木君同乗。猿田氏ノ話シデハ鈴木正ノ方ノ話シハツイテ居ルトノコト 運送店カラハ五十円出シタ由 正憲モウソヲツクラシイ

上仲安岡好益社ノ飛行ニ上京

高橋今朝治明日ノ飛行ニツキ内金五十円持参 同人へ十円渡シノ予定ニテ六十円ノ受取リヲ出ス。内五十円夕方鈴木伊四郎へ持タセテヤル
六月末迄ノ決算ヲナス

◆▼2388ページ◆▼ 昭和8(1933)年8月16日(水)

天気 晴

上京 秋葉原ニテ奈良原氏ニ會フ 車中策戦ヲ考へ関根君ヲ押へツケル爲メニ奈良原氏カラ手形ヲ預ツテ費消シタコトヲ以テセメルツモリデ行ク 宅ニ行クト、スグ出テ來テ途中デドウシヨウトノコト 兎三角附近ノ喫茶店ニ這入ッタ處奈良原氏ニ申込ダ件ニツキ辨ゴ土ノ分サエヤツテ、モラエバアト月賦デモヨイトノ返事デアッタコトハ、ウソデ、マダテンデ話シガシテナイラシイ。アラタメテ話スト、ソレデハ困ル、ドウシテモ一時デナイトイケナイ、スデニ書類ハ裁判書(ママ)へ提出シタトノコト。之レモ不都合ナ話シデアッタ。関根君ノ借金ニ対シ僕等ガ心配スル必要ノナイ事ヲ話シ奈良原氏ノ立場ガ悪クナルノデ護ルカラヤルノデトイヨ、手形ノ件ニウツロウト思ツタラ、五百五十円ノ手形全部ヲ奈良原氏ノ借金ノ爲メニ入トシテ渡シタトノ証書ガ入レテアッタ 日時ハ四月廿日デアッタガ實際ハ今度ノ手續キノ爲メニ書イタトノコト 先生ノ馬鹿サ加減ニ今更アキレテシマッタ 自カラ罪人ニナル様ナモノダ 結局一週間以内ニ貳百円ヤルコト 其代リ費用等一切ハ関根氏ガ負担スルコトニテ、局ニ行ク 森サンカラコードロニイヨ、引渡ス様ニナツタトノコトデアッタ

辻本氏ト明日ノ検査ノ打合せシテ、児玉氏ヲ訪問シタガ不在 両国ヨリ菅谷氏へ電話シタガ水戸ノ方へ行ツテ居ルトノコトニ至急會ヒタイト手紙ヲ出シテ貰フコトトス

◆▼2399ページ◆▼ 昭和8(1933)年8月17日(木)

天気 曇晴

夜中ニ大分降ツテ居タ 朝其爲メスシカッタ

八時過ギ辻本南波両氏來 三台受ケル予定ノ處ヤット伊藤氏ノダケ通ル 鈴木ノハ飛行ヲ終ツタガ太田ノ報告モマツカッタガ發動機ニ振動アリ不合格。正憲ノ内部検査機体ダケ終ル 羽手入レ不良。今日ハ終日シヤクニサワツテ、タマラナカッタ シカモ急(ママ)ガシイ日デアッタ 明日霞ヶ浦引取りノコトモアリ宗里君、夕方來 自動車引取り不

可能ノ話シカラニ型ノ翼一組譲ツテ呉レトノコトニ其金ヲ今夜貰フコトニシ明日引取ル
コトトス。金太郎ヲ出張サセル

▲▼240ページ▲▼ 昭和8(1933)年8月18日(金)

天気晴

霞ヶ浦引取りノ爲メ金太郎ト稲田君行ツテ貰フ 夕方帰ツテ自動車マダヨク直ツテ居
ナカッタ爲メ帰レナカッタトノ事
池本午後ヨリ買物ト伊藤酉金受取りノ爲メ出張サセル 夕方帰り明日午前中ニ伊藤
氏ヨリ電話デ返事スルトノコトデアッタトノ事 第一回ノウソ
安岡 興眞舎金受取りニ行ツタガ取レナカッタトノコト 今日ハ集金全部ダメ

▲▼241ページ▲▼ 昭和8(1933)年8月19日(土)

天気晴

局辻本氏ニ電話シテ検査ノ件打合セル 廿二日差支アリ廿三四日頃ニナルトノコト。
廿一日コードロン引取りノ打合セアリ
朝奈良原氏來場 十円渡ス 関根氏ノ件廿三日ナレドモ菅谷氏病氣デ帰ラズ 伊藤
氏ノ金モ取レズ辨ゴ士ヘノ内金ダケデ延期方話ス 明後日上京ノ時関根氏ニ會ツテ見
ルトノコトデアッタ

▲▼242ページ▲▼ 昭和8(1933)年8月20日(日)

天気晴

稲田長二土浦へ自動車取りニヤル 夕方帰ルパンク四度シテ止ムナク柏附近へ預テ帰ツタ
トノコト 宗里氏へ電話デ聞キ合セタイヤーヲ借リルコトニシテ明朝又行クコトニス
清平來 泊ル
興眞舎牛乳ノ宣傳飛行サルトアブロニ台飛ブ アブロ一機ハ宗里氏分 サル綱滑走中
ニ飛ビ出シ引ケズ
夕方散髪方々石井へ六十円、宗里へ今日ノ飛行料五十円トゞケル。鳥肉ヲ求メ、清平
稲田熊谷豊田今村ト會食

▲▼243ページ▲▼ 昭和8(1933)年8月21日(月)

天気晴

稲田ニ自動車取りニヤル。自分熊谷ヲツレテ立川ニ直行 車中井上氏ニ會フ 川崎ニテ、

東京出張所長久原氏田中氏 朝日ヨリ中野氏 以上立會ノ上引繼ギヲ終ル。冷シサイダーヲ取テ出ス。スグ自動車來 御國ノ高橋君ノ尽力デ積込ミヲ終ル 十二時出發ス。井上氏、中野氏ヲ晝食ニサソツタガ中野氏差支アリ井上氏ト中央亭ニ行ク 食後午睡ヲ取り三時過ギ帰途ニツク 新宿デ井上氏ト分レ伊藤氏へ電話スル 高井氏ガ待ツテ居ルトノコトニスグ行ク 百八十円九月六日 百八十円同十六日 貳百円廿二日 アト負ケルトノコト 余リ馬鹿馬鹿シノデコトワル 結局十六廿二日ノ分ヲ受取り百八十円ノ分ヲ三百円トシテ廿五日迄ノ現金受領ニナル様ニ頼ンデ帰ル 七時ノ終自動車ニ漸ク間ニ合フ

▲▼244ページ▲▼ 昭和8(1933)年8月22日(火)

天気 晴

局へ検査ノ打合セヲナス 廿五日以後トノコトデアッタ

▲▼245ページ▲▼ 昭和8(1933)年8月23日(水)

天気 晴風

朝來風強ク練習休ミ

午後正午頃伊藤西氏來 金六明日夕方自宅ニテ必ズ渡スカラトノコトニテ飛行機引渡スコトトス

佐藤、安岡出勤セズ 午後三時出發サセル 出發前ブラック一個交換ス 調子ヨク出ル。四時四十五分電話シテ芝浦ニ不時着ノ報アリ。高橋氏トスグ同道ス 夕方関根氏へ行ク予定ナリシモ芝浦ニ急行ス 機大破ス。負傷セリトノコト 松山病院ニ行ク 面會出來ナカツタガ妻君ニ會フ 生命ハ大丈夫トノコトニヤ、安心。原因ガ心配ニナツタガ不明ノマ、関根氏ニ行ク 奈良原氏三十分程前帰ツタトノコトニ中村辨ゴ士ニヨル 主人不在 帰宅ス

▲▼246ページ▲▼ 昭和8(1933)年8月24日(木)

天気 晴

九時局ニテ東福寺ノ松崎氏ト會フ約束アリ上京 局ヨリ中村辨ゴ士ニ電話シテ関根氏へ行クノガ遅クナルコトヲ事傳テ貰フ。松崎氏來 新井課長ト會見。先ヅ陸軍ノ諒解ヲ得ルコト 其上デ朝日ニデモ話シテヤロウトノコトニテ航本部へ行ク。自分ハアトニ残ル課長ヨリ輕飛行機ノ製作ニ貳千円呉レルトノコト 決定次第通知書ヲ貰フコトニナル之レデ金融セヨトノコトデアッタ

鈴木菊IDノ完成ト正憲ノ内部検査ノ爲メ辻本氏同道帰宅 両方共終ル 四時ヨリ

上京 菅谷氏訪問 手形ノ件伊藤氏墜落ノ爲メ金ニナラズ 爲メニ弍百円立替方ヲ依頼 承認シタガ九月一杯待ツテ呉レトノコトニ同道ヲ乞ヒ中村辨ゴ士宅ニテ関根氏トモ会见 ツヒニ九月五日午後六時ヨリ七時迄ノ間中村宅ニテ渡スコトニ決定ス 帰途浅草大国屋ニテ夕食ヲ共ニス。オソクナッタノデ奈良原氏ノ報告ハ明日ノコトトス。伊藤西氏ハ伊四郎ヲ見舞ニヤル

▲▼247ページ▲▼ 昭和8(1933)年8月25日(金)

天気 晴

海軍大艦々(ママ)式

十一時報知ノ久間九郎氏ヲ約束ニヨリ訪問ス

其前奈良原氏ニ立寄ル予定ナリシモ北海タイムスヘノ返信ニテ遅レ帰途ニス

久間氏ニ五ニ型軽飛行機製作注文ノ件ヲ依頼ス 太平洋ノアト仕(ママ)末ヲ來月発表スルコトニナツテ居ルカラ其上デ報知トシテノ航空部ノ問題モ決定スルノデ其時ニ自分デ話シフスルトノ同情アル話シデアッタ。東日ノ大蔵ト晝食ヲ共ニシ、伊藤酉夫氏ヲ見舞ニ行ク 益々好イ方トノコトニ安心。友野鉄二郎ニヨル 不在。アト商会ニ行キニユームピストンイツ頃出來ルカ特約販賣ノ件ヲ持チ出ス 先ヅ出來テカラニシテ呉レトノコト

奈良原氏ニヨリ昨日ノ報告ヲシテ七時ノ終自動車ニテ帰ル

▲▼248ページ▲▼ 昭和8(1933)年8月26日(土)

天気 晴

今日ハ風少ナク暑カッタ

鈴木午前石井へ伊藤氏ノ小切手割引ニヤル 五分ノ利子デ出來ル 午後保険署へヤル 午前修理工場向上ニ関スル意見書ヲ作り新井伊勢谷両課長ニ郵送スルコトトス 午後二時頃完成ス

終ツテ決算

宗里氏ヨリ三型翼取りニ來ル 渡ス

▲▼249ページ▲▼ 昭和8(1933)年8月27日(日)

天気 晴

朝中田君來 夕方パラシュートノ検査願ヒ取りニ來ルトノ事ニ鈴木伊ニ作ツテ居ク様ニ云ヒツケタノニ出來テ居ラズ夕方自分デ書イテ渡ス

函代内金五円受取ル

夕方宗里氏へハラシユート取付函見本ヲ借りニヤル

▲▼250ページ▲▼ 昭和8(1933)年8月28日(月)

天気晴

上仲出場セズ 余リ人ヲ喰ツタヤリ方ナノデ、以後出社ニ及バスト手紙ヲ持タセテヤル
安岡日本タイヤーへアンリオノヲ取りニ上京 弘益社へ金ヲ貰ニヤツタガ三十一日ニシテ
呉レトノコトデアツタ由

▲▼251ページ▲▼ 昭和8(1933)年8月29日(火)

天気晴

今日モ暑カッタ 朝奈良原氏來 五円渡ス 上仲出ル 引續キ出社スルカラトノコトデ
アツタガ今迄ノ様デハ仕様ガナイカラ病氣ト云フナラ病氣モヨクナオシテカラ、キツパ
リト出直ス事

八時半ノ自動車通過シ九時ニテ上京 十時半協会ニテ片岡ト會フ 藤原博士ノ都合
ヲ電話デ聞キ面會ニ行ク 東京附近デヤリタイトノコトニ式台必要トノコトデアツタガ
式台ナラ一台四百円 三台全部ナラ一台二百五十円ニスルト申出デ値段ハソレナラ結
構ト云フコトデ今千円バカリ金ガアルガアトノ補充ツキ次第買フトノコトデアツタ
眞松デ片岡ト晝食後朝日ニコードロンノ日誌ヲ貰ヒニヨル マダ來テ居ナカッタノデ伊
藤西氏見舞ウ ホータイモ取レテ居タ 安心ス。帰リニ兒玉氏ヲ日本橋ノ事務所ニ訪
問シタガ來ラズ帰宅ス

▲▼252ページ▲▼ 昭和8(1933)年8月30日(水)

天気晴

谷津ニテ中田ノハラシユート降下並ニ機上ヨリ海上ニ飛込ミヤル 大分人出アリヨカ
ツタヨシ 男ノ小供皆見ニ行ク

一五夕方試飛行ヲ行フ 良 入レモノニ大骨ヲ折ル

▲▼253ページ▲▼ 昭和8(1933)年8月31日(木)

天気晴

在所

▲▼254ページ▲▼ 9月

軽飛行機製作ニ着手ノ事

◆▼2555ページ◆▼ 昭和8(1933)年9月1日(金)

天気 晴

平穩

クラブヨリ百二十円入 支拂ノ予定ヲシテ居イテ上京 弘益社ニヨリ森下氏不在 金
出來ズ 後チ飛行館へ電話ニテ明日ニシテ呉レトノコト

局ニヨル 熊谷ノ件森サンニ依頼 下士志願ニ差支ナキ様處分決定セリトノコト。宗里
氏ト會フ 同行シテ飛行館ニ行ク 晝食ヲ共ニス 一時相羽、奈良原、木暮、オクレテ
鈴木、飯沼遠藤來 昨日東京飛行クラブ發会式ニ飯沼一人デ外ハ相羽ニモ通知ガナ
カツタ由 ツヒデ、自分案トシテ各學校卒業生全部ヲ本会ノ方へ入会サセルコトヲ提案
承認セラル 今日ノ決定ハ日本航空会ヲ中止シ日本飛行俱樂部ヲ引繼キナス 経営
者ノミ五円ツ、会費ヲ出スコト。七日ノ木曜日会合。ソレ迄ニ会則、飛行競技会開催等
ニツキ意見持チヨルコトトシテ、サン会

奈良原氏ヨリ五日関根氏へ渡ス手形ノ受領書名刺ヲ受取ル。明後日晝迄二十円金
ガ入用トノコト

柳沢氏來 銀坐ノアスターニ行キ設計部トシテ協力ヲ乞フ 確答ハ得ラレナカツタガ、マ
ン更デモナサソウデアッタ

◆▼2556ページ◆▼ 昭和8(1933)年9月2日(土)

天気 晴

弘益社集金ト小買物ニ鈴木上京

奈良原氏渡シ二十円クラブヨリ受取り一時京成電気へ流用 ソレデモマダ明日奈良原
氏へ渡ス必要上猪又ヲ呼ビニヤルノダガ來ラズ 明朝デモヨシ

夜鈴木菊ヲ呼ビ金入金スルコトヲ話シ六日迄ニ多少作ルコト 彼レ八十日迄ニトノコトデ
アッタガ幾分作ラセルコトトス

◆▼2557ページ◆▼ 昭和8(1933)年9月3日(日)

天気 晴

晴時々シユウ雨アリ

朝八時頃ス立テニ小供全部連レテ行ク 五十錢拂テ特別ニ取レル處へ入レテ呉レタノデ、
ヨカッタ。カニガ大部分デアッタ。キス一本丸太四五本 之レハ貰ツタノデ又ニイナ一匹

ハゼ二三匹取レタガ小供達ヲ嬉(ママ)バセルニハ上上デアッタ
奈良原氏へ猪又カラ十五円借りテ二十円持タセテヤル アトニ稲毛ヨリ草賀アリ 十
五円此者へ貸シテヤツテ呉レト手紙ヲ持タセテ來タガ事ワツテ返ス

◆▼258ページ◆▼ 昭和8(1933)年9月4日(月)

天気晴

午前中ムシ暑カッタガ午後ガ雨風強ク夜ニ入り益々ツヨクナル 七三五ミリノ低気圧
日本海ヲ通過シツ、アル由
午前中工場作業ヲ見アプロタイヤーヲ出シタリス
午後自記高度計調査ヲナス
夜風次第ニツヨク大汐トテ波高シ 幸ニ雨ナカッタ

◆▼259ページ◆▼ 昭和8(1933)年9月5日(火)

天気晴

午後夜中ニ二度工場ノ前ヲ見ニ廻ル 異状ナシ 風ツヨク雨少シアリ。朝早ク五時頃
三田浜ヨリ自動車ニテ格納庫内、浸水ノ爲手傳ツテホシイトノコトニ三名ヤルコトニス
丁度安岡來 共ニ行ク 工場硝子一枚割ル
午後四時ヨリ上京 菅谷氏訪問 コ、モ水床上ニ達シテ居タ 式百円ノ小切手受取り
明日所沢ノ帰りニ手形返ス約束ニテ六時半中村辨ゴ土宅ニ行ク 関根氏待ツテ居タ
小切手ニテ渡シ手形ト奈良原氏ノ証書ヲ受取り奈良原氏ヨリ預リノ関根ノ手形ノ受
取りヲ返ス 上野ニテ夕食後大蔵宅ニ泊ル 大蔵今日大坂へ行ツテ不在

◆▼260ページ◆▼ 昭和8(1933)年9月6日(水)

天気晴

六時半起床 七時四十五分大蔵宅ヲ出ル 九時半所沢ニテ宗里外二三名ニ會フ 高
橋宅ニテ十時十五分迄待合セ支部行ク 十一時ヨリ下見 発動機ハスバラシイモノデア
ツタ 三菱式ノ空冷三百馬力六台ハ全部新品。飯沼立川へ行ツタトテ時間間ギワニ來
事前ノ打合せ出來ズ入札ニ入り自分ノ處ハ分解器具ダケ落札 宗里氏ハ予定通り写
真機ヲ取ル 飯沼発動機、計器其他一口重要ナルモノ皆取り後チ分配ヲコバム 近來
金ノアルニカセ横暴ヲ極メツ、アリ、イヤナ気分ガシタ。朝日毎日デ始動車ヲ取ルコト
ヲ申合セテ居タノヲ高橋ガ出シヌイテ一寸問題トナル 今日ハ支部直接ノ入札ヲ初メ
テヤツタノデ、コンナコトニシタクナカッタノダガ自分ノ力及バナカッタノハハツカシカッタ。
浜野ニサル機体一台航空社ノ内ヨリ譲ラセ津田沼ニ送ル手配ヲシテ不愉快ニ歸ル

▲▼261ページ▲▼ 昭和8(1933)年9月7日(木)

天気晴

今朝ハ非常ニ寒カッタ 三谷君朝來 聞クト国元ニ労働争議ノ上ニ主人ガ病氣シテ居ルトノコトデ、イツ金ヲ送金シテ來ルカ分ラナイトノコト 鈴木正憲機十一日受験ノコトニキメ工場員ニ準備サセル 鈴木伊千葉へ行ク様ニ命ズ。上京 作業会社ニ見舞ニヨル妻君風ヲ引イテ丸ツキリ声ガ出ナカッタ。奈良原氏ニヨリ式百円ト領収書ト先キノ約手ノ受取り書ヲ渡ス。西川氏ノ父死亡ノコトヲ聞キ上京 局ニ行ク 井上氏ニ浜野ノサル発動機、藤原ノ一四フロートノ件諒解ヲ得。玉宮氏十一日検査ノ件決定 課長ヨリ式千円補助ノ件機体ガ出來ルカ否ヤ未定ニツキ出ス事モ決定出來ヌトノコトデアッタ 何ニシテモサルノ改造ヲ早く出ス必要ガアル

横浜ニ西川氏葬儀ニ参列 三時飛行館ニツク 御原、相羽、木暮、奈良原、宗里、鈴木、遠藤、自分出席 日本飛行俱樂部会則ノ一部改正決定。飛行競技会開催ニツイテ打合せ競技ニ関スル件調査ヲ自分ヤルコトニナル 常任理事トシテ奈良原木暮ヲ定メル 次回木曜日会合ノ事

帰途熊野屋ニテ買物後ツカレテ居タガ菅谷氏ニ行キ手形ト式百円ノ自分ノ借用証ヲ渡シテ帰ル

▲▼262ページ▲▼ 昭和8(1933)年9月8日(金)

天気晴

昨日タノマレタ競技会ノ計畫案ヲ立テル

夕方中台カラ明日イクラカ都合シテ呉レトノコトデアッタガ出來ソウニモナカッタ 工場内充実案ヲ作り漸時(ママ)改造ノ方針

▲▼263ページ▲▼ 昭和8(1933)年9月9日(土)

天気晴

沢柳氏來場 軽飛行機ノ件打合せ

佐藤家賃ヲ五月タメテ困ッテ居ルトノコトデアッタガ今日モドコカラモ金這入ラズ、見當サエツカナイノデ困ル 鈴木正憲へ手紙出サセル

競技会ノ計畫案ヲ作製ス

▲▼264ページ▲▼ 昭和8(1933)年9月10日(日)

天気 晴

日中ハ暑カッタ 正憲アブロ完成 夕方試運轉 発動機調子少シ悪シ 佐藤外数名三田浜ニ出張 本日ヨリ日給ヲ貰フコトトシ鈴木ヲ使ニヤル 奈良原杉山氏万年筆販賣ノ件鈴木ニヤラセル 北海タイムス輕飛行機ノ件返信ヲ出ス

▲▼265ページ▲▼ 昭和8(1933)年9月11日(月)

天気 晴

五・一五事件海軍側求刑アリ

上京 局二行キ明日正憲アブロ受検ノコトニキメル 操縦士試験今月二十日過ぎニアル由。関口受検スルヤ帰場後相談 受検スル由 藤原博士訪問 丁度白石氏ヨリ、グライダー參觀ノ報告書ガ今ツイタ處ダトノコトデ、ソアラ―デ高級ナラ入ルトノ意見デアッタガ高級ハ値段ガ高イノト高級ニウツル迄ニ最(ママ)非階梯トシテソアラ―練習機ノ必要ナルヲ説イテ帰ル。成ルベク速急ニ取キメテ返事スルトノコトデアッタ

▲▼266ページ▲▼ 昭和8(1933)年9月12日(火)

天気 曇

終日冷(ママ)シカッタ 今日モ収入ナク鈴木伊ヲ正憲ヘヤル 母ニ會ツテ書類ダケハ貰ツテ來タガ金ハ出來ナイ様子 野呂君昨日帰場 格納庫料月二十五円ニシテ呉レトノコトニソウスルコトニシタガ金ハ待つテ呉レト入レズ

検査玉宮氏ヨリ電話ニテ駒林氏本日風ヲ引イタノデ行ケナイトノコトデアッタ

昨夜三田浜ヨリ二十円入 内十円鈴木伊ニヤル 的場ヨリブドウヲ式函送ツテ來タ 皆二分ケル

長内母子本日ヨリ入所 母(実ハ叔母)ハ手仕事シテモ本人ノ出世ヲ待ツトノコトデアアルガ手仕事ナド此辺ニアル訳デモナイノト丁度内ニテ女中ガ暇ヲ取ツテ居ラナイノデ賄ヲ手傳セ家賃ヲ取ラナイデ五円ヤルコトニシタ 両方ヨイノデ本人モ願タリカナツタリデ喜ビ借家ヲキメテ居タノデ事ハル

松竹飛行機披露デ猿田ノハンサ、三谷ノ一五夕方帰場 海岸迄持ツテ來ルノニ、クラクナル

▲▼267ページ▲▼ 昭和8(1933)年9月13日(水)

天気 晴

終日在所

晝頃木目田、石田両氏來 鈴木正憲アプロ完成検査引カズ四時頃海岸ヨリ飛行シテ済マセル 今日ハ順潮デアッタ

夕方遠藤君來 発動機ニ二名機体ニ一名出張ヲ乞フトノコトデアッタ 尚明後日大塚三業ノ飛行ヲヤツテ貰ヒタイトノコトデ明日其手續キニ上京スルコトトス 一度弘益社ヨリビラ散(ママ)キダケアルトノコトデアッタ

◆▼268ページ◆▼ 昭和8(1933)年9月14日(木)

天気 晴

弘益社ニヨリ綱ヲ注文シ明日ノ飛行二十五円デアカッタガ、ツヒデニヤルノデ引受ケルビラヲ取ツテ警視廳ニ届ケルト云フノデ先キ二局ニ行ク 正憲アプロノ登録申請ヲナス。處ガ猿田氏ノ譲リ渡シ証ノ判ガ違ツテ居テ書類ハ返送シタトノコトデ証明書ハソレガ出ル迄出來ナイコトニナル

グライダーノ件南波氏今日ニモ藤原氏ニ會ツテ呉レルトノコトニヨク頼ンデ警視廳ニ行ク 吉村氏ニ書類呈出 森下氏ノ來ルヲ三十分以上待ツ。遠藤君ノ方ノハ三業組合ヨリビラ持参スルコトニナリ、アトハ吉村氏ニタノンデ飛行館ニ行ク 本日ハ奈良原、相羽、木暮、飯沼、宗里自分トヨルクラブ会則決定書出來ル。自分案ノ競技會計畫書案ニ三訂正後明日奈良原相羽飯沼三氏局へ先ツ行ツテ貰フコトニナル スグ散会 飯君ニ三菱式三百馬力讓渡方ト前ノ眞空ポンプ諒解ヲ得 道永君昨日ノ手紙ノ件明後日確答スルコトニシテ分レル

◆▼269ページ◆▼ 昭和8(1933)年9月15日(金)

天気 雨

弘益社へ雨ノ爲メヤレヌ明日ヤルヤ否ヤ知ラセル様朝電話スル 午後明日ヤツテ呉レトノ電話アリ

三谷君明日午前中ニ金間ニ合ヤ照会サセル

◆▼270ページ◆▼ 昭和8(1933)年9月16日(土)

天気 晴

上京 局ニ南波氏ヲ訪問シタガ不在 立川へ検査ニ出張 課長ニ木下君ノ學校ヲ初メル件ヲ諒解ヲ意見ヲ聞ク 差支ナシトノコト 藤原ノ其後ノ様子ヲ聞ク 局トシテハ放任スルツモリ 佐々木カラ免状返附方申請アレバ考慮スルトノコトデアッタ。後學校問題ニ

ツキ二時間ばかり話シ合フ 何ニカヨイ案ガアツタラ知ラセテ呉レトノコトデアッタ
片岡ニ會フ 今夜浜松ニ行ク由 藤原博士ニ電話ヲカケサセル。最(ママ)非買フガ今金
ノ心配中トノコトデアッタ
スグ帰宅ス 新潟ノ新入会者父ト共來テ待ツテ居タ 色々話シテヤル。小供ト父ノ意
見ガ合ワナイ様デアッタ。ソレハ小供ハ昨夜安岡ノ處へ來テ六百円入金サセルカラ二百
円貸シテ呉レトノコトデアッタ由 ソンナ不張ナコトハ自分トシテ出來ナイノデ小供カ、
大分形勢悲ナリト見テ、更ニ來ルトテ金ヲ入レズニ帰ル 今日ドウシテモ入ル金デアッ
タガドウモ止ムヲ得ナイ

◆▼271ページ◆▼ 昭和8(1933)年9月17日(日)

天気 晴

今日ニ谷ツヒニ姿ヲカクシテ來ラズ 昨日ノ寺田練習生モツヒニ來ラズ。鈴木ノ寄宿舎
ニ居ル模様トノコトデアッタガ定カナラズ

アブロ朝東京ヨリ帰り練習ヲ終ツテ更ニ弘益社ノ仕事ニ出發シヨウトシタガ發動機内
部ニ故障アリ中止 其旨電話ニテシラス。明日ヤルカ更ニ次ギノ日曜日ニヤリ直スカデ
夕方電話アリ 先方デ、何ント云ヒ訳ケシテモ聞カナイノデ明日來テ呉レトノコトデア
ツタ

明日小栗ノ飛行アリ 取アエズ宗里、鈴木両方ノ機体借入方ヲ交渉 キメテ居ク。直
發動機前蓋ヲ取ツテ調べルト小ボールベヤリングガコハレテ居タノデ修理ノ見込ミ立ツ

◆▼272ページ◆▼ 昭和8(1933)年9月18日(月)

天気 晴

何ントカシテヤリタカッタガドコカラモ金這入ラズ

三谷來 昨日高知へ電話シタガ送金不可能ラシク行ツテ來タイガ飛行機デ行キタイト
ノコトニ、之レハ絶対ニヤメテ貰フ事トス 身体ダケ行ツテ着次第電送スル様ニキメ、今
夜又ハ明夜出發スルトノコトデアッタ

◆▼273ページ◆▼ 昭和8(1933)年9月19日(火)

天気 晴

上京 局ニ行キ後チ飛行館ニテ道永ニ會フ 結局御原氏ニ此際タノム外アルマイト云フ
コトニナリ自分ニ行ツテ呉レトノコトニ引受ケル 旅費ガナイノデ弘益社ニ行キ新宿帝
国館ノ宣傳飛行料三十五円ヲ受取り帝劇ニキングコンダヲ見テ十時十五分ノ列車ニ
間ニ合フ

▲▼274ページ▲▼ 昭和8(1933)年9月20日(水)

天気 雨

六時十二分名古屋着 ビシヤ、雨ガ降ッテ居タ 駅前デ、ユックリ仕度ヲスルツモリノ處駅ノ出口ニ食堂ガアツタノデ、手拭トハミガキヲ賣店デ買ヒ食堂デスマセル。御原サンニ電話スル 在宅トノコトニ自動車ヲヤル 一円二十錢取ラレタノニハ驚イタ 初メ五十錢 アト四分ノ一哩十錢トノコト モノノ一分モ走ラナイ内二十錢ヅ、昇ッテ行クノニハ氣ガ引ケタ。御原氏ニ弍百円話シタガ結局百円ダケ寄対(ママ)スルトノコトニ、ソレヲ栄町ノ本局カラ道永ニ電送シ安藤ニ行ク 飛行場ニハ永坂モ名古屋ヘ行ク 不在。自宅ナンダロウ 岡田ト云フ處ヘ又電車ト自動車デ行ク。アチコチサガシテ漸ク會フ。予期通りダメ

駅ニ帰タラ丁度一時二十五分ノ東京行キニ間ニ合フノデ其汽車ニ乗ッテ晝食ヲ取ル

▲▼275ページ▲▼ 昭和8(1933)年9月21日(木)

天気 雨

七時半起床 シンミリトシタ日デアッタ 朝食後九時大蔵ノ宅ヲ出ル。局ニ行ク 飛行場長會議ダダレモ居ラズ 南波氏一人グライダーノ件マダ藤原氏ニ會ワナイトノコト尚明日検査ノ件ヲヨクタノシデ、鈴木菊ニ會フ 北海道事故ノ様子ヲ聞ク 終ッテ飛行館ニ行ク 道永ニ名古屋ノ報告 伊藤西氏ニ會フ 道永ノ広告料支拂方ヲ話シ明後日午前中ニ渡ストノコト

時間ノ間ニ世界飛行記録ヲ写ス

三時ヨリ奈良原、相羽、木暮、伊藤西、飯沼會見 局ノ方未決定ナレドモ協会ヘ話スコトトナリ総務理事ニ會フ

飯沼二十年式整備ノ事ヲ話ス 次ギニ拂下ノ出ル迄待ツトノコトデアッタ 外ニ、陸軍ノ指定工場トナルベク工場建設中トノコトデアッタ

今日ハ早ク帰ル

菅谷ツヒニ帰国セズ 二十五日迄ニコチラデ金ヲ作ルトノコトデアッタ

▲▼276ページ▲▼ 昭和8(1933)年9月22日(金)

天気 晴

猿田氏來場 宣傳飛行ノ広告函、装置ハ自分ノ處デ作ツタノガアルノデ權利料トシテ函代五十円ヲ松竹カラ支拂ワセルトノコトデアッタ 飛行機入庫料三十円ニテキメル出シ入レノ手傳ハ別ニ月末マトメルコト。運搬車持參ノコト

三菱空冷三百馬力性能武田次良氏二訪(ママ)ヒ合セル
検査ノ爲メ南波氏來 サル四〇發動機ダケ終ル 後千色々話シ合フ 課長アテノ上申書ヲ見セル。今夜大坂へ行ク由

▲▼277ページ▲▼ 昭和8(1933)年9月23日(土)

天気晴

明日ノ飛行ノ爲メ今日竹内アブロ東京へ空輸ス
木下君來 大坂西田ノアブロ購入 汽車ニテ發送セル由 三百円トハ安カッタ。コチラデヤルニツイテ宗里、鈴木、川辺、局ノ諒解ヲ得タコト 尚本人モ行ツタ方ガヨイト注意シ且ツ練習生ニ対シテハ徳義ヲ主(ママ)ンジ決シテ他ニ迷惑ヲ及ボサザルコトヲ申渡ス 本人モ之レヲチカウ
関口郷土飛行富山飛行場開キヲ兼ネ行フニツキ金ノ出處同窓会ヨリ式百円 北陸タイムスヨリ式百円出ルコトニナル 但シタイムスハ縣下一週(ママ)飛行ヲ行フコト 協会ノ金、右二埴山ヲ機関士トシテ同乗セシムルコトトス

▲▼278ページ▲▼ 昭和8(1933)年9月24日(日)

天気晴

杉山氏來 一時間程デ帰り明後日來ルトノコト 三時頃同氏ヲ尋ネテ下谷署ノモノ三名來 初メハ今度ノ万年筆デナニカ不正デモト思ツタラ、杉山氏ノ照(ママ)介デ飛行機ニ乗リタクテ來タラシイ 汐モスデニ上ゲテ來テ居タシ今日ハ練習モシテ居ラズ、東京へ飛ンデ行ツタアブロモ、ツヒニ帰ラナカッタノデ工場ト格納庫ヲ見セテ帰ヘス 午後苺ノ植替エラナス 半分シカ出來ナカッタ

▲▼279ページ▲▼ 昭和8(1933)年9月25日(月)

天気晴

今朝清平帰ル

三谷今日金ヲ持ツテ來ル筈 終日待ツタガツヒニ來ラズ
浜野來 明後日出発迄ニ拂下代金ト機体ノ整備費内金壹百円也ヲ東京駅迄持參スルコト出來ルカ出來ナイカ明日中ニ返事スルコトヲ話シテ帰ヘス
試験ノ爲メ山田航空官船橋へ來場 関口中止ニツキ今朝鈴木局へ行ツタガ尚会ノ爲メ午後第一二行キ山田氏ニ諒解ヲ求メル
夕方遠藤君來 検査願ヲ出シタリ、機体發動機ノ調査表ヲ作ツテ呉レトノコトニ明日今村ト佐藤出張サセルコトトス

◆▼2800ページ◆▼ 昭和8(1933)年9月26日(火)

天気 晴

昨日弘益社金ヨコサズ今日來レルトノコトニ今村ヲ遠藤ノ帰リニヨラセルコトトス
藤原博士ノグライダー金策ガマダウマク行カズ出來次第引取ルトノコト イツノコトヤ
ラ之レモ一寸疑問ニナツテ來タ。今日モ三谷ツヒニ來ラズ。之レテハ又工場員ニ一文モヤ
ルコトガ出來ナクナルノデ、鈴木正卜菊ヨリ取ル外ナク、借金サセテ入金サセル手段ヲ
取ルコトトシ鈴木伊ニ交渉サセル

猿田氏來 ハンサーノ奨励金申請、綱引函ノ金ノ件ニツキ今日六車氏ニ話スカラ材料
トシテ特許公報ヲ呉レトノコトニ渡ス

夜畝迫氏來 明日拂下ノ金三十円ト機体内金四十円ヲ置イテ帰ル 浜野君トハ會ッ
テ居ラナイトノコトデアッタガ、兎ニ角預リ居クコトトス

◆▼2811ページ◆▼ 昭和8(1933)年9月27日(水)

天気 曇リ

出發ニ先ダチ留都(ママ)中ノ集金ト支拂ヒニツキ打合セヲナス

午後上京 局ニ三時半ツク 退所時間後課長ト會見 補助金問題ハ漸時(ママ)ナクナ
ルカス、ソレニ対シテハ期待ヲ持タナイ様ニセヨトノコト。輕飛行機試作奨励金ノ件ハ
出ナイコトニナツテ居ルガ出來テ成績ガヨケレバ式千円ハ必ず取ツテヤルトノコトデ、大ニ
カヲ得タ。飛行館ニテ中、道永ト會ヒ地下ニテ會食。後銀坐ニ出シネマヲ見テ時間ヲ消
シ、十時五十五分發ニテ出發ス

◆▼2822ページ◆▼ 昭和8(1933)年9月28日(木)

天気 晴

七時岐阜着 車中和田君ニ會フ。一三式整備ノ件次回ハ最(ママ)非タノムカフコト
デアッタ。駅前トラ屋ニ井上氏ト會ヒ時間ガアッタノデ一寸近所デ顔ヲソリ、十時電
車デ支部着 拂下手續キヲ終ツタノガ十二時過ギ 空中作業ノ梅木君ガ鵜沼ニ滞在
自動車ガ來タノデソレニ同乗 氏ノ宿ニツク 犬山城ト日本ラインノ眺メガヨカッタ 夜
ハウカイガアルトノコトニ夜迄居ルコトニス 和田氏コヽヨリ先キニ名古屋ニ行カレル 夜
ニナツタガ、ウカヒハツヒニナカッタ 月夜ニヤラナイトノコト。片岡ニモ會フ 十一時四
分ノ終車ニテ名古屋三行ク ○時四十六分發ノ東京行キアリ、スグ搭乗ス 島田ニハ四
時頃着ノ予定

各務ヶ原ノ發展ニ驚イタ 鵜沼ト犬山ノ渡ナドオモカゲモナク立派ナ鉄橋ガ出來テ電

車が通シデ居タ。久シブリニ静カナ山河ニ接スルコトガ出来タ

▲▼2883ページ▲▼ 昭和8(1933)年9月29日(金)

天気晴

四時島田下車 駅前菊屋旅館ニ入り朝迄眠ル 七時半起床 小イサナニ室ヨリナイ素人宿デアッタガ気持チハ悪クナカッタ 朝食後自動車ニテ北河製品所ニ行ク 大井川ニ迫ッタ松林ツ、ギノヨイ處デアッタ 丁度主人ガ居タノデ會フ 一時間半程話ス 新軽飛行機ノベニヤ板ニ塗ル塗料ニツキ相談スルト丁度川崎式プロペラ用ニ研究完成シタ塗料ガアッタ。マダ発表シテ居ナイガ、之レデ、ヤツテ見タラ、ドウカトノコトデア見本ヲ塗ツテ貫フ約束ラス

大井川ノ土手デ石ヲ捨(ママ)ヒナガラ朝顔目アキノ松ヲ見ブラ、ノ帰り途中乗合ニテ島田駅へ 丁度東京行キガアッタノデ、ソレニ乗ル〇時四十五分發 六時間ニテ東京駅着 眞スグ帰宅

三谷マダ金ヲ持参セヌ由

▲▼2884ページ▲▼ 昭和8(1933)年9月30日(土)

天気晴

三谷百円鈴木百五十円持参 夜漸ク少シズ、分配ス 苦心サンタン

▲▼2885ページ▲▼ 10月

軽飛行機着手ノ事

▲▼2886ページ▲▼ 昭和8(1933)年10月1日(日)

天気晴

正憲ノアプロ買ヒタイト云人來 晝頃デアッタ 伊四郎ヲツケテ千葉ヘヤル 夜ニナツテ帰ツテ來テ尚話キマラス正憲母來ルトノコト 八時頃待ツテ來ラズ帰ヘス 行違ヒニ母來宅 鈴木ガアマリ先方ノ、カタヲ持チ過ギタノヲ、フンガイシテ居タ。正憲モ大分ヨサソウデアッタ 結局値段ノ折合ツカズ中止トナリ機体ハ自分ニマカセ收入ノ道ヲハカルコト。然シテ收入ハ一部ヲ正憲ニ一部ヲ工場へ入金スルコトトナル

松竹ヨリ松浦氏來 猿田氏ハンサーニテ飛行ス

夕方荒木新入會者アリ入會手續キヲ終ル

▲▼287ページ▲▼ 昭和8(1933)年10月2日(月)

天気 晴

局ヨリ電話アリ 明日コードロンノ件ニツキ來テ呉レトノコトデアッタ

▲▼288ページ▲▼ 昭和8(1933)年10月3日(火)

天気 晴

上京 高島屋ニテ洋服ヲ求ム 二十三円 最底(ママ)品

局玉宮氏ニ會見 コードロン中止スルカ二三ヶ月ノ堪航証ニスルカ或ハ大修理スルカトノコトデアッタノデ中間ヲ取ルコトニシ課長ノ諒解ヲ得

理化學興業会社ニ行キピストリリング注文 サルシリンドーヲ持參 飛行館ニテ一時間余リ沢柳氏ヲ待チ共ニ茶ヲノミナガラ輕飛行機第二類トシテ世界記録ニ進ムコトニ決定 銀坐ヲ散歩シテ高島屋デア洋服ヲ取り予算ガ十二三円余ッタノデ家内ノ着物ト羽織地ヲ買フ

▲▼289ページ▲▼ 昭和8(1933)年10月4日(水)

天気 晴

九時半幕張發ニテ下志津(行キ栗山中佐品川中尉ニ會ヒ禮ヲ述ベル。昨日ハ一寸見學今日カラ自分達デア鑄込ミヲヤラセテ居ルトノコト 一寸見セテ貰フ 十二時ニ品川中尉歸ルトノコトニ同道シテ歸ル 三四日ノ予定ガ一週間カヽルトノコトニ、十円ダケ居イテ、帰リニ残ッタ十五円ヲ國吉へ届ケル

明日富山へノ飛行準備 夕方試運轉ニラジエター漏リ代品サガシ。比較的ヨイノガアッタノデ夜付替エサセル

▲▼290ページ▲▼ 昭和8(1933)年10月5日(木)

天気 晴

今日モ上天気 鈴木ノ三溝ハ昨日行ツタトノコト

ラジエター漏ラズ調子ヨシ 三十分間試飛行後上田ニ着陸 ヨク點檢シテ行ク様ニ命ズ十一時五十五分離陸 関口操縦埴山同乗 富山子バカリデア飛ンデ行ク 一時半上田着 四時十八分無事富山着 先ヅ安心

三谷ノ來ルノヲ待ツタガ三時頃漸ク來 金マダ來ラズ 安岡ニ出發サセナイ様ニ云ヒツケテ飛行館ノ二十週年祭ニ行ク 途中散散髪シテ居テオソクナリ五時頃行ツタラ皆歸

ル處デアッタ 記念品ダケ貰ツテ奈良原、宗里氏ト帰ル

▲▼291ページ▲▼ 昭和8(1933)年10月6日(金)

天気 曇少雨

奈良氏原(ママ)來場 川西ノタレトカニ會ツタリ、高等學校時代ノ同窓會ヤ、伯母ノ年回ヤラニ行クトノコトニ五円渡ス

三谷夕方ニナツテ式百五十円來 時間オソク金ニナラズ

齋藤練習生父來 入会金入金アリ

上仲洲崎ヨリ帰ル

沢柳君來 現場用金具ノ圖面ヲ出サセ、材料調ベヲ行フ

▲▼292ページ▲▼ 昭和8(1933)年10月7日(土)

天気 曇少雨

清水ノ就職ノ爲メ上京 局ニ行ク。今日ハ昨日アタリカラ問題ニナツテ居ル空輸會社ノ夜間飛行ニツキ飛行士ガ反対シテヤラナイトノ問題デゴタ、シテ居テ課長ニハ話シモ出來ナカッタノデ南波氏ニタノシデヤル

履歷書ヲ出シテ居カセル アート商會ニ行キサル40バルブガイドノ地金ノコトニツキ相談ス。ニッケルスチールガヨイトテ材料ヲ呉レタ。柳原氏ハローン80ノピストンヲ作りツ、アルノデ會ワズニ、日暮里ノ佐野ヘ行キ前月分ノ勘定ダケ支拂ツテアトハ十五日頃一部入金スルコトニシテ帰ル 風ヤ、ツヨク三谷ノ一五外ニ出シテアルノデ早く帰ル

吉田重雄帰ル

▲▼293ページ▲▼ 昭和8(1933)年10月8日(日)

天気 雨

秋雨シト、ト淋シサヲ増ス

昨日ラジオノ晝間線ガ引ケタノデ晝間カララジオヲ聞ク 晝食ニ一杯カタムケテ少シ晝寢スル 夜ハ酒ヲヤラナカッタノデ九時頃迄ラジオヲ聞イタガアトハ知ラナカッタ

飯田久シ振リデ來場 今夜富山ヘ帰ル由 水戸部氏ヨリ一三ヲ退職手當代リニ貰ツタ由 買手ガアツタラ賣リタイトノコト

十二月末ノ收入ガ今ノ處予定ナク何ニカ仕事ヲセネバナナイ事ヲ色々考ヘル 差シ當リヤハリ飯沼ノ十年式デモヤル外ナイガ、アイツ此頃會フト大風呂敷ヲ、ヒロゲル、クセ二十年式ノ整備ヲ何ンダカダト、金ヲ出シオシミスルノデ會フノモ、イヤダガ止ムヲ得マイ

▲▼294ページ▲▼ 昭和8(1933)年10月9日(月)

天気 晴

鈴木千葉保険署支拂ヒ下志津禮ヲ兼ネ宿ノ勘定ニヤル。今日帰ル予定又一日延ビタトノコト

沢柳君來 丁度タイムスヨリ三百ノ恵美五十三型必ず製作スルコトニキマッタガ注文ノ時期ニツイテハマダ少シ延ビルトノコトデアッタ 沢柳君モ期待シテ居タ 今日ハ工場内ノパイプ類ヲ全部調査ス 大部分アッタ

▲▼295ページ▲▼ 昭和8(1933)年10月10日(火)

天気 晴

上天気ニナツタノデニ谷飛行準備ニカ、ツタガスデニオソク沖道出スノニ大骨ヲ折ルクラブ工場カラ手傳フ 後チ午後二時漸ク出發ス 今日ハ大坂道行クマイ。夜十時頃六時五分新舞子ニツイタトノ入電アリ

午後佐藤、一行下志津ヨリ帰ル 計器類モスツカリ調整出來テ居タ。計器ノ試験器ノ方ガ金ガカ、ラナイラシイ

鈴木局及理研ノピストン取りト十二日大ノ應援飛行ノ願書ヲ持タセテ上京 倉庫整理ヲナス

▲▼296ページ▲▼ 昭和8(1933)年10月11日(水)

天気 晴

三谷大坂ニ安着ノ由

コードロン組立ニ着手 上仲ニモ手傳ワセル

鈴木空中作業へ集金ニ行ツテ朝出テ夕方迄カ、ル 帰ツテ何ニカト辨解シテ居タガ大分足リナイワイ

▲▼297ページ▲▼ 昭和8(1933)年10月12日(木)

天気 曇雨

局へ奨励金受取りニ行クツヒデニ検査ノ件明日來ルコトニキマル。工場へ其旨電話スル 時代社へ道永ニ會フ 東京クラブノ入会金ト会費五五分ヲ支拂フ 道永ト晝食ヲ共ニス 此度サル将官ヨリ満州ニ八百万円ノ特種会社ガ出來ルノデ其総務力秘書課長ニ就任シテ吳レトノ交渉ガアッタトノコト。ソレニツキ時代ノアトヲドウ處置シヨウカトノコ

トニ、確實ナルモノナレバ最(ママ)非就任スルコト アトハ飛行ト合シテ北尾ニヤラセルコトヲ忠言ス

協会デ日本クラブノ会合ヲ待ツタガ今日ハ誰レモ來ナカッタ 四時ボツシユノ会社へ新ラシイ電気ドリルヲ見ニ行ツタガ、マダ荷ガ來テ居ナイトノコトデスグ帰ル。佐藤ニヨツタガ不在

帰途気分悪シクスグ床ニ入ル

▲▼298ページ▲▼ 昭和8(1933)年10月13日(金)

天気 晴

今日ハ朝日ノ羽田ノ格納庫開キデ八時半ノ自動車デ行ク 品川デ沢柳君ヲ待チ合セ行ク 立派ニ出來上ツテ居タ 半円形ノ新ラシイ組立方デアッタ。オージロト、モースバーノ飛行アリ。晝食ガ出ル 村山長舉氏ノ挨拶 來賓代理ヲ枝野通信次官ノ挨拶等形ノ如ク終ル タレカロノ悪イノガ格納庫ノ形カラ、イラナクナツタラ炭焼小屋ニスルトヨイトニツツテ笑ワセタ

東日ノ格納庫ニテ一三式ヲ見社ノ自動車ニ同乗シテ本社ニ行キ大坂へ連絡シテ貰ツテ大坂ノ部品ヲ見ニ行ク事トス。クラブニ行キ住友伸銅ノ使ノモノニデユラルミン管ノ金ヲ支拂フ

銀座ニテコリントゲームヲ買ツテ帰ル 帰り又気分悪クナル

▲▼299ページ▲▼ 昭和8(1933)年10月14日(土)

天気 曇リ

佐野へ八十円入金シ塗料注文 外ハ大坂行ノ爲メ支拂不能 五時半ノ自動車ニテ出發

▲▼300ページ▲▼ 昭和8(1933)年10月15日(日)

天気 曇後雨

七時五十分梅田着 新世界ニ行キ少息 九時エミス町ニ一寸ヨリ十時練兵場ニ行ク 朝日ニ三十円六月借りタガソリン代ヲ支拂ヒ、大毎ノ一三式分解シタノヲ見セテ貰フ 大体部品ガ、ソロッテ居タ 機体ノマ、送ツテ貰フコトニキメル。福知氏ヲ待ツテ晝頃ニナツタ ヨク頼ンデ、川西ノ様子ヲ聞ク 今日ハ日曜デタメダトノコトニ明朝ノ事ニシ大毎ノ自動車デ送ラレテ帰宅後千代子ニ道案内ヲサセテ西ノ叔父ノ悔ニ築港ノ宅へ行ク。

死ンダ叔父ニ線香ヲ上げ忠治君ニ會ヒタカッタガ不在ノ爲メスグ帰ル。夜姉兄、石垣徳君ト牛肉デ会食

▲▼301ページ▲▼ 昭和8(1933)年10月16日(月)

天気 曇リ

八時新世界ヲ出テ一路川西ニ行ク 九時ノ乗合ガ出タバカリデアト十時デナケネバナ
イトノコトニ歩クコトニス 丁度三十分デツク 戸川君ニ面會ヲ申込ム 坂東君ガ出テ
來タ 戸川君モ來テ貰ヒデュラルミン板屑ヲ譲ツテ貰フコトス 尚仕事ノ仕方ナド聞
ク 十一時半梅田着 駅前ニテ晝食後一時發特急ニ乗ル

▲▼302ページ▲▼ 昭和8(1933)年10月17日(火)

天気 晴

休場者多ク作業ハカドラズ
午後東日ノ見積書ヲ作ル
川辺自分ノ大坂へ出發前日帰宅シタル由
武中無事飛行終了ス

▲▼303ページ▲▼ 昭和8(1933)年10月18日(水)

天気 曇リ

上京 局ニ行ク 廿三日ヨリ試験ヲ行フ由 山田航空官出張ノコト
駒林氏預リノ輕飛行機計算書受取ル
藤原博士電話ニテ話ス マダ土地問題方付カズ、グライダー決定セズ
クラブニ行ク 沢柳君來 デュラルミン板ノ打合せ其他ヲナシ四時帰宅ス

▲▼304ページ▲▼ 昭和8(1933)年10月19日(木)

天気 雨

今年ハ霞ヶ浦へ行ク日ハ必ズ雨ガ降ル 今日モ少シノ予定ガ本降りニナツタ 九時半金
町乗車 荒川沖下車 藤原、ニ會フ。井上、柴田氏ト今日ハ四人キリ 十二時半下見
ヲ終ツテ晝食後二時ノ汽車ニテ帰ル
今日ハ日本飛行クラブノ会合ニ行ク予定 時間モオソク金ノ都ヤラ雨モ降ルノデ中止ス

▲▼305ページ▲▼ 昭和8(1933)年10月20日(金)

天気 雨

颱風八岡山附近ヨリ日本海方面ニ行(ママ)ヒ雨八午前中相當降ツタガ午後八風マジリ降
タリヤンダリ 風モ大シタコトナク無事 明石海峡ニテ別府大坂間ノ客船沈ボツセリト
ノコト 本日中午ニキユウ助サレタル者五十余名 アト百余名ハ不明
鈴木横須賀ノ拂下ニ出張サセル
大友照(ママ)介ノ梅川某本日入所

▲▼306ページ▲▼ 昭和8(1933)年10月21日(土)

天気 曇雨風晴
終日在所

▲▼307ページ▲▼ 昭和8(1933)年10月22日(日)

天気 晴

明日ノ準備デゴタ、インガシカッタ
上野ノペラ板金巻キ遅レテツヒニサル洲崎へ飛行出來ズ 夜業シテ発動機ノ調子直ス
正憲ノ母來 昨日鈴木伊ワザ、千葉迄ヤッタノニ急イデ帰ツタ爲メ松山氏ニ會ワズニ
帰ツタトノコトデアッタ。明日來テ貰フ様ニ話ス
朝奈良原氏來 三円渡ス
試験出張ノ爲メノ金策ツカヌ由デ困ツタ。夜黒沢、島ヨリ十五円借リテ出張ス

▲▼308ページ▲▼ 昭和8(1933)年10月23日(月)

天気 晴風

晴レタレドモ風ツヨク早朝準備セシモ、サル洲崎ニ飛行出來ズ 午後八風ノ爲汐干カズ
山田航空官、角田囑來場 各操縦士ノ指問ヲ終リ船橋ニ泊ラル 明朝早ク洲崎ニ運
搬 同所ヨリ出発スルコトナル
ゴタ、シテヤ、コシイ日デアッタ
正憲ノ母カラ又手紙デ今日安岡ニ來テ貰ツテ呉レト書イテアッタ 発信ハ一昨日ノ夜
デアッタノデ昨日來テ、今日千葉カラ來テ貰フコトニシテ居イタカラ待ツタガツヒニ來
ナカッタ
開所以來ノ卒業生調査ヲナス クラ部二十三名工場五十七名計八十名トナッタ

▲▼309ページ▲▼ 昭和8(1933)年10月24日(火)

天気 晴

上天氣 早朝全部洲崎ニ飛行サセル
夜報告 関口終リ二等二名モ野外場内共ニ終ル 御国ノ方一人不時着 少シコワシタ
由

鈴木警視廳手續キニ上京サセル
正憲件ニツキ杉山氏來テ貰フベク上仲ヲ使ニヤッタガ來ラレナイトノコト

▲▼310ページ▲▼ 昭和8(1933)年10月25日(水)

天氣晴

上京 先ヅ洲崎ニ行ク 二等全部終リ吉田上田着 更ニ太田原ニ向ツタ由。安岡正午
正憲機ニテ美津濃ノ飛行ヲ行フ
山田、角田両氏ト晝食ヲ共ニシ後チ局ニ行ク 東日、大毎機ノ調査ヲシテ東京クラブニ
沢柳氏ト會ヒ終ツテ日比谷ノ盆栽展ヲ見テ帰ル

▲▼311ページ▲▼ 昭和8(1933)年10月26日(木)

天氣晴

日本飛行クラブノ會合ノ爲メ上京 局ニ行キ大毎機ノ試験成績ヲ写シ、大毎ニヨル
和田氏不在 大蔵ニ會フ
協会ニ行ク 奈良原、鈴木ダケ ダレモ來ラズ
飯沼來 田中來 カスミケ浦ノ拂下自動車クジ引キヲナシ田中ニ取ラレル
ライジンクサンニ寄り由良ニ會フ 支拂本月ヨリ六ヶ月間毎月二十円ツ、來年四五六ニ
テアト完済ノ件申込ム。本社ト想(ママ)談話スル由

▲▼312ページ▲▼ 昭和8(1933)年10月27日(金)

天氣晴

飛行ノ爲メ竹中上京 亜細亞ニテガソリン式カン借入日大ノ分飛行。弘益社分飛行
延期
奈良原氏來 沢柳氏來
コードロン試飛行 十五分飛行ハ樂デアッタ由。ヤハリ余ノ想像通り 操縦士ガナレナカ
ツタノダ
発動機ノ回轉ガ千七百以上出ナイノデ後チ種々ヤッテ見タガ変化ナカッタ

▲▼313ページ▲▼ 昭和8(1933)年10月28日(土)

天気晴

東日一三式大蔵操縦 須田氏外記者一名同妻君同乗ニテ十時過ぎ着 スグ両翼分解 工場二入レル 晝食ヲ出シテ帰ヘス

橋本善喜來場シタガユツクリ話シモ出來ズ上京 更ニ夜來 一泊ス

大蔵ノ話シテ大東長次郎君外二三名皆腦梅毒デ急死シタトノコトニ、氣味悪クナツタ早ク注射シタイモノダ。コンドハドンナコトガアツテモ全治迄ヤラネバナラナイ

川西ヨリ注文ノ送り狀來ル 百一円余 現品駅ニツク アマリ早イノデ面喰ツタ。鈴木菊雄ノ金ヲ廻ス外ナイノデ請求ス

▲▼314ページ▲▼ 昭和8(1933)年10月29日(日)

天気晴

家内ガ一人デヤル様ニナツテ初メテノ日曜日 ユツクリ休マセル 七時頃皆一斉ニ起床 橋本善喜証書書替エ來年四月末迄 スナワチ輕飛行機ノ完成迄マタセルコトトス

十時頃千葉ノ松山氏ニ出ル予定 一台乗リオクレタノデ時刻ノ關係上晝食後行ク 丁度會エタノデ、松山氏ノ意見ヲ聞イタガ、市長問題デ約半数ノ市議ガ上ゲラレ爲メニ運動ガ出來ナイトノコト ヤハリ、大シテ自信モナイ様デアッタノデ自分ノ原案ヲ示シ考慮ヲ求メテ帰ル

▲▼315ページ▲▼ 昭和8(1933)年10月30日(月)

川西ヨリデユラルミン板材到着 一〇一円余代引 案内ヲ見ルト板ガ一キロ七、八円ニナツテ居タ クヅ金トタノンダノガ普通ノ代ニナツテ居タニ驚イタ。之レデハチットモ安クナイ

▲▼316ページ▲▼ 昭和8(1933)年10月31日(火)

橋本國雄ヨリ書留メニテ十一月廿一日迄ニ利子全額七百余円ヲ入レネバ格納庫ヲ釘付ケニ行クトノ手紙來 何ントカ対策ヲセネバナラナイ

▲▼317ページ▲▼ 11月

輕飛行機着手

▲▼318ページ▲▼ 昭和8(1933)年11月1日(水)

天気 雨曇

本記事ハ二日ノ分

コードロントクラブアプロノ完成検査ニ玉宮木目田氏來場 コードロン済ミアプロペラノ振動ニテ少シ遅レ汐ガ上ゲタノデ安岡ニ海岸ヨリ飛バス 二十分程デ谷津ニ不時着自動車デ行ク 幸ニ無事デアッタガマグネットノギヤーガヌケ出シタ爲メデアッタ 時スデニ四時半頃 野外ケイ留ニシテ自分ハ東京飛行クラブニ出席ノ爲メ上京 外ニ鈴木菊アプロノ内部検査終ル 脚ダケ今度見ル事。東日ヨリ須田入江氏來場 玉宮氏立会ヒ胴体ロンゼロン前ダケ新調スルコトト決定ス

伊藤西氏ヨリ自動車トガソリン代受取り、大坂ビルニ行ク 武田次郎氏出席シテ居タノデイス。パノノ件トロンゼロンモ譲ツテ貰フコトヲタノム

報知ノ早川君ヨリ綱引ノ函ノ件話シアリ 天野サンモ見エタノデコードロンノコトヲ報告ス 森サンニファイアットノ事ヲ依頼 今日ノ会合ハ有益ニ利用出來タ 出席者少ナシ

▲▼319ページ▲▼ 昭和8(1933)年11月2日(木)

天気 晴

十一月一日ヨリ夜間定期開始ノ處夜雨ノ爲メ二日初メテ行フ 其爲メ東京クラブヘ出席者少ナシ

正憲母來 弘益社ノ金五日デナラネバダメナノデ五円貸ス

奈良原氏來場 五円渡

▲▼320ページ▲▼ 昭和8(1933)年11月3日(金)

天気 曇リ

東日機ノ再見積ヲナス

東伏見ノ宮ヒ殿下今晝ゴウ去アラセラル爲メニ本日信太郎ノ運動会中止トナツテ歸ッテ來タ

▲▼321ページ▲▼ 昭和8(1933)年11月4日(土)

天気 晴

ドウモヤハリ頭ノ工合ガ悪ルイ

東日機分解ヲ初メル

▲▼322ページ▲▼ 昭和8(1933)年11月5日(日)

天気 晴

上天気 九時頃カラ小供ニ手傳ワセフレームヲ作りイチゴヤ草花ヲ入レル 午後ハ盆栽ノ手入レナドヲナス 頭ノモヤヽヽガキレイニサツパリシタ 清々シクナッタノデ嬉(ママ)バシカッタ
今気ニナルノハ橋本國ヘノ返事ダケ

▲▼323ページ▲▼ 昭和8(1933)年11月6日(月)

天気 雨

弘益社ノ集金其他局等へ鈴木上京サセル
正憲母金取りニ來タガ弘益社へ丁度行ク前デアッタノデ來次第持タセテヤルコトトス
保険課電話デ請求シテ來タノデ集金ノ爲メ上京 時間ニ間ニ合エバ持参ト返事ス
今村昨夕帰場 帰ツテモ挨拶ヒトツセス 今日呼ンデ外出ニハ届出ル様申シ渡ス
吉田関口一等試験アリ上京ス

▲▼324ページ▲▼ 昭和8(1933)年11月7日(火)

天気 晴曇

午前中ハトテモ寒カッタ
岡山へ送ツタ研麻(ママ)機ノ金到着シタトノコトニ川西ノ代引取ルコトニ返事ス
鈴木出場セス 上京 弘益社へ電話シテ話ス 今日ハ取レソウトノコト
正憲母又來 クラブヨリ借りテ四円貸ス
奈良原氏來 明日持タセテヤルコトトス
沢柳君來
八百屋ニ頼ンダ女中今日カラ來ルトノコトデアッタガツヒニ來ナカッタ

▲▼325ページ▲▼ 昭和8(1933)年11月8日(水)

天気 晴

鈴木昨夜帰ラザル由
十時半ヨリ東日へ行ク 丁度福地氏來社中 見積書提出決定 注文書ヲ貰フ 内金ノ件羽太氏就任ノ上ニトノコト 少シ又延ビルコトトナル。帰途児玉氏事務所ニテ會フ
久シ振リデアッタ

▲▼326ページ▲▼ 昭和8(1933)年11月9日(木)

天気 雨曇

十一時頃ヨリ上京 局ニ行ク 吉田関口一等バス。コードロンノ定置場承認書ヲ提出。クラブニテ沢柳氏ニ會フ 清平ヨリスパノ重心點ヲ聞イテ知ラセル。交信社暮合君來 三百円ニ對シテハ仕事ノ半額ヲ入金スルコト 但シ先方ハ全額ノ半分 コチラハ実費ヲ引イタ半分 実費ヲ一回十五円ト見ルコトト申出決定迄イタラズ考慮スルコト 十五日ノ飛行手續キノ爲メ明日鈴木上京サセルコトトス

四時ヨリ日本飛行クラブ會合 相羽、奈良原、鈴木、飯沼、木暮、御原、遠藤、競技會ノ件決定 室ノ件クラブ使用ノコトニ決定。航空審議會ニ對スル請願ハ諸説アリリ(マシモ取ルニ足ラズ 自分ノ航空根本策ヲ述べ之レヲ具体的ニ書類ニシテ次回審議ノ上提出ノコトトス

▲▼327ページ▲▼ 昭和8(1933)年11月10日(金)

天気 晴

鈴木交信社及佐藤、岡田等へ行ク 上仲数日來又出勤セズ 帰途立寄り様子ヲ見テ來ル様ニサセル 折角軽飛行機ノ練習ヲヤラセテヤロウト思テ居ル矢先ギ馬鹿ナ奴ダ西田照(ママ)介ノ笹野本日暇ヲ取ツテ夕方帰ル 女中今日同時ニ二人來 取リアエズ二人共置ク 倉庫方付拂下ヲ行ヒ工場員ニ小遣ヲヤル

▲▼328ページ▲▼ 昭和8(1933)年11月11日(土)

天気 曇リ雨

永イ間考ヘタ今日橋本国雄ノ内容証明ニ對シ工場員一同減俸シテ迄輕飛行機ノ製作ニ熱中 完成ノ上ハ利子ハモトヨリ元金ニ迫入金シ得ル予定ヲ書キ延期ヲ申込ム 尚ニ十日迄ニ自分カタレカ行ク旨記入ス

▲▼329ページ▲▼ 昭和8(1933)年11月12日(日)

天気 晴

今日ハ信太郎相手ニ盆栽ノ霜ヨケヲ作ル

▲▼330ページ▲▼ 昭和8(1933)年11月13日(月)

天気 晴

東日ヘイツ内金貰エルカ交渉ノ爲メ上京 朝出デ上野ノ美術館ニ行キ十四回帝展ヲ見

ル一時頃東日二行ク 福地氏マダ居ラレタ 和田氏ニ材料購入予算書ヲ提出代七百七十円ニナルノニ対シ初メ五百円月末三百円貫ヒタイコトヲ申込ム。ロンゲロンノ件ニ菱ヨリ伊藤デハ困ルカラ東日デ注文シテ呉レトノコトデアッタ由 実ニイヤナ感ジガシタ 涙ガ出ソウデアッタ 大蔵ニ橋本國雄ノ手紙ノ件ヲ話シ一昨日手紙ヲ出シテ居イタ要領ニ話シヲマトメテ貰フ様頼ム 大蔵ハ例ノ調子デ橋本ヲケナシテ居タガ、ソウモ行カナイ自分ノ心境トシテ貧棒(ママ)ノ爲メ不義理(ママ)ハシテモ悪イコトハシタクナイ野呂氏仙台へ飛行 無事着ス

▲▼331ページ▲▼ 昭和8(1933)年11月14日(火)

天気 晴

朝ガタカラ、オートト下痢ヲハジメ止マラズ終日床ニツク 明日ノ支拂ヒニツキ苦心クラブヨリ漸ク百円入金アリ
上仲ヲ呼び将来ノ方針ニツキヨウク申聞ケコードロン練習セシムルコトトス
奈良原氏來 クラブヨリ五円渡ス

▲▼332ページ▲▼ 昭和8(1933)年11月15日(水)

天気 晴

今朝ハヨソソウデアッタガ要(ママ)心シテ一日寝ル マダ午前中ハ牛乳トリソゴ汁ガスグ出タ タ方オシヤヲ取ル
川辺末ノ末女四才停留所附近デ近所ノ小供ト二人電車ニハネラレ重傷 渡辺ニ入院シタトノコト 頭ヲヤラレ骨ガ見エル由 電話デ家内ガ取アエズ見舞フ
東京宣傳飛行二三機出発ス
午後鈴木平松集金ノ爲メ上京ス
午後国策審議会ニ対スル建議書ノ草案ニカゝル 午前中ハ奈良原氏話シノ東村山飛行場ノ設備費予算書ヲ作ル
橋本ヨリ手紙來 コーフィンシテ夜眠レズ困ル

▲▼333ページ▲▼ 昭和8(1933)年11月16日(木)

天気 雨後曇リ

霞ヶ浦引取りニ池本畠山出張サセル 午八時頃帰ル 十年式外数十點
今朝ヨリ起床
鈴木菊ID宗里甲三、サルノ見込書ヲ作ル
今朝雨中昨日上京ノ三機到着ス

金モ受取ツテ來タノデスグ正憲ノ分計算シテ持參セシム

▲▼334ページ▲▼ 昭和8(1933)年11月17日(金)

天気晴

伊藤西夫氏依頼ノパラシュート試験。検査其他來場セシモイヨ、トナツテ発動機故障ノ爲メ中止 氣ノ毒ヲシタガ考ヘテ見レバ、ヨク東京デ事故ガ起ラナクテヨカッタ

▲▼335ページ▲▼ 昭和8(1933)年11月18日(土)

天気晴

局金受取リノ爲メ鈴木自宅ヨリ上京ス

▲▼336ページ▲▼ 昭和8(1933)年11月19日(日)

天気晴

朝カラヨク下腹部痛ミ遂ニ終日床ニツク

▲▼337ページ▲▼ 昭和8(1933)年11月20日(月)

天気晴

痛ミ取レズ鈴木ヲ上京サセル 大蔵大坂へ行クニツキ橋本ヘノ事傳ヲ手紙ニシテ持參サセル

夜帰ル 検査明日船橋へ行クトノコト。局鈴木ノ補助金受取ル 佐野一カンダケ現金ニテ取ル

夜橋本国ヨリ電話アリ 明日午後一時飛行館ニテ会フコトヲ約束ス

今日航空国策全部書キ終ル

沢柳氏來

▲▼338ページ▲▼ 昭和8(1933)年11月21日(火)

天気晴

午後一時橋本飛行館ニテ會フ約束シタガ下痢止マラズ大蔵ニ電話シテ會ツテ貰ヒ話シツカネバ橋本來場スル様ニ云フ 夜入浴中大蔵ヨリ電話アリ 延期ハスルガ具体的ノコトヲ聞キタイカラ今夜九時過ぎニ浅草ノ一四一〇ニ居ルカラ橋本ヘ電話シテ呉レトノコト 九時半橋本ニ電話シ明朝行クコトニス

大蔵本夜各務ヶ原ニ出張ノ由

浜野來 明日金持ツテ來ルカラ年内ニ間ニ合セテ、ホシイトノコト 伊藤西氏へ電話シテ
同氏ノアプロ來年ニナツテモヨイトノ承認ヲ受

▲▼339ページ▲▼ 昭和8(1933)年11月22日(水)

天気 晴

イタミガ取レタノデ漸ク楽ニナッタ 少シマダ下痢スルガ上京 十時半浅草ノ橋本ノ友
人ノ宅ト云フノデ會見 會見積書ノ通り解決ス 昨日技術課長ニ話シタトノコト 之レ
ニ対シ別ニ痛ヨウハ感ジナイガ橋本手難キツス 閉ロシテ居タ

局ニ行ク 課長カラ話シガアッタノデ輕ク事實ヲ話シテ居ク 輕飛計算書提出。検査ノ
日取り廿七日ヨリ早ク行ケヌトノコト

飛行館ヨリ清平へ電話シ十五円ヲクラブへ預ケテ居ク 四時船橋着 帰宅。浜野本日
ノ約束居ラズ夜來ル 明日中ニ決定セズバ年内間ニ合サナイト云ヒ居ク

▲▼340ページ▲▼ 昭和8(1933)年11月23日(木)

天気 晴

奈良原氏來 小供ヲ連レテ同乗サセタイトノコト 朝夕早クスデニ終ツテ午後汐少ナク
中止 正午竹崎君新理事一名連レテ來 宗里君又來 六名ニ晝メシヲ出ス 竹崎此度
又少シ金ガ出來東京へ事務所ヲ持ツタ由。廿八日神奈川號飛行シテ吳レトノコトニ承
認ス

▲▼341ページ▲▼ 昭和8(1933)年11月24日(金)

天気 晴

警視廳手續キノ爲メ鈴木上京サセル
腹ノ工合大分ヨシ

▲▼342ページ▲▼ 昭和8(1933)年11月25日(土)

天気 晴

鈴木ID試飛行上仲

廿七日飛行ノ事ニツキ御国伊藤氏警視廳打合セ

廿七日検査ノ件局へ電話スル 要領ヲ得ズ

鈴木正憲母早朝來 格納庫料間違ヒニテ記入差引セルモノヲ機体内入レニ振り替ルベ

ク過日手紙伊四郎ヨリ出シタルニ対シ今日其金ヲホシイト來リタル由 前数日クラブ、工場共ニ入金ナク十銭ノ余裕サエナキトキニツキ來月二三日迄何ントカシテ居ク様コトワル。午後鈴木ニ帳簿ヲ持ツテ來テ呉レトノコトナリシモ、急(ママ)ガシイノヲ理由ニコトワル

夜道永君ヨリ電話ニテ滿州行決定 來月十日出發ノ由 大慶
今日ヨリ作業服ニナル

▲▼343ページ▲▼ 昭和8(1933)年11月26日(日)

天気 晴時々曇

寒イ朝デアッタ

昨日近所ノ小供ガコワシタ、フレームノ硝子ヲ直ス フレーム内ノ苺一ツ白イ花が見エダシタ

午後表ノゴミ捨場ノ土ヲ信太郎ニ振ルワセ鉢植用ノ用土ヲ作り、軒下ニ入レル
佐藤孝千葉へ引越シ 家内ヲ女店員トシテ働カセテ居ルトノコト

▲▼344ページ▲▼ 昭和8(1933)年11月27日(月)

天気 晴

鈴木上京 警視廳朝日弔問飛行ノ許可申請 松坂屋ノ連絡、局検査ノ件

大日本セルロイドノ難燃性セルロイド着 廿四円。檜材ノ方手早ク引取りタカッタノニ金不足

今日ハ東京カラズイ分沢山電話ノカ、ッタ日デアッタ

朝日ノ飛行鈴木宗里モ飛バセルコトニナル

▲▼345ページ▲▼ 昭和8(1933)年11月28日(火)

天気 晴

十時ノ自動車ニテ上京 散髪ヲシテ東日ニ行ク 羽太氏一日ニ來ル筈ダガ一日ノ夜タツカモ知レヌカラ一日ニシテ呉レトノコト。二時朝日村山社長ノ告別式ニ參列 花環モ丁度程ヨイ處ニカザラレテ居タ

飛行館ニテ高見安次氏ニ久シ振リデ會フ 長男赤ノ爲メ市ヶ谷ニ入所シテ居ル由 広チヤンガ自動車ニ敷カレテ三週間入院シタトノコト 然シ事業ハ今度炭坑ヲヤルコトニナリ一切ヲ獨リデヤルラシイ 契約書ナド見セテ外ニ二三ノ事業モ皆ヨサソウデアッタガ、ドレモコレカラノモノバカリデアッタ。用件ハ金州ノ飛行機ヲ関東廳へ寄附ノ件デアッタノデマカセル

児玉静治氏ニ會フ 夕食ヲ共ニス。少シ影(ママ)氣ヨサソウデアッタ
村山飛行場ノ件奈良原氏ノ話シト少シ、チガツテ居タ。ヨク研究シテ予算書ヲ出スコト
トス

▲▼346ページ▲▼ 昭和8(1933)年11月29日(水)

天気 晴曇リ

竹崎飛行ノ爲メ安岡東京泊リ 本日報告ナシ
今日ハ早朝カラ風呂ヲ沸シ薬ヲ入レテ入浴三回 先日來セナカガ、カユクテ閉口
終日宅ノ方デ軽飛行機ノ材料調ベヲ行フ
佐藤喜電話デ頼ンデ四ミリケーブルヲ取ル
入金更ニナク閉口

▲▼347ページ▲▼ 昭和8(1933)年11月30日(木)

天気 曇リ

今日モ終日軽飛行機ノ材料調査

▲▼348ページ▲▼ 12月

東日機完成納入
軽飛行機進行

▲▼349ページ▲▼ 昭和8(1933)年12月1日(金)

天気 晴

明日東日出張ヲ期待シテ今日ハ終日在所 材料不足ニテ作業進行遅シ

▲▼350ページ▲▼ 昭和8(1933)年12月2日(土)

天気 曇後晴

局ニヨル 羽太氏ニ丁度會フ 今朝到着シタバカリトノコトニ社ニ同道 今日モラヘルモノ
ト五時頃迄マツタガ大坂(照介(ママ)シテ居ルノデ間ニ合ワズ月曜日トシテ帰ルコトトス
一日延バシニ支拂ヒヲ延バシテ居ルノデ工合ガ悪イ(ママ)カッタガソレ、又コトワリニ行
ク

▲▼351ページ▲▼ 昭和8(1933)年12月3日(日)

天気晴

日曜ダガ辻本南波両氏來 鈴木IDクラブMDアブロ完成検査終了ス

▲▼352ページ▲▼ 昭和8(1933)年12月4日(月)

天気晴

東日ニ終日カゝル 局ヨリ東日ニ行ツタガ話シヨク徹シテ居ラズ 大坂ノ福地氏トモ電話デ話シ原稿便デ材料購入予定表ヲ送ル 明日午後一時受取ルコトニキメテ飛行館ニ行ク 道永ニ會フ マダ出發キマラナイガ其前一度會食 明後日トキメテ清平ト共ニ夕食 七時十分大藏ガ大坂へ出發スルノデ見送リニ東京駅へ行ク

▲▼353ページ▲▼ 昭和8(1933)年12月5日(火)

天気晴

今日コソハ取ルツモリデ午前中ニ出懸ケ船橋デ試験ノ模様ヲ見テ上京 一時ニ丁度行ツタラ羽太氏外出中デ局ニ行キ大毎機検査ヲ内部ヲ九日カ十一日 完成ヲ終リ追ニト云フコトニス 宮田氏へヤルアンザニ一三十五一台課長ニ相談 元(マ)價六十五円ニツクノデ結局八十四位ト云フコトニス。四時過ギ書出シタ材料代七百七十円ヲ受取り 佐藤ニヨリ五十円ヲ支拂ヒ帰宅 スグ中台へ百円ヲ支拂フ アトハステ明日ノコトニス。ドウシテモ金ガ足りナイノデ苦心ス

▲▼354ページ▲▼ 昭和8(1933)年12月6日(水)

天気晴

支拂ヒ計算ヲ残シテアト式百五十円ヲ皆シナニ分ケルコトニシテ鈴木ニ分配サセル 片岡日銭ノ三十円ヲ以テ道永ノ送別會ヲシテヤルベク上京 佐藤ニヨリ買物シテ飛行館ニ行ク 六時迄待ツタガツヒニ來ラズ。北尾君ト下デ夕食ヲ共ニシ後チ銀ブラシテ帰ル 道永ト云フ男約束ヲモラナイ男ダ

▲▼355ページ▲▼ 昭和8(1933)年12月7日(木)

天気晴

羽太氏正午過ぎ來 二時半船橋第一へ山田航空官ニ挨拶ニ行カレルノデ同道ス
安岡丁度行ツテ居タノデ帰りハ飛行機デ帰ル 本年初メテデアッタ
鈴木伊上京 伊藤酉氏他買物

▲▼356ページ▲▼ 昭和8(1933)年12月8日(金)

作業カントク

▲▼357ページ▲▼ 昭和8(1933)年12月9日(土)

天気晴

作業カントク

▲▼358ページ▲▼ 昭和8(1933)年12月10日(日)

天気晴

本日モ休マス夜業ダケ休ム 夜肉デ馳走ス

▲▼359ページ▲▼ 昭和8(1933)年12月11日(月)

天気 晴曇リ

九時半局ニ出頭 鈴木正憲ノ奨励金下附方ニツキ事情ヲ聞カレ漸ク出ルコトニ決定
願書ノ一部訂正スルコトニナリ受取ツテ帰ル。沢柳君來 兄君帰朝後就職ヲセマラレル
ノデ軽飛行機ヲ早ク仕上ゲタイトノコト。タイムスノ注文交渉ノ手紙ヲ見セ共ニ野沢
組へ行ク 不在 東日ニ行キ羽太氏ト會見 一時間程シテ野沢ニ行キ更ニ一時間余待
ツ 沢柳氏所要アリ先キニ帰ル 間モナク石橋帰り來リタイムスノ注文ニ対シポップジヨ
イ見積書ヲ出スコトニス。飛行館ニヨリ、佐藤ニテ買物シテ帰ル
伊藤酉氏ニ訪問 アプロ整備内金三百円二十日迄 アト奨励金ニテヤルコトニ話シキマ
ル
明後日パラシュートノ金受取ルコト

▲▼360ページ▲▼ 昭和8(1933)年12月12日(火)

天気晴

予報ハ雨模様デアッタガ上天気トナル。西田來。局ヨリ石田氏來 午後羽太氏來 中
央翼張替エニ決定 スグハガシ内部見テ貰ヒ修理個所ヲ定メスグ張ツテヨシトノコト 此

頃ハ大分仕事ヲ信用サレテ來タノハ嬉シイ
夜業アリ

仕事師三名 大工一名

▲▼361ページ▲▼ 昭和8(1933)年12月13日(水)

天気 晴

仕事師三名 大工一名

▲▼362ページ▲▼ 昭和8(1933)年12月14日(木)

天気 晴

上京 佐藤ニヨリ買物ヲタノミ東日ニ寄り百五十円内金ヲタノミ散髪ヲシテ飛行館ニ
行ク 四時半頃相羽木暮奈良原、宗里、鈴木、自分ト伊藤酉氏ノ招待デ目黒ノ雅除
(ママ)園へ行ク 伊藤氏飛行界引退ノ挨拶ノ爲メ 七時飛行館ニ帰ル。空ノ伊太利ノ写
眞ヲ見タガ途中ト満員ノ爲ヨク分ラナカッタ

ゴムカン、米井商店ヨリ受取ル。伊藤氏ヨリ。バラシユートノ金式十円ダケ受取ル アト
明日ノ正午ニシテ呉レトノコト 其他買物ヲシテ上野ノ京成地下鉄ニテ初メテ帰ル 十
日開通シタモノ

仕事師三名 コンクリート 大工半日

▲▼363ページ▲▼ 昭和8(1933)年12月15日(金)

天気 晴

奈良原氏來 川辺君見ニヤツタガ所沢カラマダ帰ラズ

鈴木、伊藤、作業会社、東日金ヲ貰ヒニヤル 東日ダケ受取り帰ル

ライジングサンヨリ前月分月賦金二十円取りニ來 其前電話デ断ワテ居イタノニ來タ
ノデ止ムナク船橋ノ作業会社デ受取ツテ渡ス

仕事師三名 コンクリート 仕事師休

▲▼364ページ▲▼ 昭和8(1933)年12月16日(土)

天気 曇後雨

今日モ鈴木ヲ上京 野呂君ノ補助金ト伊藤酉氏ニヤル 野呂君ノ方野呂出張オンク
現金ニナラズ羽布ダケ取ツテ帰ル 作業会社船橋へ取りニヤツタガダメ 東京ノ加藤氏
ハ十八日ニ來テ呉レトノコトデアッタ由

鈴木菊ヨリ昨日拂下ノ模様ヲ聞ク 遠藤君ガ金主ヲ連レテ來テホトンド全部高價ニ「アンリオ」ナド一台百五十余円デ取ツテシマッタノコト 行カナイデヨカッタ 今日カラ石屋二名 午後大工半日

◆▼365ページ◆▼ 昭和8(1933)年12月17日(日)

天気晴

西風強シ 日曜ナレドモ七時迄夜業ス
石工二名、大工仕事休
クラブ会報原稿一部印刷屋へ渡ス

◆▼366ページ◆▼ 昭和8(1933)年12月18日(月)

天気晴

西風強ク午後漸(マ)時止ム
午前中ゴタ、シテツヒニ上京出來ズ午後上京 作業会社漸ク二十円受取ル 関口明
春四日ヨリ入社サセルコトニ決定 條件ハ加藤氏ト自分トテキメルコトニス。伊藤氏電
話シタガ不在 局ニ行き井上氏ニカケテ貰ツタガ立川へ行ツテ留都(マ)トノコト 玉宮
氏ト検査ノ日取りノ件打合せ廿六日カ四五日頃。買物ヲシテ六時帰宅
変ナコジキノ様ナ奴ガ來デゴタ、シテ居タガ自分等ガ行ツタラ漸ク帰ツタ
石屋二名 大工事ム所一名

◆▼367ページ◆▼ 昭和8(1933)年12月19日(火)

天気晴

暖イ小春日和デアッタ 六時起床 八時六分金町発列車ニ乗車 荒川沖デ安藤君ト
一所ニナル。井上氏來ラズ 古川屋ニテ朝食ヲ取ル 十時半ニテ井上、木暮、作業会社
來 下見ヲナス 機体ハ総ジテ程度悪ルカッタ
一三式ヲワイヤー二本貰エタコトハ東日機ヲマトメルノニ都合ヨカッタ 古川ニテ休息
二時十四分ニテ帰宅ス
鈴木伊藤西氏へ午後カラ上京シタトノコト
今日八十時半迄夜業ナス
大工事ム所一人、仕事師三名 石屋一名

◆▼368ページ◆▼ 昭和8(1933)年12月20日(水)

天気 晴

夜業

鈴木横須賀へ出張サセル

▲▼369ページ▲▼ 昭和8(1933)年12月21日(木)

天気 晴

夜業

▲▼370ページ▲▼ 昭和8(1933)年12月22日(金)

天気 晴

霞夕浦横須賀ニテ航法ノ練習ヲ受ケタル講習員ガ今日解散ニナルノテ飛行館ニテ其披露アリ出席ス

航空局ニ行キ玉宮氏ニ検査ノコト聞ク トテモダメトノコト。ソレハ日日ノ新機ノ爲メ休ミモ出張スルトノコトニアキラメ、社ニ羽太氏ヲ訪問 不在 帰ルヲ待ツテ完成ノ上ハ金ダケ廻シテ貫フヲタノシデ飛行館ニ行ク

平松、境両氏ニ會フ 十年式整備依頼ヲ受ケタルモ賣リタイトノコト タイムスへ話シテヤルコトニス 然ル上ニテ作業決定シタシトノコト 一三式賣ルコトノ交渉ヲナス 大分傾イテ居タガ考慮スルコトニテ分レル

▲▼371ページ▲▼ 昭和8(1933)年12月23日(土)

天気 晴

午前六時三十九分皇太子殿下御降誕サル 万歳々々

鈴木上京 局其他

工場作業トクレイ

クラブ原稿ヲ作ル

第一回ノラジオタイ操ノ放送ノ時御目出度ニュースガアルカモ知レヌカラ、ラジオオハスイツチヲ入レタマ、ニセヨトノ注意アリ 七時半御降誕ノ放送アリ ホガラカナヨイ朝日ト共ニ生レ出テ給ヒシ日ヅキノ御子ハ將來ノ日本ニヨイ運命ヲ開カレル事デアロウ

▲▼372ページ▲▼ 昭和8(1933)年12月24日(日)

天気 晴

今日ハ風尚悪ルク終日頭ガイタム 夜早ク床ニ入ル 今夜ハ一時頃迄夜業セル由

▲▼373ページ▲▼ 昭和8(1933)年12月25日(月)

天気 晴

本日ヨリ夜業ヲ中止ス

大格ヲ才翼組立ヲナシ大格ニ写ス

昨夜ハ張田徹夜 矢野ガ一時間程早ク休ム

仕事師三名 大工一名 内仕事師半分工場ニ負担シテ呉レトノ申入レアリ

夜清平來 一泊ス

前分クラブ会報校正 アト分原稿渡シ内金三十円渡シ二十円明日東京ニテ受取リタル上渡スコトトス

▲▼374ページ▲▼ 昭和8(1933)年12月26日(火)

天気 晴

伊藤西氏ト買物ニ鈴木上京セシム

西田來 バイプ(ガソリン)ノ取り方変更 佐藤休ミノ爲メ池本聞ク。夕方帰ル 福知氏來京ノ由

太田休ミ今少シノ處ニテ仕事ハカドラズ。張田一人今日夜業サセル カバー急グ爲メ保健課來 廿八日持参ノコト 丸正同ジク

仕事師三名大工一名前日ト同ジ 本日ニテ格納庫修理ヲ終ル

▲▼375ページ▲▼ 昭和8(1933)年12月27日(水)

天気 晴

鈴木昨夜帰ラズ今日ハ局へ寄ツテ居ルコトト思ツタニ寄ラズス帰ル 三時半デアッタノデスグ電話ヲカケサセル 書類ガマダ計(ママ)理カラ帰ツテ居ラナイトノコト 明日金出スヤ否ヤ不明。氣ノ利カナイ男ダ

東日へ電話スル 羽太氏昨日ヨリ病氣休ミ

福知大藏來テ今日ハ立川へ行ツタトノコト 入江氏ニ金ノ件タノンデ居ク

▲▼376ページ▲▼ 昭和8(1933)年12月28日(木)

天気 晴

朝羽田へ電話スルト西田ガ福知氏ガ金ヲ出セナイトノ話シデアッタトノコトニ之レハ大變。羽太氏休ンデ居ルノデ羽太氏ノ自宅へ行ク。前見積書ノ分ダケ呉レルトノコトデ足

リナイガコ、何ントカ方ツケルコトニシテ尚來年度ノ予定ヲ聞ク 大分修理ガアルノトラ
イアンノ改造モヤラレラシイデ先ツヨカッタ
帰宅前東日ニヨル 大蔵福知氏居テ挨拶ヲシ八時頃迄居テ帰ル

◆▼377ページ◆▼ 昭和8(1933)年12月29日(金)

天気晴

皇太子殿下御命名式 繼ノ宮明仁親王
今日ハ全部休業サセル

終日在所

朝日主催ノ奉祝飛行ニ安岡、外一機出場 朝風ツヨカッタガ八時予定通り海岸ヨリ出
発ス 鈴木ノ方ハオクレテ十時頃出タ
長サンエ久シ振りニ行キ三十円内拂ヒス 勘定ヲ取ルト五十二円余アリ。終ツテ調べ
ト十二円廿銭 壱分七年度分デ之レハ済ンデ居ル筈デアッタ。六〇六ヲ一本ヤツテ貰
フ。何ンダカ非常ニツカレタ

◆▼378ページ◆▼ 昭和8(1933)年12月30日(土)

天気晴

十時過ギヨリ上京 東日ダケニ行ツタガ今日ノ間ニ合ワズ皆待ツテ居ルダロウト思ツタ
ノデ宅へ電話ヲカケタ方帰ル

◆▼379ページ◆▼ 昭和8(1933)年12月31日(日)

天気晴

上京 平松君ニ行キ一三式三百円ニテ賣ルコトヲ取りキメ東日ニ行ク。待タサレテ二時
過ギ漸ク羽太君來 ソレカラスグ貰ツタガ岡田、佐藤、沢柳氏ニ支拂ヒヲナシ川崎第百
へ十五円持参シツヒデニ式百円小マカイモノニ取替エ大急ギデ帰宅

五時一寸前皆待チカネテ居タ 十二月分一月分ダケ分ケル。予相(ママ)外ノヤツガフ
エテ大坂ノ橋本へ十五日迄ニ送金スルコトトシテコトワリヲ出ス 佐野百円最後迄取ツテ
居イタガツヒニ待チキレズ結局九時過ギ終ツタラ四十五円程ノコル 之レカラ女中ヤ年
賀状代ヲ差引トナクナツテシマウコトニナツタ 支拂中ニ腹ガ立ツテ來タガアトニテ考ヘレ
バ、アレデモ今年ハ大分支拂ガ出來タダケ結構ダ

東日ノ富田、玉宮サンニ御歳暮ニ行ケナカッタノハ残念

十一時過ギ清平來

京都ヨリノ除夜ノ鐘ヲ聞イテ眠ル

◆◆380ページ◆◆補遺

(178ページから続く)

六月十九日分

北島氏ヲ大倉組ニ訪問シタガ予期ノ様ニ話シハ進マズ結局北島氏デハダメト、ワカッタノデヨイ加減ニシ野沢組ニ石橋ヲ訪問。ポップジョウイヲ取ツテ呉レテ僕ノ方デ機体ヲ作ルト云フ提携案ヲ持ち出ス。相談シテ居クトノコト。北島氏ニ川崎ノ竹崎氏上京シテ居ルトノコトヲ聞イタデ野沢組ヨリ川崎造船ニ行キ田中氏ニ會見ス。今日上京サレタバカリデマダ会ワナイトノコトニサルノ件ヨクタノシデ飯沼ニ会エズニ帰ル。軽飛行機ノ製作費ノ爲メ、地所ヲ佐渡島ニ買ツテ貫ヒ高橋ノ方ヲ方付ケ残りヲ製作費ニアテルコトノ方法。内国航空株式会社トシテ、タクシーノ会社ヲ作ルコト。之レハ佐渡島ニヤラセルノガヨイノダガ軽飛行機クラブノ財團法人モアルノデ児玉氏ト相談

◆◆381ページ◆◆補遺

(178 および188ページから続く)

シテ星野氏ノ招(ママ)介ダレカ、ヨイ出資者ヲ物色スル方法モヨカロウト考へ、其準備ヲナスコトトス

六月廿九日

朝津田沼ヨリ電話アリ 佐々木ノアプロ三百円デ引受ケテ呉レトノコト キメラレナイト回答サセル

夕方藤原君來。福知氏ヨリ今日夕方久氏ノ意見デ井上ガ明日帰ルカラ帰ツタ上ノコトニシタ方ガヨカロウトノコトデアッタノデ藤原君ニ其旨話シ尚念ノ爲メ調停ノ骨子トナル點ニツキ、佐々木氏ニアヤマルノデナク、違反事件ニツイテハ航空局大クシテハ国法ヲオカシタノダカラ天皇陛下ニオウビ申上ゲネバナラナイト云フト、ソレハシマストノコトデアッタ。尚免状ハ二三ヶ月オクレルカモシレナイコト、試験受ケテ一等ノ免状ヲ返シテ貰カ受験セズニ二等ヲ貰ツタ方ガヨイカ

◆◆382ページ◆◆補遺

(381ページから続く)

ト聞イテ見タラ一等ノ方ガヨイトノコトデアッタ。之レハ将来ノ参考トシテ聞イテ居ク